明治二十五年三月三十一日第三種郵便物認可

官報

號外

昭和六年三月十九日

○第五十九回帝國議會 貴族院議事速記錄第三十四號

昭和六年三月十八日(水曜日)午前十時十九分開議

議事日程　第三十四號
　昭和六年三月十八日
　　午前十時開議

第一　電氣事業法改正法律案(政府提出、衆議院送付)　第一讀會
第二　祐德軌道株式會社所屬軌道補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付)　第一讀會
第三　軍事救護法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)　第一讀會
第四　蠶絲業組合法案(政府提出、衆議院送付)　第一讀會
第五　蠶絲業法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)　第一讀會
第六　勞働組合法案(政府提出、衆議院送付)　第一讀會
第七　勞働爭議調停法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)　第一讀會
第八　「ロンドン」海軍條約實施ニ件フ海軍職工整理ニ關スル公債發行ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付)　第一讀會
第九　明治四十二年法律第二十二號中改正法律案(政府提出、衆議院送付)　第一讀會
第十　昭和四年度第一豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付)　會議
第十一　昭和四年度特別會計第一豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付)　會議
第十二　昭和四年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件追加(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付)　會議
第十三　昭和四年度特別會計第二豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付)　會議
第十四　昭和四年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件追加(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付)　會議
第十五　昭和五年度第二豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付)　會議
第十六　昭和五年度特別會計第二豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付)　會議
第十七　昭和五年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付)　會議
第十八　特別會計ニ於ケル營繕費ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付)　第一讀會ノ續
第十九　特別會計ノ恩給負擔金ヲ一般會計ニ繰入ルルコトニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付)　第一讀會ノ續
第二十　賠償金特別會計法廢止法律案(政府提出、衆議院送付)　第一讀會ノ續
第二十一　昭和四年度法律第二十六號中改正法律案(政府提出、衆議院送付)　第一讀會ノ續
第二十二　京都高等工藝學校移轉改築費ニ充用シタル金額ノ補塡ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付)　第一讀會ノ續
第二十三　製鐵所特別會計法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)　第一讀會ノ續
第二十四　簡易生命保險特別會計法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)　第一讀會ノ續
第二十五　違警罪卽決例中改正法律案(衆議院提出)　第一讀會
第二十六　學術研究ノ奬勵助長ニ關スル建議案(公爵一條實孝君外十二名發議)　會議
第二十七　一時金癈兵恩給法中改正ノ請願　會議
第二十八　菊川改修ノ請願　會議
第二十九　鍼灸醫師法制定ノ請願　會議
第三十　北海道色丹郡斜古丹村ニ無線電信施設ノ請願　會議
第三十一　樺太元泊郡知取町ニ區裁判所設置ノ請願　會議
第三十二　北海道落石燈臺ニ霧笛設置ノ請願　會議
第三十三　水產物冷藏奬勵ノ請願　會議
第三十四　秋刀魚漁期制限ノ請願　會議
第三十五　漁村金融ノ改善ニ關スル請願　會議
第三十六　郡市水產會技術員國庫補助ノ請願　會議
第三十七　水產物ノ鐵道運賃輕減ノ請願　會議
第三十八　軍人傷痍記章令中改正卽行ノ請願　會議

○議長(公爵德川家達君)　是ヨリ書記官ヲシテ諸般ノ報告ヲ致サセマス

〔小林書記官朗讀〕

昨十七日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

電氣事業法改正法律案
祐德軌道株式會社所屬軌道補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案
軍事救護法中改正法律案
蠶絲業組合法案
蠶絲業法中改正法律案
勞働組合法案
勞働爭議調停法中改正法律案
「ロンドン」海軍條約實施ニ伴フ海軍職工整理ニ關スル公債發行ニ關スル法律案
明治四十二年法律第二十二號中改正法律案
昭和四年度第一豫備金支出ノ件
昭和四年度特別會計第一豫備金支出ノ件
昭和四年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件追加
昭和四年度特別會計第二豫備金支出ノ件
昭和四年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件追加
昭和五年度第二豫備金支出ノ件
昭和五年度特別會計第二豫備金支出ノ件
昭和五年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算外支出ノ件
(以上、承諾ヲ求ムル件)

同日衆議院ヨリ左ノ議案ヲ提出セリ

違警罪卽決例中改正法律案

同日衆議院ヨリ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ハ同院ニ於テ之ヲ可決シ奏上セル旨ノ通牒ヲ受領セリ

瓦斯事業法中改正法律案
大正十三年法律第二號中改正法律案

本日自動車交通事業法案特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

委員長　子爵東園基光君
副委員長　男爵斯波忠三郎君

○**議長(公爵德川家達君)** 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス

○**男爵阪谷芳郎君** 本日ノ日程第二十六、學術研究ノ獎勵助長ニ關スル建議案、之ヲ第一ノ前ニ上程スルヤウニ、議事日程ノ變更ノ動議ヲ提出イタシマス

〔「贊成」ト呼フ者アリ〕

○**議長(公爵德川家達君)** 阪谷男爵ノ議事日程變更ノ動議ニ贊成者ガゴザイマシタカラ採決イタシマス、阪谷男爵ノ動議ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

〔起立者多數〕

○**議長(公爵德川家達君)** 過半數ト認メマス、政府ノ同意求メマス……政府ヨリ同意ヲ得マシタ

○**議長(公爵德川家達君)** 日程第二十六、公爵一條實孝君外十二名發議、會議、建議案ノ朗讀ハ省略イタシマシテ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○**議長(公爵德川家達君)** 御異議ナイト認メマス、阪谷男爵ノ登壇ヲ望ミマス

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ玆ニ載錄ス〕

學術研究ノ獎勵助長ニ關スル建議案

右貴族院規則第六十九條ニ依リ提出候也

昭和六年三月十四日

發議者
公爵一條實孝　侯爵中御門經恭
伯爵溝口直亮　男爵大井成元
子爵東園基光　佐藤三吉
新渡戶稻造　男爵阪谷芳郎
伊澤多喜男　南弘

倉知鐵吉　田所美治
田村新吉

贊成者
公爵鷹司信輔　侯爵西郷從德
侯爵佐佐木行忠　侯爵松平康昌
伯爵内田康哉　伯爵林博太郎
伯爵酒井忠克　伯爵堀田正恒
伯爵酒井忠正　子爵實吉安純
男爵木越安綱　子爵稻垣太祥
子爵高倉永則　子爵梅小路定行
子爵五辻治仲　子爵青木信光
子爵冷泉爲勇　子爵柳生俊久
子爵池田政時　子爵西大路吉光
子爵吉田清風　子爵立花種忠
子爵秋月種英　子爵伊東祐弘
子爵片桐貞央　子爵大河内輝耕
子爵八條隆正　子爵保科正昭
子爵曾我祐邦　子爵井伊直方
子爵花房太郎　子爵三室戶敬光
子爵牧野一成　子爵西尾忠方
子爵裏松友光　子爵森俊成
子爵毛利元恒　子爵米倉昌達
子爵舟橋清賢　子爵土岐章
子爵綾小路護　男爵北里柴三郎
田中館愛橘　渡邊暢
大島健一　男爵坂本俊篤
土方寧　藤澤利喜太郎
眞野文二　石塚英藏
水野錬太郎　男爵平野長祥
男爵鍋島直明　男爵小原駩吉
松浦鎭次郎　有吉忠一
男爵神山郡昭　男爵長松篤棐
小松謙次郎　若槻禮次郎
内田嘉吉　三井清一郎
内田重成　男爵上田兵吉
上山滿之進　男爵北大路實信
男爵今枝直規　小野塚喜平次
男爵千田嘉平　男爵斯波忠三郎
男爵中島久萬吉　男爵千秋季隆
男爵北河原公平　男爵福原俊丸
男爵郷誠之助　男爵金子有道
男爵小畑大太郎　男爵有地藤三郎
男爵黑田長和　男爵井田磐楠
男爵岩倉道倶　男爵今園國貞
男爵池田長康　男爵伊藤文吉
男爵足立豐　男爵松尾義夫
男爵松岡均平　男爵寺島敏三
男爵井上清純　男爵高崎弓彦
男爵伊江朝助　男爵中村謙一
男爵周布兼道　男爵近藤滋彌
男爵北島貴孝　男爵沖貞男
男爵關義壽　男爵三須精一
男爵稻田昌植　男爵佐藤達次郎
男爵大寺純藏　男爵園田武彦
男爵渡邊修二　男爵深尾隆太郎
原保太郎　三宅秀
中村純九郎　岡崎邦輔
福永吉之助　阪本釤之助
片岡直温　石渡敏一
鍋島桂次郎　藤田四郎
竹越與三郎　松本烝治
川上親晴　中川小十郎
湯地幸平　赤池濃
長岡隆一郎　加藤政之助
大津淳一郎　小久保喜七
樺山資英　松村義一
馬越恭平　服部金太郎
米村清四郎　大橋新太郎
稻畑勝太郎　伊澤平左衛門
尾崎元次郎　石川三郎
村山龍平　本山彦一
關直彦　林平四郎
大川平三郎　坂田貞
小塩八郎右衛門　齋藤善八
花井卓藏　八木春樹
佐藤信古　松本勝太郎
田中一馬　野村德七
小林暢　絲原武太郎
本間千代吉　男爵渡邊汀

貴族院議長公爵德川家達殿

學術研究ノ獎勵助長ニ關スル建議

國勢進展ノ根本方策トシテ政府ハ學術研究ノ獎勵助長ニ關シ速ニ適當ナル對策ヲ講ゼラレンコトヲ望ム

右建議ス

〔男爵阪谷芳郎君演壇ニ登ル〕

○**男爵阪谷芳郎君** 只今日程ニ上ボリマシタ建議案デゴザイマスルガ、是ハ誠ニ明白ナ事柄デゴザイマシテ、趣旨ハ極メテ明瞭ト存ジマス、唯、今日此建議ヲ必要トスル所以ハ、今年度ノ豫算ノ上ニ見マシテモ、政府ハ經費節約ニ努メラレタ結果ト致シマシテ、十把一束ニ矢張リ此學術研究ニ關スル費用ヲモ削減ニナッテ居リマス、誠ニ其金額ハ小サイモノデゴザイマスルケレドモ、非常ニ其結果カラ見ルト惜シイコトガ多々アルヤウニ存ゼラレマス、ソレカラ又今年度ノ豫算バカリデナク、來年度ノ豫算、即チ過日玆ニ本院ヲ通過イタシマシタ豫算ニモアリマスル通リ、政府ハ次ノ、即チ七年度以降ノ豫算ニ付テハ大イニ財政行政ノ整理ヲシテ、中央地方ヲ通ジテ、大ナル財政行政ノ整理改革ヲ斷行セラレムトスル趣キデアリマス、デ其場合ニ於キマシテ、又再ビ學術研究ニ關シマスル費用迄モ斧鉞ヲ加ヘラルト云フコトデアッテハ、非常ニ殘念ナコトニ我々ハ考ヘルノデアリマス、國家ノ進歩ハ各民族、人類ノ努力ニ俟ツノデアリマシテ、日進月歩互ニ此進歩ヲ爭ッテ居ル譯デアル、ソレデ世界大戰後ノ結果ニ見マスルニ、何レノ國モ非常ナ財政ノ困難ニ遭遇イタシテ居ル、世界ノ最モ富ンダ國ト雖モ、非常ナ財政困難ニ遭遇イタシテ居リ、又戰敗國トシテハ最モ財政困難ニ遭遇イタシテ居ルニモ拘ラズ、此學術研究ノコトニ付キマシテハ、皆其費用ヲ惜マズニヤッテ居ルト云フコトハ明カデアリマス、是ハ要スルニ進歩ヲ競フ上ニ於テハ、現代ヨリモ一歩々々先キニ出ヅルト云フコトヨリ外ニ、他ニ勝ルト云フ道ガナイノデアリマス、カラ、此研究ニ重キヲ置クト云フコトハ當

然ノコトデアリマス、殊ニ獨逸ノ如キハ教育ノ方法マデモ一變シテ居ル、天才教育、即チ天才ヲ助長スルト云フ、此天才教育ノ方ニ、教育ノ方針マデモ改メテ之ヲ斷行シツヽアルト云フ次第デアリマス、元來獨逸ハ從來ト雖モ非常ニ此學術ノ研究ニハ意ヲ用井タノデアリマス、獨逸ノ國柄ハ御承知ノ如クニ決シテ天惠ニ富ンダ國デハナイ、國内ニ豐富ナ石油ガアルデモナク、硝石ガアルデモナク、食糧ト雖モ支ヘルコトガ……輸入ニ仰ガナケレバナラヌト云フヤウナ、所謂天惠カラ申セバ寧ロ少イ國デアル、然ルニ歐洲大戰四年間ニ亙リマシテ、四面敵ヲ受ケ、其四面ノ敵ヲ撃破シ、或場合ニハ非常ナ勢ヒヲ以テ巴里マデモ陷落セムトスル位マデモ働イタノデアリマスルガ、結局戰敗ニ終ッタケレドモデス、此四年間ニ於テ其國内ニ無イ物資ヲ學術研究ノ結果ニ依ッテ之ヲ支ヘ來ッタト云フコトハ實ニ驚クベキコトデアリマス、私モ戰爭中ニ歐羅巴ニ參リマシテ、其事情ヲ實際ニ見聞イタシタノデアリマスルガ、食物ノ不足カラ、油ノ不足カラ、又金屬類ノ不足カラ、色々ナ物ヲ色々ニ研究工夫シテ、之ヲ供給シテ四年ノ久シキニ堪ヘタ、而シテ戰敗後ノ今日ニ於テハ更ニ此研究ニ重キヲ置キテ國家ノ立直シヲスル、詰リ獨逸ノ今日ヲ立直スノハ學術研究ニ重キヲ置カザルヲ得ヌト云フコトデヤッテ居ルノデアリマス、又米國ハ之ニ反シテ非常ニ此天惠ニ富ンダ國デアル、天惠ニ富ンダ國デアルガ、米國ニハ人口ガ比較的今日マデ少ナカッタノデアリマスルガ、是亦學術研究ニ重キヲ置イテ頻リニ此發明ヲ奬勵シテ、既ニ有スル富源ヲ開發シテ今日ノ大ヲ成シタノデアリマス、ソレデ今日ノ我國ノ教育ノ方法ニ付テ論ジマスルト、教育ノ制度トシテハ殆ド十分ト申シテモ宜カラウ、既ニ今日ニ於テモ教育費ガ多イトカ、或ハ高等學校ノ數ガ多過ギルトカ云フヤウナ論ガ出ル位デアリマス、私ハ決シテソレヲ贊成スルト云フ意味デハアリマセヌガ、兎ニ角日本ノ國民教育、又高等教育ト云フモノハ餘程進ンデ居ル、又普及イタシテ居ルノデアリマスルガ、今日我々ガ建議セムトスル所ノ學術ノ研究ト云フ方面ニ於テハ缺ケテ居リマス、是ハ甚ダ遺憾ナコトニ存ズル次第デアリマシテ、今後ノ日本ノ政策トシテハ、學術研究ト云フコトニ重キヲ置イテ行カナケレバナラヌ、世間デハ一般ニ教育、成程教育ト言ヘバ廣イ意味デ含マレル譯デアリマスルケレドモ、唯、學校デ以テ人ヲ教育シテ行クト云フノト、其教育ニ依ッテ成レル人才ノ知識ヲ研究ノ方ニ振向ケテ行ッテ、所謂發明ヲ盛ニスル、是ハソコニ心ノ用井所ガ違ウノデアリマス、今後ノ我國ノ必要ハ、此研究ト云フコトニドウシテモ重キヲ置カナケレバナラヌ、然ルニドウモ日本ノ政府ト言ハズ、又民間ト言ハズ、此研究ト云フコトヲ輕ンズル意味デハアリマスマイガ、決シテ重ジテ居ラナイ、政府ノ行政整理ト云フ改革ニ致シマシテモ、亦民間デ會社其他デ行フ改革ニシテモ、此研究ト云フモノヲ無駄ナモノノヤウニ考ヘル、マア研究ト云フヤウナ暇ノ掛カルコトハ、是ハ先ヅ削減シテ置カウト云フヤウニ、其大事ナ、最モ大事ニセネバナラヌ研究ト云フコトヲ後ニシテ、サウシテマア會社デ申セバ配當ノ方ヲ多クシヤウ、政府デモマア研究ハ是ハ唯學者ガ暇ニマカシテヤルノダカラト云フヤウナ、悉クサウデアルト云フ意味デアリマセヌケレドモ、ドウモ日本ノ政府、又民間ノ氣風ガ研究ニ重キヲ置ク、又研究ヲ基礎トセネバナラヌト云フコトガ、口ニハ言フケレドモ、實際ガソレニ伴ッテ居ラヌト云フコトノ感ガ多イノデアリマス、併シ今日ト致シマシテハ餘程日本ノ知識ガ一般ニ進ンデ參リマシテ、是マデ發明ト云フコトニ於キマシテモ餘リ立派ナ發明ガ出ナカッタノデアリマスガ、近來ハ段々立派ナ發明モ出ルヤウニナッテ參リマシテ、近來政府モ民間モ盛ニ唱ヘテ居ル所ノ、詰リ國産奬勵、國産愛用ト云フコトガ近來我國官民ノ「モットー」ニナリマシタノデスガ、從來矢張リ國産奬勵トカ國産愛用ト云フコトモ屢〻言ハレタノデアリマスケレドモ、其當時ニハ實際口ニハ言フケレドモ、日本デ物ノ良イモノガ出來ナカッタ、然ルニ歐洲大戰中ヨリ日本ノ學藝技術ガ非常ニ進ンデ參ッテ、立派ナ品物ガ日本デ出來ルバカリデナク、日本デ出來ル品物ヲ海外ヘ供給スル、歐羅巴ヘマデモ輸出スルト云フヤウニナッテ參ッタノデアリマス、又發明ニ致シマシテモ、前申ス通リニ段々世界的ノ發明ガ出ルヤウニナッテ參ッタ、現ニ一二例ヲ擧ゲテ申セバ、豐田ト云フ人ノ自動織機ノ如キハ英吉利ノ方ヘ其特許ガ買ハレテ、英吉利ノ方ノ有名ナ織場デ以テ豐田式ノ織機ヲ用ヒルト云フヤウニナッテ居ル、又京都ノ島津源藏サンノ蓄電池ニ用ヒマスル所ノ鉛ノ粉ノ製造法ト云フモノハ、是亦世界的ノ發明デアリマシテ、亞米利加ノ方デモ其發明ヲ買ッテ參ッタ、詰リ斯ウ云フ例ハ外ニモ段々ゴザイマスガ、近年ニ於テ著シイノデアリマス、殊ニ畏イコトデゴザイマスガ、今上陛下ニハ踐祚ノ詔ニ於テ「模擬ヲ戒メ創造ニ勗メヨ」詰リ日本ハ今マデ多ク海外ノ後ヲ追隨シタノデアルケレドモ、今後ハ國民トシテ「オリヂナリチー」創造ト云フコトニ努メナケレバナラヌト云フ御言葉ヲ下シ賜ッタノデゴザイマス、陛下ニハ畏イコトデゴザイマスガ、御自身自カラ宮中ニ研究所ヲ御設ケニナッテ、食物其他ノ御研究ヲ遊バシ、身ヲ以テ發明研究ヲ御奬勵遊バスト云フコトデアリマス、昨年ハ宮中ニ發明家ヲ御召シニナルト云フヤウナ御優待マデ賜ハリマシタヤウナコトデ、誠ニ今日ノ時勢ヲ御洞觀遊バサレタ大御心ニハ感佩ノ外ハナイノデアリマス、サウ云フヤウナ次第デ、政府ニ於テモ亦商工省ニ於テモ、發明ノコトハ努メテ居ラレマスガ、ドウモ此現在ノ下ニ於キマシテハ、研究ノ機關ガアッテモ其連絡ガ十分デナイ、費用ガ足ラナイ、所謂統制ト云フモノガ十分デナイ、而シテ折角發明ガ出來テモ、其發明ヲ保護スル、奬勵スル機關、法律ト云フモノガマダ十分デアリマセヌ、ソレ故ニ近年往々耳ニ致シマスノハ、日本デ折角出來タ良イ發明ガ、日本ノ資本家ニ容レラレナイガ爲ニ、外國ヘソレヲ持チ出スト云フヤウナコトヲ往々聞キマス、此發明ト申シマスルモノハ丁度卞和之璧……支那ノ話ニアル卞和之璧見タヤウナモノデ、其璧ガ、十分ニ磨カナケレバ中ニ非常ニ貴重ナ璧ガアルト云フコトガ分ラヌ、卞和ガ璧ヲ懷イテ足ヲ切ラレ、手ヲ切ラレ、コ、ナ僞リ者ダト言ハレテ、山ノ中デ泣イテ死ンダト云フヤウナコトガ支那ノ物語ノ中ニアリマスルガ、丁度今日ノ研究家ガ折角良イ發明ヲシ、良イ研究ヲ積ンデ、折角良イ物ガ出來テモ世間ニ容レラレルマデニ非常ニ苦心ガアリマス、ソレガ爲ニ特許局モアリ、特許法モアルノデアリマスルケレドモ、未ダ是等ノ制度、法律ト云フモノニ完全ナラザル所ガアル、ソコデドウシテモ學術ノ研究ト云フコトガ現在ノ儘デアッテモ、ソコニ統一連絡ト云フモノガモウ少シ十分行カネバナラヌ、現在東京ノ市内、東京府下デモ大方官民ノ研究所ヲ悉ク入レラレマシタラ六百位アルデセウケレドモ、其連絡ガ十分ナイ、ソレダカラ日本ノ學者ノ醫學上ノ發明ノ中ニハ、却ッテ其人ガ獨逸ノ研究所ニ於テ發明シタト云フヤウナモノガ段々アル、即チ向フデハ研究所ナド能ク備ッテ居ル、日本デハソレガ備ッテ居ラヌト云フヤウナ結果カラ、日本ノ學者デアッテ却ッテ獨逸ノ研究所ヘ行ッテ發明シタト云フヤウナコトガアルノデアリマス、ソレデ此發明特許ノ出願、其他ニ付テ比較シテ見マシテモ、日本ハ決シテ今日質ニ於テ、若クハ量ニ於テ他國ニ優ッテ居ルト云フ譯ニハ行カナイ、遙カニ遜色ガアル

ノデアリマス、是等ノコトハ餘程今後政府ガ注意シナケレバナラヌ、單リ政府バカリデハナイ、官民共ニ此學術研究ニ重キヲ置イテ、其學術研究ヲ益〻助長スルヤウニ努メナケレバナラヌコトデアラウト思フ、ソレガロニハサウ云フケレドモ、精神ガマダソコニ徹底シテ居ラヌ、茲ニ於テ此建議案ニ依ッテ十分其精神ヲ徹底セシメ、今後ノ根本義、此方針ニ依ッテ今後官民共ニ行カナケレバナラヌ、政府ガ大ナル行政整理、財政整理ヲスルニシテモ此根本方則ニ戻ラナイヤウニシナケレバナラヌ、斯ウ云フ事ヲ今日貴族院ニ於テ全會一致デ決議シテ置タト云フコトハ、非常ニ今後我國ノ發展ノ上ニ一紀元ヲ畫スルコトデハナイカト信ズルノデアリマス、色〻此發明ノコト、發明奬勵ノコト、又學術研究奬勵ノコトニ付キマシテハ、外國ノ例モ澤山ニゴザイマスケレドモ、外國ノ事ヲ別ニ茲ニ管々シク申上ゲル必要ハナイ、皆サンハ十分ニ學術研究ノ必要ト云フコトハ御認メ下サルコトト思フノデアリマス、今日議事輻湊イタシテ居ル際デゴザイマスカラ、私ノ提案ノ理由ハ此邊ニ止メテ置キマス、ドウカ全會一致御贊成アラムコトヲ偏ニ御願ヒ申シマス次第デアリマス

〔子爵東園基光君演壇ニ登ル〕

○子爵東園基光君　私ハ只今阪谷男爵ヨリ縷々御説明ニナリマシタ、學術研究ノ奬勵助長ニ關シマスル建議案ニ贊成ヲ致シマス者デアリマス、會期モ甚ダ切迫イタシテ居ル時デアリマスルカラ、極メテ簡單ニ贊成ノ趣旨ヲ申上ゲテ置キタイト存ジマス、本案ノ理由ニ付キマシテハ、最早男爵ヨリ詳細ナル御説明ガゴザイマシタカラ、今更新シタ附加ヘマスモノハナイノデアリマスルガ、誠ニ此學術ノ研究ハ一國ノ文明ノ度ヲ測リマス一ツノ尺度デアリマス、又廣ク人類ヨリ見渡シマスレバ、誠ニ福祉ノ源泉デアルノデアリマス、我國ノ昨今ノ財界、事業界等ノ極メテ不振デアリマスルニ方リマシテハ、今日ニ於キマシテ最早經濟界ノ問題ニ止マリマセヌデ、社會上ノ問題、政治上ノ問題ニ及ンデ居ルノデアリマス、是等ニ對シマシテ種々ナル對策ガ論議セラレテ居リマスルケレドモ、未ダ其根本ヲ穿チマス所ノ對策ガ設ケラレテ居ラヌノデアリマス、學術研究ハ之ヲ實際社會ニ對比イタシマスレバ、即チ個人トシテハ或ハ衣食住ノ改善ニモナリ、或ハ又廣ク産業ノ隆興ノ基ヲ成スモノデアリマス、又軍事ト致シマシテハ申ス迄モナク、或ハ兵器其他ノ發明ニ依ッテ國防ノ充實ヲ期セラルルノニ依ルノデアリマス、先刻男爵ヨリモ例ヲ御擧ゲニナリマシテアリマスルガ、戰敗後ノ獨逸ノ國家ト致シマシテハ、我國ノ目下ノ狀況ガ非常ニ不況デアルト云フコトハ勿論デアリマスルケレドモ、中々是等ニ比スベキモノデハナイノデアリマス、此樣ナ時ニ方リマシテ、全ク國民ノ覺悟ト云フモノガ眞劍ニナッタノデアリマス、御承知ノ如ク通貨ハ其價格ヲ非常ニ慘落イタシマシテ、全ク國民ノ財産ヲ奪ヒ去ルト云フヤウナ狀況デアリ、又各營利會社ノ如キハ純益ノ大部分ト云フモノハ租税ニ取上ゲラルルト云フヤウナ有樣デアルノデアリマス、斯ノ如キ時ニ於テコソ、眞ニ國民ガ眞面目ナル眞劍ナル研究ニ向フト云フノハ尤ナコトデアルト考ヘルノデアリマス、此樣ナ時ニ於キマシテ、勿論、或ハ租税ノ輕減モ必要デアリマセウ、又各種事業ニ對シマスル國家ノ補助等モ必要デアリマセウケレドモ、更ニ大切ナル問題ハ、根本トシテ、國家ノ將來ニ對シマシテ、或ハ人材ノ養成、學者ノ研究等ヲ一層導キマスコトハ、一刻モ忘ルルコトノ出來ナイ問題デアルノデアリマス、世界大戰後ノ諸國ニ於キマシテハ、各方面ニ、政府ト言ハズ民間ト言ハズ、如何ニシテ將來國家ノ基礎ヲ定ムベキカト云フコトニ付キマシテノ研究ハ、期セズシテ學術ノ研究ト云フコトニ一致シタノデアリマス、金類ノコトヲ申シテ如何カト存ジマスガ、先刻モ男爵ノ御話ガアリマシタ通リ、獨逸等ニ於キマシテモ、アノ悲慘ナル所ノ戰敗ノ後ヲ承ケマシテモ、尙ホ年々特別ニ研究費ト致シマシテ、八百万馬克餘ノ費用ヲ支出イタシテ居ルノデアリマス、尙ホ又戰前ニアリマシタ所ノ、所謂「カイザー・ウヰルヘルム」ノ研究所デアリマスカ、是等ノ數ヲ非常ニ殖ヤサレマシテ、之ニ又特ニ五百万馬克餘ノ費用ヲ研究ノ爲ニ出サレテ居ルノデアリマス、此樣ナ、國家ノ基礎ガ如何ニナルカ、國家ノ存亡ガドウデアルカト云フ時期ニ於キマシテモ、尙ホ國家將來ノ爲ニ學術ノ研究ヲ怠ルコトナク、未來ノ健全ナル國家、隆昌ナル國家ヲ建設シマス上ニ於テ、一刻モ此觀念ヲ忘レナカッタノデアリマス、勿論、人ガ大病イタシマシテ、種々ナル治療ヲ致シマス場合ニモ、固ヨリ健康ノ基礎ヲ圖リマスニ付テ種々ナルコトモアリマセウケレドモ、亦焦眉ノ急ト致シマシテ病勢ノ緩和ヲ圖ルコトガ必要デアリマスト同樣ニ、勿論生活ノ脅威等ヲ緩和イタシマス爲ニ、或ハ租税ノ輕減デアルトカ、其他種々ナルコトモ固ヨリ必要ナコトデアルト存ジマス、併ナガラ根本ノ國家ノ培養ニ付キマシテハ、全ク人材養成、學術研究ヲ以チマシテ、將來ノ國家ニ俟ツト云フコトノ堅イ眞面目ナル決心ニ出發シナケレバ、前途誠ニ國家ノ爲ニ深憂ニ堪ヘナイノデアリマス、獨逸ノ如キハ申ス迄モナク、學術ノ先進國デアリマスルガ、其他、先刻阪谷男爵ノ御話ニアリマシタ通リ、亞米利加ニ於テモ然リ、又英國ノ如キニ於テモ特別ナル研究所ヲ設ケラレ、此爲ニ年々又數百万圓ノ費用ヲ投ジテ居ルノデアリマス、又小國デ申シマスレバ、白耳義ノ如キ、是ハモウ戰爭ノ慘禍ノミヲ受ケテ何等利スル所ノナイ、幸ウジテ餘命ヲ保ツト云フヤウナ白耳義ニ於キマシテモ、國王陛下ノ特別ノ御提唱ニ依リマシテ、三四年前デアリマシタカ、特ニ研究者養成ノ爲ニ非常ナ御努力ガアリマシテ、官民相集リマシテ、一億數千万法ノ醵金ヲ得タヤウナ次第デアリマス、翻ッテ我國ノ現況ヲ眺メマスルト、御承知ノ通リ、理化學研究所ナルモノガゴザイマスルケレドモ、僅ニ二十數万圓ノ費用ヲ以テ仕事ヲ致シテ居ルノデアリマス、又其他文部省ニ於キマシテ、自然科學ノ研究奬勵費、或ハ精神科學ノ研究奬勵費等モゴザリマスルガ、是等ヲ合シマシテモ僅ニ十万圓餘ニ止ッテ居ルノデアリマス、現在ノ不況ニ當リマシテ、所謂緊縮政策モ勿論必要ナコトデアリマセウ、併ナガラ此不況ヲ永遠ニ救濟イタシマスルト云フコトハ、即チ國力ノ伸張ヲ圖リマスル最モ其根幹トナリマスル所ノ學術研究ヲ忘レルコトハ出來ナイノデアリマス、明治ノ初年以來、文明ノ輸入ト共ニ、各般ノ教育ヲ振興セラレ、種々ナル方面ノ努力ガアリマシタケレドモ、未ダ我國ニ於キマシテ、工業ト致シテモ、世界ニ誇リマスルコトハ、誠ニ僅少ナモノデアリマス、或ハ民間ニ於キマシテ大工業ガ起リマシテモ、是等モ全ク輸入ニ過ギナイノデアリマス、大體、今日ノ學者又ハ技術者等ニ對シマシテ、往々ニシテ其重要ナル職責ノアルコトヲ、所謂政治家方面ヨリ輕ンゼラル、虞レガアルノデアリマス、然ラバ我國ノ所謂學者、研究者ハ、何カ特殊ナル劣ル所ノ理由ガアル、デアルカト云フコトヲ考ヘナケレバナラヌノデアリマス、併ナガラ諸君ノ御觀察ノ通リ、我ガ國ノ所謂學者、研究者等ニ於テ、決シテ他國ニ比シテ敢テ劣ル所ノアルモノヲ見ナイノデアリマス、然ラバ之ニ對シテ更ニ有力ナル確乎タル將來ヲ有ラシメルノニハ、何カ大ナル力ヲ以テ之ヲ致ハナケレバナラヌ、即チ國家ハ是等ノ學者ノ養成、研究ニ對シマシテ特段ナル力ヲ加ヘマセヌケレバ、決シテ現在ノ儘ニ放任スルコトガ出來ナイノデアリマス、現今、

各種ノ大工業等ヲ見渡シマシテモ、最早、今日ニ於キマシテハ、應用ノ學問位デハ決シテ前途ヲ樂シムコトガ出來ナイノデアリマス、ドウシテモ純正ナル科學ノ力ニ依ルコトガ極メテ多イノデアリマス、是等ヲ考ヘマシテモ、我國ノ將來、國本ノ確立ニ付キマシテハ學術ノ研究ヲ決シテ忽セニ出來ナイト云フコトハ最早明瞭デアルト存ズルノデアリマス、ドウカ本建議案ハ本院ノ滿場一致ノ御贊成ヲ得マシテ、之ニ依ッテ政府ハ獨リ是ハ現政府ノミデナイノデアリマス、帝國ノ政府ノ方針ト致サレマシテ、所謂獨創的學者ノ養成或ハ發明研究ノ奬勵、或ハ官民ヲ問ハズ、各種團體ノ援助ヲセラレマス等、國家ノ基礎ニ對シテ確乎拔クベカラザル所ノ力ヲ與ヘラレルコトヲ深甚ニ祈ル次第デアリマス、最早提出者ニ於カレマシテ十分ニ御說明モゴザイマシタコトデ、私ハ單ニ贊成ノ意ヲ表シマシテ聊カ所見ヲ加ヘマシテ、茲ニ諸君ノ御淸聽ヲ汚シタ次第デアリマス

○議長（公爵德川家達君）　本建議案ニ付キ他ニ發言者モナイト認メマスカラ採決ヲ致シマス、本建議案ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

〔總員起立〕

○議長（公爵德川家達君）　全會一致ト認メマス

○議長（公爵德川家達君）　日程第一、電氣事業法改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、遞信省政務次官中村啓次郎君

電氣事業法改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和六年三月十七日

衆議院議長　藤澤幾之輔

貴族院議長公爵德川家達殿

電氣事業法改正法律案

（小字及━━ハ衆議院ノ修正ナリ）

電氣事業法

第一條　本法ニ於テ電氣事業ト稱スルハ左ニ揭グルモノヲ謂フ

一　一般ノ需用ニ應ジ電氣ヲ供給スル事業

二　一般運送ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌道ノ動力ニ電氣ヲ使用スル事業

三　第一號又ハ前號ノ事業ニ電氣ヲ供給スル事業

第二條　本法ニ於テ電氣工作物ト稱スルハ電氣ノ供給又ハ使用ノ爲施設スル水路、貯水池、器具、機械、電線路其ノ他ノ工作物ニシテ電氣事業ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

前項ニ於テ電線路ト稱スルハ電氣ノ傳送ニ用フル電氣導體及之ヲ支持シ又ハ保藏スル工作物ヲ謂フ

第三條　電氣事業ヲ營マントスル者ハ左ノ書類ヲ具シ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

一　起業目論見書

二　工事設計書

三　工事費概算書

四　事業上ノ收支概算書

電氣事業者前項ノ書類ニ揭グル事項中重要ナルモノヲ變更セントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

第四條　電氣事業者ハ主務大臣ノ指定スル期間內ニ工事施行ノ認可ヲ申請シ、工事ニ著手シ及其ノ事業ヲ開始スベシ

主務大臣ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限リ前項ノ期間ノ伸長ヲ許可スルコトヲ得

第五條　電氣事業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ工事ヲ施行シ又ハ電氣工作物ヲ使用スルコトヲ得ズ

第六條　電氣事業者ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ他人ノ土地ニ立入リ電氣工作物ノ施設ニ關スル調査若ハ測量ヲ爲シ又ハ工事ノ爲他人ノ土地ニ立入ルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ少クトモ五日前ニ市町村長ニ其ノ日時及場所ヲ通知シ市町村長ハ之ヲ告示シ又ハ其ノ旨ヲ土地ノ占有者ニ通知スベシ

電氣事業者ハ電氣工作物ノ修理又ハ巡視ノ爲必要アルトキハ其ノ工作物ヲ施設シタル他人ノ土地又ハ建造物ニ立入ルコトヲ得但シ日沒ヨリ日出迄ノ間ニ於テハ危險急迫ノ場合ニ非ザレバ占有者ノ意ニ反シテ邸宅又ハ建造物ニ立入ルコトヲ得ズ

第七條　電氣事業者ハ必要アルトキハ電線路ノ施設又ハ保守ニ障害ヲ及ボスベキ植物ヲ伐除シ又ハ移植スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ植物ノ所有者ト協議スベシ協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ之ヲ伐除シ又ハ移植スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ豫メ其ノ旨ヲ植物ノ所有者ニ通知スベシ

危險急迫ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ前項ノ規定ニ拘ラズ直ニ植物ヲ伐除シ又ハ移植スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ遲滯ナク其ノ旨ヲ行政官廳ニ屆出デ且植物ノ所有者ニ通知スベシ

第八條　電氣事業者ハ道路、橋梁、溝渠、河川、堤防其ノ他公共ノ用ニ供セラルル土地ノ地上又ハ地中ニ電線路ヲ施設スル必要アルトキハ其ノ效用ヲ妨ゲザル限度ニ於テ其ノ管理者ノ許可ヲ受ケテ之ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ管理者ノ定ムル所ニ依リ使用料ヲ納ムベシ

管理者正當ノ事由ナクシテ第一項ノ許可ヲ拒ミタルトキ又ハ管理者ノ定メタル使用料ノ額ヲ不相當ナリトスルトキハ主務大臣ハ電氣事業者ノ申請ニ依リ使用ヲ許可シ又ハ使用料ノ額ヲ定ムルコトヲ得

前三項ノ規定ハ道路法ニ依ル道路及其ノ附屬物竝ニ道路法第七條ノ規定ニ依リ同法ノ規定ヲ準用スル道路及其ノ附屬物ト爲ルベキモノニ關シテハ之ヲ適用セズ

第九條　電氣事業者ハ必要アルトキハ現在ノ使用方法ヲ妨ゲザル限度ニ於テ他人ノ土地ノ地上ノ空間若ハ地中ニ電線路ヲ施設シ又ハ建造物ノ存在セザル他人ノ土地ニ電線ノ支持物ヲ建設スルコトヲ得

電氣事業者前項ノ規定ニ依リ他人ノ土地ヲ使用セントスル場合ニ於テハ其ノ所有者及占有者ト協議スベシ協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ其ノ使用ノ範圍ヲ定メ豫メ地方長官ノ許可ヲ受ケテ其ノ工事ニ著手スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ少クトモ五日前ニ其ノ旨ヲ土地ノ所有者及占有者ニ通知スベシ

第十條　第六條、第七條及前條ノ場合ニ於テ現ニ生ジタル損失ハ電氣事業者之ヲ補償スベシ

前項ノ補償金額ハ當事者間ノ協議ニ依ル協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ許可ヲ爲シタル行政官廳之ヲ裁定ス裁定ニ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月內ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

行政官廳ハ必要アリト認ムルトキハ電氣事業者ヲシテ損失ノ補償ニ充ツベキ金額ヲ供託セシムルコトヲ得

第十一條　電線路ヲ施設シタル土地ノ近接地又ハ第九條ノ規定ニ依リ電線路ヲ施設シタル土地ノ所有者又ハ占有者ハ土地ノ使用方法ヲ變更スル爲必要アル

トキハ命令ノ定ムル所ニ依リ電氣事業者ニ對シ障害ノ豫防又ハ除却ニ必要ナル方法ヲ施スコトヲ請求スルコトヲ得

前項ノ工事ニ要スル費用ハ勅令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外電氣事業者ノ負擔トス但シ其ノ工事ヲ爲シタル後正當ノ事由ナクシテ豫定ノ變更ヲ爲サザルトキハ請求者ノ負擔トス

第十二條　電氣事業者ハ地中電氣工作物ヲ施設スル場合ニ於テ他人ニ屬スル地中電氣工作物ノ位置ヲ變更スル必要アルトキハ當該工作物ノ效用ヲ妨ゲザル限度ニ於テ其ノ位置ヲ變更シ又ハ其ノ工作物ノ所有者ヲシテ其ノ變更ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ工作物ノ所有者ト協議スベシ協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

第十三條　電氣工作物相互間及電氣工作物ト其ノ他ノ工作物トノ間ニ於ケル障害防止ノ爲必要ナル施設ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　前二條ニ規定スル工事又ハ施設ニ關スル費用ノ負擔、損失ノ補償其ノ他ノ事項ハ命令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外當事者間ノ協議ニ依ル協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ主務大臣之ヲ裁定ス

電氣工作物ト其ノ他ノ工作物トノ間ニ關スル裁定中負擔金額又ハ補償金額ニ付不服アル者ハ裁定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月內ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十五條　電氣事業者ハ正當ノ事由アルニ非ザレバ電氣ノ供給ヲ拒ムコトヲ得ズ

電燈ノ光度、供給斷ニ於テ保持スベキ電壓、周波數、電氣工作物其ノ他供給業務ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條　電氣事業者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ供給事業ノ全部又ハ一部ヲ休止シ又ハ廢止スルコトヲ得ズ

第一條第一號又ハ第三號ノ電氣事業會社ノ解散ノ決議又ハ總社員ノ同意ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十七條　電氣事業者電氣料金其ノ他供給條件ヲ設定シ又ハ變更セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ電氣事業者ニ對シ電氣料金其ノ他供給條件ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十八條　第一條第一號又ハ第三號ノ電氣事業會社ハ事業擴張ノ場合ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル電氣工作物施設ノ費用ニ充ツル爲株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ增加スルコトヲ得

第十九條　第一條第一號又ハ第三號ノ電氣事業會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル電氣工作物施設ノ費用ニ充ツル爲商法第二百條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得

但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財產ガ拂込ミタル株金額ニ滿タザルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付テハ工場抵當法ニ依リ會社ノ事業ニ屬スルモノヲ抵當ト爲スコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ主務大臣其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十條　電氣事業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主任技術者ヲ選任シ技術ニ關スル事項ヲ擔任セシムベシ

主務大臣ハ主任技術者ガ其ノ職務ヲ怠リ又ハ其ノ職務ヲ行フニ當リ不當ナル行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ解任ヲ命ズルコトヲ得

第二十一條　第一條第一號又ハ第三號ノ電氣事業會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ他ノ事業ヲ營ムコトヲ得ズ

第二十二條　電氣事業ノ會計ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條　行政官廳ハ電氣事業者ニ對シ電氣工作物及其ノ工事竝ニ業務及財產ノ狀況ニ關シ檢査ヲ爲シ又ハ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

主務大臣ハ電氣工作物及其ノ工事、業務竝ニ會計ニ關シ電氣事業者ニ對シ改築、改善其ノ他監督上必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第二十四條　主務大臣ハ公益上必要アリト認ムル場合ニ於テハ電氣設備ノ效用ヲ增進シ又ハ電氣ノ需給ヲ調節スル爲電氣事業者ニ對シ電氣工作物ノ施設、變更若ハ共用、電氣ノ流用又ハ工事ニ關スル期間ノ伸縮ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ命令ニ因リ必要ヲ生ジタル工事費用ノ負擔其ノ他ノ事項ハ關係電氣事業者ノ協議ニ依ル協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ主務大臣之ヲ裁定ス

第二十五條　電氣事業者ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡スコトヲ得ズ

電氣事業者ガ電氣事業ニ屬スルモノノ全部又ハ一部ヲ以テ設定シタル工場財團ノ競落人電氣事業者ナルトキハ當然其ノ事業ヲ承繼ス

第二十六條　電氣事業會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ合併ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十七條　左ノ場合ニ於テハ第三條ノ許可ハ當該範圍ニ付其ノ效力ヲ失フ

一　指定ノ期間內ニ工事施行ノ認可ヲ申請セズ、工事ニ著手セズ又ハ事業ヲ開始セザルトキ

二　工事施行ノ認可ナキトキ

三　供給事業ノ全部又ハ一部ニ付廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ

四　電氣事業會社ガ解散シタルトキ

第二十八條　主務大臣ハ左ノ場合ニ於テ第三條ノ許可ノ全部若ハ一部ヲ取消シ又ハ會社ノ取締役其ノ他ノ役員ノ改任ヲ命ズルコトヲ得

一　電氣事業者ガ法令若ハ法令ニ基キテ爲ス處分又ハ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シタルトキ

二　電氣事業者ガ其ノ供給區域內ノ一部分ニ供給ヲ開始シタル後久シキニ亙リ其ノ殘餘部分ニ對シ電線路其ノ他供給上必要ナル設備ヲ爲サザルトキ

三　電氣事業者ガ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキ

主務大臣ハ前項第一號ノ場合ニ電氣事業者ノ計算ニ於テ他ノ電氣事業者ヲシテ必要ナル施設又ハ事業ノ管理ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十九條　國ハ公益上ノ必要ニ因リ第一條第一號又ハ第三號ノ事業ヲ買收スルコトヲ得

公共團體ハ公益上ノ必要ニ因リ主務大臣ノ許可ヲ受ケテ前項ノ事業ノ買收ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ事業ノ一部ヲ買收セラルルニ因リテ殘存事業ノ全部又ハ一部ニ付事業ヲ繼續スルコト能ハザルトキハ電氣事業者ハ國又ハ公共團體ニ

對シ殘存事業ノ全部又ハ一部ノ買收ヲ請求スルコトヲ得
前三項ノ規定ニ依ル買收價格、買收範圍其ノ他買收ノ條件ハ當事者間ノ協議ニ依ル協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ主務大臣之ヲ裁定ス
前項ノ裁定中買收價格ニ付不服アル者ハ裁定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月內ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第三十條　第一條ニ揭グル事業ヲ除クノ外電氣施設ヲ爲スモノニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
前項ニ規定スルモノノ中重要ナル產業又ハ公共ノ利益ト爲ルベキ事業ノ爲電氣ヲ供給又ハ使用スル事業ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法ヲ準用ス
第三十一條　國ニ於テ電氣事業ヲ營マントスルトキハ當該官廳ハ主務大臣ト協議スベシ第三條第二項ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦同ジ
國ニ於テ營ム電氣事業ニ關シテハ第三條乃至第五條、第十五條乃至第二十三條、第二十五條乃至前條及第三十五條乃至第三十八條ノ規定ヲ適用セズ
國ニ於テ營ム電氣事業ニ付テハ第二十[illegible]條ニ規定スル事項ニ關シ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得
第三十二條　第二十四條第一項ノ命令又ハ第二十八條第一項ノ規定ニ依ル命令又ハ處分其ノ他電氣事業ニ關スル重要事項ニ付主務大臣ノ諮問ニ應ズル爲電氣委員會ヲ置ク
電氣委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第三十三條　電氣工作物ヲ損壞シ、之ニ物品ヲ接觸シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ電氣ノ供給又ハ使用ヲ妨害シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三十四條　電氣事業者ノ承諾ヲ得ズシテ濫ニ電氣工作物ノ施設ヲ變更シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
第三十五條　本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可若クハ認可ヲ受ケテ爲スベキ事項ヲ之ヲ受ケズシテ爲シタル者又ハ第十七條第二項若ハ第二十四條第一項ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス
第三十六條　電氣事業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
一　第十五條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ
二　正當ノ事由ナクシテ第二十三條ノ規定ニ依ル檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ報告ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ報告ヲ爲シ其ノ他行政官廳ノ命ジタル事項ヲ爲サザルトキ
第三十七條　電氣事業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
第三十八條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ電氣事業者ニ適用スベキ罰則ハ電氣事業者法人ナルトキハ取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法ニ依リ新ニ許可又ハ認可ヲ受クベキモノト爲リタル事項ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ之ヲ本法ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

〔政府委員中村啓次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員（中村啓次郎君） 只今、上程サレマシタ電氣事業法改正法律案ノ趣旨ハ小泉遞信大臣罷リ出マシテ……

○議長（公爵德川家達君） 政府委員ニ申シマスガ、發言ハモウ少シ高聲ノ方ガ宜カラウカト思ヒマス

○政府委員（中村啓次郎君） 小泉遞信大臣罷リ出マシテ御說明ヲ申上ゲル筈デアリマスガ、生憎病氣デアリマシテ出席イタシ兼ネマスノデ、私代ッテ提案ノ趣旨ヲ辯明イタシタイ、御了承ヲ請ヒマス、輓近ニ於ケル電氣事業ノ發達ハ之ヲ二十年前、現行電氣事業法制定當時ニ比較イタシマスト、實ニ隔世ノ感ガアルノデアリマス、斯ノ如ク全ク面目ヲ一新イタシマシタ電氣事業ヲシテ能ク其使命ヲ完ウセシメ以テ國民ノ福利ヲ增進スルコトニ遺憾ナキヲ期セムト致シマスノニハ、ドウ致シマシテモ是ガ監督行政ノ基礎タルベキ法律ヲ改正イタシマシテ、能ク現下ノ實情ニ副ハシムルヤウニ努メナケレバナラヌト思フノデアリマス、御承知ノ如ク、歐洲大戰後ニ於ケル經濟界ノ變動ハ有ラユル產業ノ合理化ノ必要ニ迫マラレテ居ルノデアリマスルガ、取リ別ケ電氣事業法ハ國民ノ日常生活ニ直接重大ナル關係ヲ有スルハ勿論、其他諸般ノ事業ニ動力ヲ供給スル所ノ基礎產業タル性質ニ鑑ミマシテ、其合理的統制ヲ圖ルノ必要ハ、他ノ事業ニ比シテ一層切實ナルモノガアルト存ズル次第デアリマス、本案ハ右ノ趣旨ヲ以チマシテ、電氣事業ニ對スル監督行政ノ方針ヲ確立シ、事業統制ノ據ルベキ所ヲ定メ、事業ノ正常ナル發達ヲ期スル爲ニ、現行電氣事業法ノ全部改正ヲ行ハムトスルモノデゴザイマス、仍テ何卒御審議ノ上、速ニ御協贊アラムコトヲ切ニ御願ヒ致スノデアリマス

○子爵東園基光君 只今上程サレマシタ電氣事業法改正法律案ハ重要ナル法案ト認メマスルニ依リマシテ、其特別委員ノ數ヲ十八名トシ、其選擧ハ議長ニ一任イタシタイト考ヘマス、御贊成ヲ願ヒマス

○子爵池田政時君 贊成

○議長（公爵德川家達君） 東園子爵ノ動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（公爵德川家達君） 御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀ヲ致サセマス

〔小林書記官朗讀〕

電氣事業法改正法律案特別委員

侯爵大隈信常君	伯爵川村鐵太郎君
子爵東園基光君	子爵新庄直知君
子爵瀧脇宏光君	小松謙次郎君
內田嘉吉君	男爵北河原公平君
男爵有地藤三郎君	男爵近藤滋彌君
男爵肝付兼英君	山之內一次君
八田嘉明君	中村圓一郎君
下出民義君	田村新吉君
名取忠愛君	野村德七君

○議長（公爵德川家達君） 日程第二、祐德軌道株式會社所屬軌道補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、江木鐵道大臣

祐德軌道株式會社所屬軌道補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和六年三月十七日

衆議院議長　藤澤幾之輔

貴族院議長公爵德川家達殿

祐德軌道株式會社所屬軌道補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案

政府ハ祐德軌道株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲額面十三萬三千圓ヲ限リ公債ヲ發行スルコトヲ得

〔國務大臣江木翼君演壇ニ登ル〕

○國務大臣（江木翼君）　祐德軌道ト申シマスルノハ佐賀縣下ニアリマスル延長十五哩ノ軌道デアリマスルガ、鐵道省所屬ノ有明線卽チ肥前山口ヨリ諫早ニ至リマス線路ノ中、其一部ガ昨年十一月三十日ヲ以チマシテ肥前濱マデ開通イタシマシタルガ爲メ、之ニ竝行又ハ接近イタシテ居リマス所ノ祐德軌道ハ運輸系統其他ノ關係カラ致シテ、非常ナ打擊ヲ蒙ッタノデアリマス、是ハ省線開通後ノ實績ニ徵シマシテ明カナルコトデアリマシテ、到底全線ノ營業ヲ繼續シテ行クコトハ困難デアルト認メタノデアリマス、故ニ地方鐵道法第三十六條ニ準據イタシマシテ、此營業廢止ノ申請ヲ許可イタシマシテ、之ニ對シテ損失ヲ補償スル爲メ公債ヲ發行イタシタイト思ヒマシテ、本案ヲ提出イタシタ次第デアリマス、何卒御協贊アラムコトヲ希望イタシマス

○議長（公爵德川家達君）　本案ハ議長ニ指名イタシマシタ地方鐵道補助法中改正法律案ノ特別委員ニ付託イタシマス

○議長（公爵德川家達君）　日程第三、軍事救護法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、齋藤內務政務次官

軍事救護法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和六年三月十七日

衆議院議長　藤澤幾之輔

貴族院議長公爵德川家達殿

軍事救護法中改正法律案

軍事救護法中左ノ通改正ス

第二條第一號及第二號中「兵役ヲ免セラレタル者」ヲ「一種以上ノ兵役ヲ免ゼラレタル者」ニ改ム

第六條中「生業扶助、醫療、現品給與及現金給與」ヲ「生活扶助、醫療、助產及生業扶助」ニ改ム

第七條ノ二　救護ヲ受クル者死亡シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ埋葬ヲ行ヒ又ハ埋葬ヲ行フ者ニ對シ埋葬費ヲ給スルコトヲ得

第十一條中「陸軍懲治隊」ヲ「陸軍教化隊」ニ改ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔政府委員齋藤隆夫君演壇ニ登ル〕

○政府委員（齋藤隆夫君）　軍事救護法中改正法律案、提出理由ノ大要ヲ申述ベマス、現行ノ軍事救護法ハ大正六年ニ制定セラレマシテ、大正七年一月施行セラレタノデアリマス、其後既ニ十數年ヲ經過シ、之ガ趣旨モ漸次普及徹底ヲ見ルニ至リマシテ、昭和四年度ニ至リマシテハ被救護者四万四千餘人、所要經費約百五十万圓ニ上ボリマシテ、貧困ナル家庭ノ子弟ヲシテ後顧ノ憂ナク、安ンジテ兵役義務ヲ完ウセシムル、極メテ重要ナル使命ヲ果シツヽアルノデアリマス、併ナガラ既ニ立法以來相當ノ年月ヲ經マシテ、施行以來幾多ノ經驗ヲ重ネテ參リマシタ間ニハ、自然社會狀態ノ變遷ニ伴ヒ、過去ノ經驗ヲ基礎トシテ、茲ニ相當ノ改正ヲ爲スノ必要ガ認メラルルニ至ッタ次第デアリマス、仍テ政府ト致シマシテモ、昭和四年以來兵役義務者及癈兵待遇審議會ヲ設ケマシテ、各方面ノ權威ヲ網羅シテ、兵役義務者ノ待遇改善ニ關スル調査及審議ヲ致シマシタガ、此審議會ニ於キマシテモ、軍事救護法改正ガ緊要ナル事項ノ一トシテ議決セラレタノデアリマス、殊ニ明年度ヨリハ救護法ヲ實施スル方針ノ下ニ、之ガ爲メ別ニ追加豫算案ヲ提出イタシテ居リマスルガ、此救護法實施ノ曉ニ於キマシテハ、是ト權衡ヲ保ツノ必要アル軍事救護法ニ付キマシテモ、相當ノ改正ヲ致ス必要ガアルノデアリマス、仍テ今回政府ハ是等ノ事情ヲ參酌イタシマシテ、本改正法律案ヲ提出スルニ至ッタ次第デアリマス、改正ノ要點ハ三點デゴザイマス、第一ハ救護ヲ受ケル資格デアリマスル所ノ傷病兵ノ範圍デアリマス、是ハ從來兵役ノ全部ヲ免除セラレタ者ニ限ッテ居リマスルガ、今回ハ之ヲ擴張イタシマシテ、一種以上ノ兵役ヲ免除セラレタ者デモ矢張リ救護スルコトニ致シタノデアリマス、從來ノ經驗ニ徵シマスルニ、疾病又ハ傷痍ノ爲メ兵役ノ一部ノミヲ免除セラレルモノデアリマシテモ、其疾病傷痍ノ結果、將來勞働能力ヲ失フニ至ル者モ少ナクナイノデアリマス、ソレ故ニ之ニ對シマシテ軍事救護ヲ爲シ得ルノ途ヲ開キマスルコトハ至當デアルト認メタノデアリマス、第二ハ救護ノ種類ヲ改メマシテ、現行法ノ「生業扶助、醫療、現品給與及ビ現金給與」ナル區別ヲ廢シマシテ、「生活扶助、醫療、助產及生業扶助」ノ四種ト爲シ、茲ニ新ニ助產ヲ附加ヘタノデアリマス、此救護ノ種類ハ既ニ救護法ニ於キマシテモ同樣ニ認メテ居ル所デアリマス、第三ハ新ニ救護ヲ受クル者ノ死亡シタ場合ニ於キマシテハ、勅令ノ定ムル所ニ依リマシテ埋葬ヲ行ヒ、又ハ埋葬ヲ行フ者ニ對シテ埋葬料ヲ給與スルコトト致シタ點デアリマス、是モ救護法ニ認メラレタ點デアリマス、尙ホ本改正法施行ニ要スル經費ノ增額ニ關シマシテハ、別ニ追加豫算案ヲ提出イタシテ居リマス、今更申ス迄モゴザイマセヌガ、兵役義務者及ビ其遺族、家族ハ一身一家ノ利害ヲ顧ミズ君國ノ爲ニ忠誠ヲ盡スモノデアリマシテ、之ニ對シテ待遇ノ途ヲ講ズルコトハ當然ノ事ト存ジマス、本改正案モ亦全ク其趣旨ニ外ナラヌノデゴザイマスカラ、何卒十分御審議ノ上速ニ御協贊アラムコトヲ切ニ御願ヒ致シマス

○議長（公爵德川家達君）　本案ハ入營者職業保障法案ノ特別委員ニ付託イタシマス

○議長（公爵德川家達君）　日程第四、蠶絲業組合法案、第五、蠶絲業法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、農林大臣

蠶絲業組合法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和六年三月十七日

衆議院議長　藤澤幾之輔

貴族院議長公爵德川家達殿

蠶絲業組合法案

蠶絲業組合法

第一章　蠶絲業組合

第一節　總則

第一條　蠶絲業組合ハ左ノ六種トス

一　養蠶業組合
二　蠶種業組合
三　產業組合製絲組合
四　製絲業組合
五　生絲問屋業組合
六　生絲輸出業組合

第二條　蠶絲業組合ハ蠶絲業ノ改良發達及統制ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第三條　蠶絲業組合ハ法人トス

第四條　蠶絲業組合ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ズ

第五條　蠶絲業組合ハ蠶絲業ニ關スル事項ニ付行政廳ニ建議スルコトヲ得

蠶絲業組合ハ行政廳ノ諮問ニ對シ答申スベシ

第六條　行政官廳ハ蠶絲業組合ニ對シ蠶絲業ニ關スル報告書ノ提出及蠶絲業ニ關スル事項ノ調査ヲ命ズルコトヲ得

第七條　蠶絲業組合ノ名稱中ニハ其ノ種類ニ從ヒ養蠶業組合、蠶種業組合、產業組合製絲組合、製絲業組合、生絲問屋業組合又ハ生絲輸出業組合ナル文字ヲ用フベシ

蠶絲業組合ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ前項ニ揭グル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第八條　蠶絲業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ役員又ハ檢查員ヲシテ組合員

ノ事務所若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該役員又ハ檢査員ハ其ノ身分ヲ證明スベキ證票ヲ携帶スベシ

第九條　蠶絲業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ニ對シ經費ヲ分賦シ及過怠金ヲ徵收スルコトヲ得

蠶絲業組合ノ經費又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ其ノ組合長ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村税ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ蠶絲業組合ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スベシ

前項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徵收金ニ次ギ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ市町村税ノ例ニ依ル

第一項ニ規定スル徵收金ノ賦課徵收及滯納處分ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ異議ノ申立若ハ訴願ヲ爲シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十條　蠶絲業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ使用料及手數料ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ使用料及手數料ノ徵收ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十一條　蠶絲業組合ノ組合員ハ其ノ營業ニ關スル重要物産同業組合法ニ依ル同業組合ニ加入セズ又ハ之ヨリ脱退スルコトヲ得

第十二條　行政官廳ハ蠶絲業組合ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ、業務執行又ハ財産ノ狀況ヲ檢査シ、定款、收支豫算又ハ經費ノ分賦收入方法ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十三條　行政官廳ハ蠶絲業組合ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ決議ヲ取消シ、役員ヲ解任シ、組合ノ業務ヲ停止シ又ハ組合ノ解散ヲ命ズルコトヲ得

第十四條　蠶絲業組合ノ解散及分合ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條　本章ニ於テ町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトシ郡トアルハ北海道ニ在リテハ北海道廳支廳長管轄區域トス

第二節　養蠶業組合

第十六條　養蠶業組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

一　蠶品種ノ統一ニ關スル施設
二　養蠶業ノ指導奬勵ニ關スル施設
三　繭ノ檢査ニ關スル施設
四　繭ノ取引方法ノ改善ニ關スル施設
五　蠶病ノ豫防ニ關スル施設
六　養蠶業ニ關スル研究及調査
七　養蠶業ニ關スル紛議ノ調停又ハ仲裁
八　前各號ニ掲グルモノノ外養蠶業ノ改良發達及統制ヲ圖ルニ必要ナル施設

第十七條　養蠶業組合ノ地區ハ郡市ノ區域ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ區域ニ依ラザルコトヲ得

前項ノ區域ニ增減アリタルトキハ其ノ區域ヲ地區トスル養蠶業組合ノ地區モ亦之ニ應ジテ增減アリタルモノトス

第十八條　養蠶業組合ハ其ノ地區內ノ養蠶實行組合ヲ以テ其ノ組合員トス

第十九條　養蠶實行組合ハ一定ノ地區內ノ養蠶者ヲ以テ之ヲ組織シ養蠶業ニ關シ組合員ノ共同ノ利益增進ヲ圖ルヲ以テ目的トス

養蠶實行組合ハ法人トス

養蠶實行組合ノ地區ハ市町村ノ區域ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二十條　養蠶實行組合ハ其ノ名稱中ニ養蠶實行組合ナル文字ヲ用フベシ

養蠶實行組合ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ前項ニ掲グル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第二十一條　養蠶實行組合ヲ設立スルニハ其ノ地區內ノ養蠶者七人以上設立者ト爲リ規約ヲ作成スルコトヲ要ス

規約ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シ設立者之ニ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス

一　目的
二　名稱
三　地區
四　事務所ノ所在地
五　組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定
六　事業及其ノ執行ニ關スル規定
七　役員ニ關スル規定
八　組合費其ノ他會計及資産ニ關スル規定
九　損失分擔ニ關スル規定
十　組合ガ公告ヲ爲ス方法
十一　存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第二十二條　養蠶實行組合ハ其ノ設立ノ日ヨリ二週間以內ニ規約、役員ノ氏名及住所竝ニ設立ノ年月日ヲ具シ行政官廳ニ之ヲ屆出ヅベシ

前項ノ規定ニ依リ屆出デタル事項ニ變更アリタルトキハ其ノ變更ノ日ヨリ二週間以內ニ之ヲ屆出ヅベシ

第二十三條　養蠶實行組合ハ其ノ設立ノ日ヨリ二週間以內ニ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ

登記スベキ事項左ノ如シ

一　第二十一條第二項第一號乃至第三號、第十號及第十一號ニ掲グル事項
二　事務所
三　設立ノ年月日
四　理事ノ氏名及住所

前項ニ掲グル事項ニ變更アリタルトキハ二週間以內ニ其ノ登記ヲ爲スベシ

第二十四條　本法ニ依リ登記スベキ事項ハ其ノ登記前ニ在リテハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第二十五條　養蠶實行組合ガ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登錄税ヲ課セズ

第二十六條　民法第三十八條第一項、第四十四條、第四十八條、第五十條乃至第六十六條、第六十八條乃至第七十條及第七十二條乃至第八十二條竝ニ非訟事件手續法第三十五條、第三十六條、第三十七條ノ二、第百十七條、第百十九條乃至第百二十二條、第百三十六條乃至第百三十八條、第百四十二條、第百四十三條、第百四十七條乃至第百五十條、第百五十條ノ三乃至第百五十七條及第百七十五條乃至第百七十七條ノ規定ハ養蠶實行組合ニ之ヲ準用ス

第二十七條　養蠶業組合ヲ設立セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ地區內ノ養蠶實行組合ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ役員ヲ選任シ收支豫算及經費ノ分賦收入方法ヲ議決シ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第三十六條第一項ノ規定ハ前項ノ創立總會ノ決議ニ之ヲ準用ス

第二十八條　養蠶業組合ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時成立ス

第二十九條　養蠶業組合成立シタルトキハ其ノ地區內ノ組合員タル資格ヲ有スルモノハ總テ其ノ組合員トス

第三十條　養蠶業組合ノ地區內ニ於テ養蠶業ニ關スル事業ヲ行フ農會、產業組合又ハ產業組合聯合會ニシテ命令ヲ以テ規定スルモノハ行政官廳ノ認可ヲ受ケテ養蠶業組合ノ組合員ト爲ルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ養蠶業組合ノ組合員ト爲リタルモノハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ組合ヲ脱退スルコ

トヲ得ズ

第三十一條　主務大臣必要アリト認ムルトキハ區域ヲ指定シ養蠶實行組合ニ對シ養蠶組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル設立ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條　養蠶業組合ニ總會ヲ置ク

總會ハ總組合員ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十三條　左ニ掲グル事項ハ總會ノ議決ヲ經ベシ

一　收支豫算
二　經費ノ分賦收入方法
三　命令ヲ以テ規定スル統制ニ關スル施設
四　事業報告及收支決算
五　借入金
六　基本財産ノ造成、管理及處分
七　定款ノ變更
八　役員ノ選任及解任
九　第六十五條ノ議員ノ選任及解任
十　第六十三條第一項ノ同意

前項第一號乃至第三號、第五號、第七號及第八號ニ掲グル事項ノ決議ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第三十四條　總會ハ組合長之ヲ招集ス

組合員ハ總組合員ノ三分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及招集ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ提出シ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

組合長正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル請求アリタル後二週間以内ニ總會ヲ招集セザルトキハ請求者ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

前三項ノ規定ニ依リ總會ヲ招集スルコト能ハザルトキハ行政官廳ハ組合員ヲ指定シテ總會ヲ招集セシムルコトヲ得

第三十五條　總會ノ議事ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第三十六條　第三十三條第一項第三號、第七號及第八號ニ掲グル事項ハ總會ニ於テ組合員ノ半數以上出席シ出席者ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ議決ス

定款ノ變更ガ地區ノ增減ニ關スルトキハ前項ノ規定ニ依ル議決ノ外新ニ編入セラレ又ハ削除セラルベキ區域内ノ養蠶實行組合ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第三十七條　總會ノ議決ヲ經ベキ事項ニシテ輕微ナルモノニ付テハ定款ノ定ムル所ニ依リ書面ヲ以テ組合員ノ意見ヲ徵シ總會ノ議決ニ代フルコトヲ得

第三十八條　養蠶業組合ニ組合長一人ヲ置ク

養蠶業組合ハ前項ノ役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

前二項ノ役員ハ所屬ノ養蠶實行組合ノ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ特別ノ事由アルトキハ其ノ他ノ者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ妨ゲズ

第三十九條　組合長ハ養蠶業組合ヲ代表シ組合ノ事務ヲ總理ス

第四十條　總會ノ議決ヲ經ベキ事項ニシテ臨時急施ヲ要シ總會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルモノハ組合長定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ專決處分スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ組合長ハ次ノ總會ニ於テ其ノ承認ヲ求ムベシ

第四十一條　養蠶實行組合ノ理事、監事又ハ清算人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

一　本法ニ依ル屆出ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
二　本法ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
三　行政官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
四　本法ニ依ル總會ノ招集ヲ怠リタルトキ
五　組會ノ目的ニ非ザル事業ヲ爲シタルトキ
六　本法ニ依リ事務所ニ備ヘ置クベキ書類ヲ備ヘズ、其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲シ又ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ
七　本法ニ違反シテ破産ノ宣告ヲ請求セザルトキ
八　本法ニ依ル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ
九　清算ノ場合ニ於テ本法ニ違反シテ辨濟ヲ爲シ又ハ組合財産ノ分配ヲ爲シタルトキ

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第三節　蠶種業組合

第四十二條　蠶種業組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

一　蠶品種ノ統一ニ關スル施設
二　蠶種製造ノ指導奬勵ニ關スル施設
三　蠶種ノ檢査ニ關スル施設
四　蠶病ノ豫防ニ關スル施設
五　蠶種ニ關スル研究及調査
六　蠶種製造業ニ關スル紛議ノ調停又ハ仲裁
七　前各號ニ掲グルモノノ外蠶種製造業ノ改良發達及統制ヲ圖ルニ必要ナル施設

第四十三條　蠶種業組合ノ地區ハ道府縣ノ區域ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ區域ニ依ラザルコトヲ得

第十七條第二項ノ規定ハ前項ノ區域ニ增減アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條　蠶種業組合ハ其ノ地區内ニ於テ蠶種ノ製造ヲ業トスル者ヲ以テ其ノ組合員トス

第四十五條　第二十七條乃至第二十九條及第三十一條乃至第四十條ノ規定ハ蠶種業組合ニ之ヲ準用ス

第四節　産業組合製絲組合及製絲業組合

第四十六條　産業組合製絲組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

一　原料繭及其ノ受入方法ノ統一ニ關スル施設
二　生絲ニ關スル規格ノ統一ニ關スル施設
三　産業組合製絲ノ指導奬勵ニ關スル施設
四　生絲ノ檢査ニ關スル施設
五　産業組合製絲ニ關スル研究及調査
六　産業組合製絲ニ關スル紛議ノ調停又ハ仲裁
七　前各號ニ掲グルモノノ外産業組合製絲ノ改良發達及統制ヲ圖ルニ必要ナル施設

第四十七條　製絲業組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

一　生絲ニ關スル規格ノ統一ニ關スル施設
二　製絲業ノ指導奬勵ニ關スル施設
三　生絲ノ檢査ニ關スル施設
四　製絲業ニ從事スル者ノ福利增進ニ關スル施設
五　製絲業ニ關スル研究及調査
六　製絲業ニ關スル紛議ノ調停又ハ仲裁
七　前各號ニ掲グルモノノ外製絲業ノ改良發達及統制ヲ圖ルニ必要ナル施設

第四十八條　産業組合製絲組合及製絲業組合ノ地區ハ道府縣ノ區域ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ區域ニ依ラ

ザルコトヲ得

第十七條第二項ノ規定ハ前項ノ區域ニ增減アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十九條 產業組合製絲組合ハ其ノ地區內ニ於テ製絲ヲ爲シ又ハ製絲工場ヲ有スル產業組合及產業組合聯合會ヲ以テ其ノ組合員トス

第五十條 製絲業組合ハ命令ヲ以テ規定スル者ヲ除クノ外其ノ地區內ニ於テ生絲ノ製造ヲ業トスル者ヲ以テ其ノ組合員トス

第五十一條 第二十七條乃至第二十九條及第三十一條乃至第四十條ノ規定ハ產業組合製絲組合及製絲業組合ニ之ヲ準用ス

第五節 生絲問屋業組合及生絲輸出業組合

第五十二條 生絲問屋業組合及生絲輸出業組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

一 生絲ノ取引方法ノ改善及統一ニ關スル施設

二 生絲取引ニ關スル研究及調査

三 生絲取引ニ關スル紛議ノ調停又ハ仲裁

四 前各號ニ揭グルモノノ外生絲取引ノ改良發達及統制ニ關スル施設

第五十三條 生絲問屋業組合ノ地區ハ郡市ノ區域ニ依リ生絲輸出業組合ノ地區ハ市ノ區域ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ區域ニ依ラザルコトヲ得

第十七條第二項ノ規定ハ前項ノ區域ニ增減アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第五十四條 生絲問屋業組合ハ其ノ地區內ニ於テ生絲取引ノ仲立又ハ取次ヲ業トスル者竝ニ生絲ノ販賣ヲ爲ス產業組合及產業組合聯合會ヲ以テ其ノ組合員トス

第五十五條 生絲輸出業組合ハ其ノ地區內ニ於テ生絲ノ輸出ヲ業トスル者竝ニ生絲ノ輸出ヲ爲ス產業組合及產業組合聯合會ヲ以テ其ノ組合員トス

第五十六條 第二十七條乃至第二十九條及第三十一條乃至第四十條ノ規定ハ生絲問屋業組合及生絲輸出業組合ニ之ヲ準用ス但シ第三十三條第一項第九號中第六十五條トアルハ之ヲ第六十五條又ハ第七十六條トシ第三十三條第一項第十號中第六十三條第一項トアルハ之ヲ第六十三條第一項又ハ第七十五條第一項トス

第二章 蠶絲業組合聯合會

第五十七條 蠶絲業組合聯合會ハ左ノ七種トス

一 道府縣養蠶業組合聯合會

二 全國養蠶業組合聯合會

三 全國蠶種業組合聯合會

四 全國產業組合製絲組合聯合會

五 全國製絲業組合聯合會

六 全國生絲問屋業組合聯合會

七 全國生絲輸出業組合聯合會

第五十八條 蠶絲業組合聯合會ハ蠶絲業組合又ハ道府縣養蠶業組合聯合會ノ聯絡ヲ圖リ其ノ共同ノ目的ヲ達成スルヲ以テ目的トス

第五十九條 蠶絲業組合聯合會ハ法人トス

第六十條 蠶絲業組合聯合會ノ地區ハ道府縣養蠶業組合聯合會ニ在リテハ道府縣ノ區域ニ依リ其ノ他ノモノニ在リテハ全國ノ區域ニ依ル

第十七條第二項ノ規定ハ前項ノ道府縣ノ區域ニ增減アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十一條 蠶絲業組合聯合會ノ名稱中ニハ其ノ種類ニ從ヒ道、府若ハ縣養蠶業組合聯合會、全國養蠶業組合聯合會、全國蠶種業組合聯合會、全國產業組合製絲組合聯合會、全國製絲業組合聯合會、全國生絲問屋業組合聯合會又ハ全國生絲輸出業組合聯合會ナル文字ヲ用フベシ

蠶絲業組合聯合會ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ前項ニ揭グル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第六十二條 道府縣養蠶業組合聯合會ハ其ノ地區內ノ養蠶業組合ヲ以テ其ノ會員トス

全國養蠶業組合聯合會ハ道府縣養蠶業組合聯合會及道府縣ノ區域ヲ地區トスル養蠶業組合ヲ以テ其ノ會員トス

全國蠶種業組合聯合會ハ蠶種業組合ヲ以テ、全國產業組合製絲組合聯合會ハ產業組合製絲組合ヲ以テ、全國製絲業組合聯合會ハ製絲業組合ヲ以テ、全國生絲問屋業組合聯合會ハ生絲問屋業組合ヲ以テ、全國生絲輸出業組合聯合會ハ生絲輸出業組合ヲ以テ其ノ會員トス

第六十三條 蠶絲業組合聯合會ヲ設立セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ地區內ノ會員タル資格ヲ有スルモノノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ會則ヲ議定シ役員ヲ選任シ收支豫算及經費ノ分賦收入方法ヲ議決シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第三十六條第一項ノ規定ハ前項ノ創立總會ノ決議ニ之ヲ準用ス

第六十四條 蠶絲業組合聯合會成立シタルトキハ其ノ地區內ノ會員タル資格ヲ有スルモノハ總テ其ノ會員トス

第六十五條 蠶絲業組合聯合會ニ總會ヲ置ク

總會ハ會長、副會長及議員ヲ以テ之ヲ組織ス

蠶絲業組合聯合會ノ議員ハ其ノ會員タル蠶絲業組合又ハ道府縣養蠶業組合聯合會ニ於テ之ヲ選任ス

前項ニ規定スルモノノ外議員ノ選任及解任ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十六條 蠶絲業組合聯合會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一人

副會長 一人又ハ二人

評議員 數人

前項ノ役員ハ議員中ヨリ之ヲ選任ス但シ會長及副會長ハ其ノ他ノ者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ妨ゲズ

第六十七條 會長ハ蠶絲業組合聯合會ヲ代表シ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス

副會長ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會長ノ職務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

評議員ハ會長ノ諮問ニ應ジ竝ニ會務ノ執行及財產ノ狀況ヲ監査ス

第六十八條 第四條乃至第六條、第九條第一項、第十條、第十二條乃至第十四條、第二十八條、第三十一條、第三十三條乃至第三十五條、第三十六條第一項、第三十七條及第四十條ノ規定ハ蠶絲業組合聯合會ニ之ヲ準用ス但シ第五十七條第二號乃至第七號ノ蠶絲業組合聯合會ニ付テハ第三十三條第一項第九號中第六十五條トアルハ之ヲ第七十六條トシ第三十三條第一項第十號中第六十三條第一項トアルハ之ヲ第七十五條第一項トス

第三章 日本中央蠶絲會

第六十九條 日本中央蠶絲會ハ蠶絲業組合聯合會及蠶絲業組合ノ聯絡竝ニ蠶絲業ノ改良發達及統制ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第七十條 日本中央蠶絲會ハ法人トス

第七十一條 日本中央蠶絲會ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

一 蠶絲業組合聯合會及蠶絲業組合ノ聯絡及統制ニ關スル施設

二 蠶絲業ニ關スル研究及調査

三　蠶絲類ノ販路擴張ニ關スル施設
四　蠶絲業ニ關スル紛議ノ調停又ハ仲裁
五　前各號ニ揭グルモノノ外蠶絲業ノ改良發達及統制ヲ圖ルニ必要ナル施設

第七十二條　日本中央蠶絲會ノ地區ハ全國ノ區域ニ依ル

第七十三條　日本中央蠶絲會ノ名稱ニハ日本中央蠶絲會ナル文字ヲ用フベシ

日本中央蠶絲會ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ前項ニ揭グル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第七十四條　日本中央蠶絲會ハ第五十七條第二號乃至第七號ノ蠶絲業組合聯合會ヲ以テ其ノ會員トス

全國生絲問屋業組合聯合會又ハ全國生絲輸出業組合聯合會ナキ場合ニ限リ前項ニ規定スルモノノ外生絲問屋業組合又ハ生絲輸出業組合ヲ以テ其ノ會員トス

第七十五條　日本中央蠶絲會ヲ設立セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員タル資格ヲ有スルモノノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ會則ヲ議定シ役員ヲ選任シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第三十六條第一項ノ規定ハ前項ノ創立總會ノ決議ニ之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テ會員タル資格ヲ有スルモノノ員數ノ計算ニ付テハ前條第二項ノ規定ニ依リ會員タル資格ヲ有スル生絲問屋業組合又ハ生絲輸出業組合二以上アル場合ニ於テハ之ヲ一箇ノ生絲問屋業組合又ハ生絲輸出業組合ト看做ス

第七十六條　日本中央蠶絲會ニ總會ヲ置ク

總會ハ會長、副會長、議員及特別議員ヲ以テ之ヲ組織ス

日本中央蠶絲會ノ議員ハ其ノ會員タル蠶絲業組合聯合會又ハ蠶絲業組合ニ於テ之ヲ選任シ特別議員ハ主務大臣之ヲ命ズ

特別議員ノ員數ハ議員定數ノ五分ノ一以內トス

前二項ニ規定スルモノノ外議員ノ選任及解任竝ニ特別議員ノ命免ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十七條　日本中央蠶絲會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長　一人
副會長　一人又ハ二人
評議員　數人

前項ノ役員ハ議員及特別議員中ヨリ之ヲ選任ス但シ會長及副會長ハ其ノ他ノ者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ妨ゲズ

第七十八條　日本中央蠶絲會ノ會員蠶絲業ノ統制ニ關スル施設ヲ行ハントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ日本中央蠶絲會ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

日本中央蠶絲會前項ノ承認ヲ爲スニハ其ノ總會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第三十六條第一項ノ規定ハ前項ノ總會ノ決議ニ之ヲ準用ス

第七十九條　第四條乃至第六條、第九條第一項、第十二條乃至第十四條、第二十八條、第三十三條乃至第三十五條、第三十六條第一項、第三十七條、第四十條、第六十四條及第六十七條ノ規定ハ日本中央蠶絲會ニ之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

重要物產同業組合法ニ依リ道府縣ヲ地區トシ設置シタル蠶絲業者ノ同業組合ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ之ヲ本法ニ依ル蠶絲業組合ト看做ス

日本中央蠶絲會成立シタルトキハ其ノ成立ノ日ヨリ一年以內ニ蠶絲業同業組合中央會ハ解散ヲ爲スコトヲ要ス

蠶絲業法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和六年三月十七日

衆議院議長　藤澤幾之輔

貴族院議長公爵德川家達殿

蠶絲業法中改正法律案

蠶絲業法中左ノ通改正ス

第十一條ノ二第一項中「同業組合、」ヲ「蠶種業組合、同業組合、」ニ改ム

第二十九條乃至第三十四條　削除

第三十五條ノ二中「同業組合、」ヲ「蠶種業組合、同業組合、」ニ改ム

第三十六條中「又ハ同業組合」ヲ「又ハ蠶種業組合、同業組合、」ニ改ム

附　則

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣町田忠治君演壇ニ登ル〕

○國務大臣（町田忠治君）　蠶絲業組合法案提出ノ理由ノ大體ヲ御說明申上ゲマス、本邦重要產業タル蠶絲業ニ從事スル當業者ノ團體ト致シマシテハ、現在養蠶業者ノ團體、重要物產同業組合及ビ蠶絲業同業組合中央會等ガアリマスルガ、是等ニ關スル法令ノ完カラザルガ爲ニ、其組織モ完備イタシテ居リマセヌ、從ッテ其團結力モ微弱デアリマス、斯業進行上遺憾ノ點ガ少ナクナイノデアリマスルガ故ニ、蠶絲業ノ現在及ビ將來ニ於キマシテハ、速ニ新タナル團體制度ヲ確立イタシマシテ、當業者ノ利害ヲ公正ニ表明スルコトヲ得セシメ、以テ斯業ノ改良發達及ビ統制ヲ完カラシムルコトガ急務ト信ズルノデアリマス、今此提案ノ骨子タル點ヲ大略申上ゲマスレバ、第一蠶絲業組合ハ蠶絲業ノ改良發達及ビ統制ヲ圖ルヲ目的トスル法人ト致スコトデアリマス、第二ニハ蠶絲業組合ハ、第一、養蠶業、第二、蠶種製造業、第三、蠶業組合ニ依ル製絲業、第四、生絲製造業、第五、生絲問屋業、第六、生絲輸出業ニ付キマシテ、各業別ニ組合ヲ組織セシムルコトデアリマス、第三ハ蠶絲業組合ハ……養蠶業組合ニ付キマシテハ、郡市區別ヲ原則ト致シマスルガ、其他ノ組合ニ付キマシテハ總テ道府縣區域ヲ原則トシテ組合ヲ作ラシムルコトデアリマス、第四、蠶絲業組合聯合會ハ總テ業種別ニ之ヲ組織イタスコトトシ、養蠶業組合聯合會ニ付キマシテハ、道府縣區域及ビ全國區域ノモノヲ認メマシテ、其他ノ蠶絲業組合等ノ聯合會ニ付キマシテハ、總テ全國區域ノモノヲ以テ聯合會ト致スノデアリマス、全國蠶絲業組合聯合會ヲ以テ、更ニ日本中央蠶絲會ヲ組織セシメマシテ、現在ノ蠶絲業同業組合中央會ニ代リマシテ、蠶絲業者ノ最高機關ト致シ、所屬蠶絲業組合聯合會ノ聯絡統制ヲ圖ッテ、海外販路ノ擴張其他蠶絲業全般ニ關スル重要事項ヲ掌ラシメルコトト致シタノデアリマス、大體右ノ趣意ニ依ッテ提案ヲ致シマシタガ故ニ、御審議ノ上、何卒速ニ御協贊アラムコトヲ希望シマス、尙ホ此提案ニ關聯シマシテ、蠶絲業法中改正法律案ノ大體ヲ申上ゲマス、蠶絲業組合法ガ制定ニ相成リマスレバ、是ニ伴ッテ蠶絲業法中ニ改正ヲ要スル點ガ茲ニ生ジタノデアリマス、蠶絲業法中改正ノ法律案ヲ併セテ茲ニ提出イタシタ次第デアリマス、改正ノ要旨ハ蠶絲業組合法ニ依ル蠶絲業組合ヲシテ、蠶絲ノ自治檢查ヲ行ハシメルコトヲ得ルコトト致シマスル上ニ、蠶絲業同業組合中央會ニ關スル規定ハ、茲ニ同會ガ解散セラルレバ、不必要トナルノデアリマスガ故ニ、之ヲ削除イタスコトト致シタノデアリマス、蠶絲業組合法案ト同樣御審議アラムコトヲ切望スル次第デアリマス

○議長（公爵德川家達君）　只今農林大臣ノ說明セラレマシタ兩案ノ特別委員ハ輸出生絲檢查法中改正法律案ノ特別委員ニ付託イタシマス

○議長（公爵德川家達君）　茲ニ御諮リヲ致シタイコトガゴザイマス、本日曾我子爵病

氣ニ付キ輸出組合法中改正法律案外二件ノ特別委員ヲ辭任セラレタキ旨申出ガアリマシタ、辭任ヲ許可シテ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（公爵德川家達君） 御異議ナイト認メマス、右補闕トシテ土岐子爵ヲ指名イタシマス

○議長（公爵德川家達君） 日程第六、勞働組合法案、第七、勞働爭議調停法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、內務大臣安達謙藏君

勞働組合法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和六年三月十七日

衆議院議長 藤澤幾之輔

貴族院議長公爵德川家達殿

勞働組合法案

勞働組合法

第一條 本法ニ於テ勞働組合ト稱スルハ勞働條件ノ維持改善及組合員ノ共濟、修養其ノ他共同利益ノ保護增進ヲ目的トスル同一若ハ類似ノ職業若ハ產業ノ勞働者ノ團體又ハ其ノ團體ノ同一若ハ類似ノ職業若ハ產業ニ係ル聯合團體ヲ謂フ

第二條 勞働組合ヲ設立シタルトキハ其ノ代表者ハ組合設立ノ日ヨリ二週間以內ニ規約、代表者ノ氏名及住所並ニ主タル事務所所在ノ場所ヲ具シ之ヲ行政官廳ニ屆出ヅベシ

聯合團體タル勞働組合ニ在リテハ前項ニ揭グル事項ノ外之ヲ組織スル團體ノ名稱及其ノ主タル事務所所在ノ場所ヲ具シ屆出ヅベシ

前二項ノ規定ニ依リ屆出デタル事項ニ變更アリタルトキハ其ノ變更ノ日ヨリ一週間以內ニ之ヲ屆出ヅベシ

第三條 勞働組合ノ規約ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 名稱
二 目的
三 主タル事務所ノ所在地
四 組合ノ構成ニ關スル規定
五 組合員ノ加入及脫退ニ關スル規定
六 會議ニ關スル規定
七 代表者其ノ他ノ役員ニ關スル規定
八 組合費其ノ他會計ニ關スル規定

第四條 勞働組合ニシテ其ノ規約ニ法人タルコトヲ定ムルモノハ之ヲ法人トス

法人タル勞働組合ハ其ノ名稱中ニ法人ナル文字ヲ用フベシ

法人ニ非ザル勞働組合ハ其ノ名稱中ニ法人タルコトヲ示スベキ文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第五條 法人タル勞働組合ハ其ノ設立ノ日ヨリ二週間以內ニ主タル事務所ノ所在地ニ於テ左ノ事項ノ登記ヲ爲スベシ

一 名稱
二 目的
三 主タル事務所所在ノ場所
四 法人タル勞働組合設立ノ年月日
五 理事ノ氏名及住所

前項ニ揭ゲタル事項ニ變更アリタルトキハ一週間以內ニ其ノ登記ヲ爲スベシ

第六條 本法ニ依リ登記スベキ事項ハ其ノ登記前ニ在リテハ之ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ズ

本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登錄稅ヲ課セズ

本法ニ規定スルモノノ外登記ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 民法第四十四條、第五十條、第五十二條乃至第五十九條ノ規定ハ法人タル勞働組合ニ之ヲ準用ス

第八條 組合員ノ總會ノ決議スベキ事項左ノ如シ

一 基金ヲ設置シ又ハ廢止スルコト
二 豫算ヲ定メ又ハ決算ヲ承認スルコト
三 規約ヲ變更スルコト
四 聯合團體タル勞働組合ヲ設立シ又ハ之ニ加入シ若ハ之ヨリ脫退スルコト
五 組合ヲ解散スルコト
六 法人タル勞働組合ノ合併又ハ分割ヲ爲スコト

聯合團體タル勞働組合ニ在リテハ其ノ規約ノ定ムル所ニ依リ之ニ屬スル組合ヨリ選出シタル者ノ會議ヲ以テ總會トス

第九條 勞働組合ハ規約ヲ以テ總會ニ代ルベキ總代會ヲ設クルコトヲ得

第十條 勞働組合ハ同一又ハ類似ノ職業又ハ產業ノ勞働者ニ非ザル者ト雖モ左ニ揭グル者ヲ組合員ト爲スコトヲ得

一 當該組合ノ役員又ハ役員タリシ者
二 同一又ハ類似ノ職業又ハ產業ノ勞働者タリシ者

第十一條 勞働組合ハ組合員ノ脫退ニ關シ不當ナル條件ヲ定ムルコトヲ得ズ

第十二條 勞働組合ハ衆議院議員又ハ北海道會、府縣會、市會、町村會其ノ他之ニ準ズベキモノノ議員ノ選擧運動ニ關シ費用ヲ支出シ又ハ其ノ費用ニ充ツル爲組合員ヨリ金錢ヲ徵收スルコトヲ得ズ

第十三條 雇傭者ハ勞働者ガ勞働組合ノ組合員タルノ故ヲ以テ之ヲ解雇スルコトヲ得ズ

雇傭者ハ勞働者ガ勞働組合ニ加入セザルコト又ハ組合ヨリ脫退スルコトヲ雇傭條件ト爲スコトヲ得ズ

前二項ノ規定ニ違反スル解雇ノ意思表示又ハ雇傭契約ノ約款ハ之ヲ無效トス

第十四條 法人タル勞働組合ガ組合員（聯合團體タル勞働組合ニ在リテハ之ニ屬スル組合ノ組合員）ノ共同利益ノ保護增進ノ目的ヲ以テ組合員ノ生活ニ必要ナル物ヲ組合員ニ供給シ若ハ利用セシメ又ハ組合員ノ生產シタル物ヲ賣却スルノ事業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ事業ヨリ生ズル所得及純益ニ付所得稅及營業收益稅ヲ課セズ

第十五條 行政官廳ハ勞働組合ニ對シ其ノ業務若ハ財產ノ狀況又ハ組合員ノ員數ニ關シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第十六條 勞働組合ノ會議ノ決議法令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スルトキハ行政官廳ハ之ヲ取消スコトヲ得

第十七條 勞働組合ノ規約法令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スルトキハ行政官廳ハ其ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十八條 勞働組合ノ行爲安寧秩序ヲ紊ルトキハ主務大臣ハ勞働組合ノ解散ヲ命ズルコトヲ得

第十九條 前三條ノ處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十條 勞働組合ハ左ノ事由ニ因リ解散ス

一 規約ニ定メタル事由ノ發生
二 總會ノ決議
三 組合員ノ缺亡
四 組合解散ノ命令
五 法人タル勞働組合ノ合併又ハ分割
六 法人タル勞働組合ノ破產

第二十一條 法人タル勞働組合合併又ハ分割ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ債權者ニ對シ異議アラバ二月ヲ下ラザル一定ノ期間內ニ之ヲ述ブベキ旨ヲ公告シ且知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告スベシ

債權者前項ノ期間內ニ異議ヲ述ベタル

トキハ組合ハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非ザレバ合併又ハ分割ヲ爲スコトヲ得ズ

前二項ノ規定ニ違反シテ合併又ハ分割ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ合併又ハ分割ハ之ヲ以テ當該債權者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第二十二條　法人タル勞働組合合併シタルトキハ合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リ設立シタル組合ハ合併ニ因リ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

法人タル勞働組合分割シタルトキハ其ノ定ムル所ニ從ヒ分割ニ因リ設立シタル組合其ノ權利義務ヲ承繼ス

第二十三條　法人タル勞働組合合併又ハ分割ヲ爲シタルトキハ二週間以內ニ合併又ハ分割後存續スル組合ニ付テハ變更ノ登記ヲ爲シ、合併又ハ分割ニ因リ消滅シタル組合ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ、合併又ハ分割ニ因リ設立シタル組合ニ付テハ第五條ノ登記ヲ爲スベシ

第二十四條　勞働組合解散シタルトキハ一週間以內ニ其ノ事由及年月日ヲ行政官廳ニ屆出ヅベシ但シ第二十條第四號ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十五條　法人タル勞働組合解散シタルトキハ合併、分割又ハ破產ノ場合ヲ除クノ外淸算ヲ爲スベシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ財產ノ處分ハ規約又ハ總會ノ決議ニ依ル

民法第七十二條第三項及第七十三條乃至第八十三條ノ規定ハ法人タル勞働組合ノ淸算ニ關シ之ヲ準用ス

第二十六條　非訟事件手續法第三十五條、第三十六條及第百三十六條乃至第百三十八條ノ規定ハ法人タル勞働組合ニ之ヲ準用ス

第二十七條　陸海軍軍人軍屬ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ勞働組合ノ組合員ト爲ルコトヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第二十八條　勞働組合ノ代表者ハ左ノ場合ニ於テハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

一　第二條、第二十四條若ハ附則第三項ノ屆出又ハ第十五條ノ報告ニ付之ヲ怠リ又ハ虛僞ノ屆出若ハ報告ヲ爲シタルトキ

二　第四條第三項ノ規定ニ違反シタルトキ

三　第十二條ノ規定ニ違反シテ費用ヲ支出シ又ハ金錢ヲ徵收シタルトキ

第二十九條　法人タル勞働組合ノ理事又ハ淸算人ハ左ノ場合ニ於テハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

一　第五條、第二十三條又ハ民法第七十七條ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

二　第二十一條第一項又ハ第二項ノ規定ニ違反シテ合併又ハ分割ヲ爲シタルトキ

三　民法第八十二條ノ場合ニ於テ裁判所ノ檢查ヲ妨ゲタルトキ

四　民法第八十一條ノ規定ニ違反シ破產宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

五　民法第七十九條又ハ第八十一條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

第三十條　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附　則

本法ハ昭和六年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條ニ揭グル事項ヲ目的トスル勞働者ノ團體又ハ其ノ聯合團體ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ之ヲ本法ノ勞働組合ト見做ス

本法施行ノ際現ニ存スル勞働組合ハ本法施行ノ日ヨリ一月以內ニ第二條ノ規定ニ準ジ屆出ヲ爲スベシ

勞働爭議調停法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和六年三月十七日

衆議院議長　藤澤幾之輔

貴族院議長公爵德川家達殿

勞働爭議調停法中改正法律案

勞働爭議調停法中左ノ通改正ス

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

第一項ニ揭グル以外ノ事業ニ於テ勞働爭議發生シタル場合ニ於テ著シク關係地方ノ產業又ハ公益ヲ害スル虞アリト認メタルトキハ行政官廳ハ當事者ノ請求ニ依リ調停委員會ヲ開設スルコトヲ得當事者ノ請求ナキ場合ト雖モ行政官廳ニ於テ必要アリト認メタルトキ亦同ジ

第一條ノ二　前條第一項若ハ第三項ニ規定スル勞働爭議ニ付當事者ノ請求アリタルトキ若ハ行政官廳ニ於テ必要アリト認メタルトキ又ハ同條第二項ニ規定スル勞働爭議ニ付當事者雙方ノ請求アリタルトキハ行政官廳ハ當該官吏ヲシテ調停ニ關スル調查審理ヲ爲サシムルコトヲ得

第二條　行政官廳調停委員會ヲ開設セントスルトキ又ハ當該官吏ヲシテ調停ニ關スル調查審理ヲ爲サシメントスルトキハ當事者雙方ニ之ヲ通知スベシ

第三條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ同條第二項中「前項」ヲ「第一項」ニ改ム

行政官廳ハ當事者雙方ノ同意アリタルトキハ前項ニ定ムル委員ノ數ヲ增減スルコトヲ得

第九條ニ左ノ二項ヲ加フ

當該官吏調停ニ關スル調查審理ヲ爲ス場合ニ於テハ第二條ノ規定ニ依ル通知アリタル日ヨリ十日以內ニ調查審理手續ヲ結了スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ行政官廳必要アリト認メタルトキハ之ヲ延長スルコトヲ得但シ十日ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十條中「各二名」ヲ「各半數」ニ改ム

第十二條第二項ヲ左ノ如ク改ム

行政官廳ハ當該官吏ヲシテ調停委員會ニ出席シ意見ヲ述ベシムルコトヲ得

第十三條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ規定ハ第一條ノ二ノ規定ニ依リ當該官吏ガ調停ニ關スル調查審理ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十九條中「調停手續」ノ下ニ「又ハ調查審理手續」ヲ加ヘ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

第一條第一項ニ揭グル以外ノ事業ニ於ケル勞働爭議ニ關シ行政官廳ガ著シク關係地方ノ產業又ハ公益ヲ害スル虞アリト認メタル場合ニ於テ第二條ノ規定ニ依ル通知アリタルトキ亦前項ニ同ジ

第十九條ノ二　第一條第一項ニ揭グル事業ニ於ケル勞働爭議ニ關シ作業閉鎖又ハ同盟罷業ヲ爲ス場合ニ於テハ當事者(當事者ガ團體又ハ集團ナル場合ニ於テハ其ノ主タル代表者)ハ三日前ニ行政官廳ニ對シ調停委員會開設ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條第一項ヲ左ノ如ク改ム

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

一　故ナク第十三條ニ規定スル出席說明又ハ說明書類ノ提示ヲ爲サザル者

二　第十九條ノ二ノ規定ニ違反シタル者

第二十二條中「第十九條」ヲ「第十九條第一項」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

第十九條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

本法ハ昭和六年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔副議長公爵近衞文麿君議長席ニ著ク〕

〔國務大臣安達謙藏君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(安達謙藏君)　只今議題トナリマシタ勞働組合法案ノ提出ノ理由ヲ説明イタシマス、産業ノ發達ニ伴ヒマシテ、勞働者ガ團結シテ、其自助的手段ニ依リ、地位境遇ノ改善向上ヲ圖ルニ至リマスルコトハ是レ自然ノ現象デアリマシテ、我國ガ近代的産業組織ヲ採用イタシマシタル以上、當然ニ生ズベキ結果ト申サネバナリマセヌ、此勞働者ノ團結運動ニ對シマシテ、結社ノ自由ハ既ニ憲法ノ保障スル所ナルガ故ニ、特ニ法制ヲ設クルノ要ナシト云フ理由ノ下ニ、法律ニ觸レザル限リ之ヲ自由ニ放任イタシマシテ、勞働者ノ團結運動ニ關聯シテ起ル所ノ、事業主勞働者間ノ諸般ノ紛議ハ、兩者ノ間ノ實力ノ解決ニ委ネ、之ニ基因スル所ノ産業界竝ニ社會ノ不安ヲ拱手傍觀スルガ如キハ、國家トシテ執ルベキ態度デハナイト信ジマス、近時我國ニ於キマシテモ、勞働組合ノ組織セラルルモノ漸ク多ク、昭和五年六月末ニ於キマシテ、勞働組合ノ數六百五十、其組合員數實ニ三十四万二千餘人ニ上ッテ居リマス、且ツ年々增加ノ傾向ニアリマシテ、産業上竝ニ社會上勞働組合ノ地位ハ頗ル重要トナッテ來タノデアリマス、此情勢ニ鑑ミマシテ今日勞働組合法ヲ制定イタシテ、法律上勞働者ノ團結ヲ公認スルト共ニ、其組織及ビ行動ニ關シ據ルベキ基準ヲ與ヘ、其運動ヲシテ秩序統制アラシムルコトハ、誠ニ喫緊ノ要務デアルト信ズルノデアリマス、蓋シ現在我國ニ於キマシテハ、勞働組合ノ組織ニ關シテハ據ルベキ特別ノ法制ナク、勞働組合ハ未ダ法律上公認サレテ居リマセヌ爲メ、往々ニシテ不穩當ナルモノノ如ク考ヘラレ、之ガ爲メ勞資間ノ關係協調偕和ヲ缺キ、不必要ニ事端ヲ釀シ、紛議ヲ生ズルコト稀デアリマセヌ、又之ガ爲メ勞働組合ニ於テモ、勢ヒ事業主ニ對シ抗爭的ノ手段ニ出デ、其行動自然ニ矯激ニ流ルル場合ガアリマス、斯ノ如キハ決シテ勞資ノ融和、産業界ノ健全ナル發展ヲ期スル所以デハナイノデアリマシテ、此意味ニ於テ、第一ニ勞働組合ヲ法律上公認スルノ必要ヲ感ズルノデアリマス、勞働組合ヲ法律上公認シテ、其社會的職分ヲ認ムルト云フコトハ、一面ニ社會的責任ヲ自覺セシメ、其自重ヲ促ス所以デアリマシテ、之ニ依ッテ自然ニ其行動ヲ穩健中正ナラシムルコトヲ得ル次第デアルト信ズルノデアリマス、尚ホ現在我國多數ノ勞働組合ノ中ニハ、間〻矯激不當ナル行動ニ出ヅルモノモナイトハ言ヘマセヌガ、是ハ勞働組合ノ進ムベキ正道ニアラザルコトハ勿論デアリマシテ、政府モ亦之ヲ是認シ、又ハ之ヲ放任セムトスルモノデハ決シテナイノデアリマス、其行動ニシテ、社會ノ公安ヲ害スルガ如キモノニ對シマシテハ、法ニ照シテ嚴ニ處斷スベキコト勿論デアリマシテ、又現ニ左樣イタシテ居ル次第デアリマスガ、本法案ニ於キマシテハ更ニ進ンデ勞働組合ノ行動ガ法規ニ違反シ、又ハ公益ヲ害スル等ノ場合ニ付キ、相當之ガ監督是正ノ方法ヲ規定イタシマシテ、勞働組合運動ニ規律ヲ與ヘントスルモノデアリマス、決シテ漫然勞働組合ヲ保護シテ不法不當或ハ矯激ナル行動ヲ是認セントスルモノデハナイノデアリマス、以上ノ精神ニ基キマシテ本法案ヲ立案イタシタ次第デアリマスガ、其内容ノ大略ハ一、勞働條件ノ維持改善ト組合員ノ共濟、修養其他共同利益ノ保護增進トヲ併セ目的トスル同一又ハ類似ノ職業又ハ産業ノ勞働者ノ團體ヲ勞働組合トスルコト、右勞働組合ガ同一又ハ類似ノ職業又ハ産業ニ依ル聯合團體ヲ組織シタル場合其聯合團體ヲモ勞働組合トスルコト、二、勞働組合ハ法人タルコトヲ得ルコト、三、勞働組合ハ同一又ハ類似ノ職業又ハ産業ノ勞働者ニアラザル者ト雖モ當該組合ノ役員又ハ役員タリシ者及ビ同一又ハ類似ノ職業又ハ産業ノ勞働者タリシ者ヲ組合員トナスコトヲ得ルコト、四、勞働組合ハ衆議院議員又ハ地方議會ノ議員ノ選擧運動ニ關シ費用ヲ支出シ又ハ其費用ニ充ツル爲組合員ヨリ金錢ヲ徵收スルコトヲ得ザルコト、五、雇傭者ハ勞働者ガ勞働組合ノ組合員タルノ故ヲ以テ、之ヲ解雇スルコトヲ得ザルコト、雇傭者ハ勞働者ガ勞働組合ニ加入セザルコト又ハ組合ヨリ脫退スルコトヲ雇傭條件ト爲スコトヲ得ザルコト、六、法人タル勞働組合ガ組合員ノ共同利益ノ保護增進ノ目的ヲ以テ組合員ノ生活ニ必要ナル物ヲ組合員ニ供給シ若クハ利用セシメ又ハ組合員ノ生産シタル物ヲ賣却スルノ事業ヲ營ム場合ニ於テハ、其事業ヨリ生ズル所得及純益ニ付キ所得稅及營業收益稅ヲ課セザルコト、七、勞働組合ノ監督ハ左記ニ依ルコト、(イ)行政官廳ハ勞働組合ニ對シ其業務若クハ財産ノ狀況又ハ組合員ノ員數ニ關シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得ルコト、(ロ)勞働組合ノ會議ノ決議法令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スルトキハ行政官廳ハ之ヲ取消スコトヲ得ルコト、(ハ)勞働組合ノ規約法令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スルトキハ行政官廳ハ其變更ヲ命ズルコトヲ得ルコト、(ニ)勞働組合ノ行爲安寧秩序ヲ紊ルトキハ主務大臣ハ其解散ヲ命ズルコトヲ得ルコト、八、本法施行ノ際現ニ存スル勞働者ノ團體又ハ其聯合團體ニシテ、勞働條件ノ維持改善ト組合員ノ共濟、修養其他共同利益ノ保護增進トヲ併セ目的トスルモノハ、之ヲ本法ノ勞働組合ト看做スコト等デアリマス、之ヲ要スルニ勞働組合法制定ノ目的ハ、勞働組合運動ヲ正シキ軌道ニ載セテ之ヲ穩健中正ニ導キ、産業ノ健全ナル發達ト社會ノ平和トヲ期スルニ外ナラナイノデアリマス、速ニ御審議ノ上御協贊アランコトヲ切ニ希望スル次第デアリマス、次ニ勞働爭議調停法中改正法律案ニ付キマシテ提出ノ理由ヲ説明中上ゲマス、最近ニ於ケル勞働爭議ノ狀況ヲ見マスルニ、財界ノ不況ニ伴ヒ、件數、參加人員等著シキ增加ヲ示シツツアリマス、卽チ昭和四年中ニ於ケル同盟罷業怠業及ビ工場閉鎖等ノ件數ハ五百七十六件、之ニ參加シタル勞働者ノ數ハ七万七千四百四十四人ニ達シ、又昭和五年中ニハ一月乃至九月ノ九箇月間ニ既ニ六百九十五件ノ發生ヲ見、其參加人員モ六万四千三百一人ニ及ンデ居ルノデアリマス、其結果トシテ勞働爭議ノ當事者ガ蒙ル經濟上ノ損害ハ固ヨリ、其國家ノ産業及ビ經濟ニ及ボス影響ハ誠ニ容易ナラザルモノガアルノデアリマス、斯ノ如キ爭議ノ發生ヲ出來得ル限リ未然ニ防止シ、竝ニ其圓滿ナル解決ノ機會ヲ多カラシムル爲ニハ、現行勞働爭議調停制度ハ必シモ適當且ツ十分ナリト云ヒ難キモノガアルト思フノデアリマス、卽チ大正十五年現行法施行以來ノ狀況ヲ見マスルニ、法制上ニ認メラレタル調停機關ハ調停委員會デアリマスガ、之ヲ開設シ得ル場合ノ要件、或ハ其組織等實際ノ運用ニ適セズ、既往約五箇年間僅ニ二回ニ過ギマセヌ、又現行法施行以來、各廳ニ配屬セラレタル調停官吏等ノ法律ニ依ラザル調停ニ依ッテ、爭議ノ解決セラルルモノハ相當多數ニ上リマスガ、右ニ關シテハ固ヨリ法制上何等準據スルモノガナク、事務處理上不便ヲ感ズル場合ガ極メテ多イノデアリマス、右ノ如キ事情ニ基キ今回時代ニ適應スベキ勞働爭議調停制度ヲ制定シタイト考ヘ、玆ニ法律案ヲ提出イタシタ次第デアリマス、改正法律案ノ内容ハ相當多方面ニ亙リマスガ、其要領ハ以下ノ三點デアリマス、其一點ハ行政官廳ガ調停委員會ヲ開設シ得ル場合ノ擴張ニ關スルモノデアリマシテ、卽チ現行法ノ下ニ於テハ所謂私益事業ニ於テハ、當事者ノ双方ヨリ請求ガナケレバ調停委員會ヲ開設シ得ザルコトトナッテ居リマスガ、今度ハ私益事業ノ爭議ニ於テモ、其狀況ニ依リ、著シク其關係地方ノ産業又ハ公益ヲ害スル虞

アルモノト認メタル場合ニハ、之ヲ公益事業ニ於ケル爭議ニ準ジ、當事者一方ノミノ請求ニ依リ、又ハ行政官廳ノ職權ヲ以テ、調停委員會ヲ開設シ得ルモノト改メタノデアリマス、第二ニ當該官吏ノ調停ニ關スル權限ヲ新ニ規定シ、仍テ當該官吏ガ從來事實上行ヒ來ッタ調停ニ關スル職權ヲ法認スルト同時ニ、其職權ヲ發動シ得ル場合ノ規定ヲ設ケタノデアリマス、其第三點ハ現行法第一條第一項ニ列擧セラレル公益事業ノ勞働爭議ニ於テ、當事者ガ作業閉鎖又ハ同盟罷業ノ如キ所謂爭議手段ヲ用フル場合ハ、事前ニ調停委員會開設ノ申請ヲ爲シ得ベキコトヲ規定イタシタノデアリマス、以上述ベタルガ如キ改正ニ依ッテ爭議ニ基ク無用ノ犧牲ヲ除キ、勞資ノ協調竝ニ産業ノ平和ヲ促進スルコトハ、現時ノ産業界及勞働爭議ノ實狀ニ鑑ミ誠ニ緊要デアルト存ジマス、是レ本改正法律案ヲ提出シタ所以デアリマス、何卒御審議ノ上御協贊アラムコトヲ願ヒマス

○**副議長(公爵近衞文麿君)**　是ヨリ通告ニ依リマシテ質疑ヲ許シマス、藤原銀次郎君

〔議長公爵徳川家達君議長席ニ復ス〕

〔藤原銀次郎君演壇ニ登ル〕

○**藤原銀次郎君**　私ハ勞働組合法案竝ニ爭議調停法中改正法律案ニ對シマシテ内務大臣ニ質疑ヲ致シタイト存ジマス、其質疑ノ本論ニ這入リマスル前ニ、前提ト致シマシテ聊カ申述ベテ置キタイコトガゴザイマス、ソレハ只今我國ニ於キマシテハ、此勞働問題ハ非常ナ重要ナ問題ニ相成リマシタト同時ニ色々誤解ノ點ナドモ甚ダ尠ナクナイノデゴザイマス、例ヘバ勞働者ト世ニ所謂勞働「ブローカー」トカ或ハ無産黨トカ若クハ思想運動家トカ云フヤウナモノヲ混同イタシマシテ、何レモ之ヲ勞働者ト斯ウ見做スト云フヤウナ傾ガゴザイマス、是ハ此勞働問題ノ發生ガ比較的ニ近代的ノモノデゴザイマスルカラ、斯ウ云フ工合ニナッテ參リマシタモノデアラウト存ジマスガ、例ヘバ土地ノ「ブローカー」ト申シマスモノハ地主デハナイノデアリマス、保險「ブローカー」ハ保險業者デハナイノデアリマス、サウ云フヤウナ工合ニ此總テ「ブローカー」ト云フヤウナモノト、ソレカラシテ勞働者ト云フモノトノ間ニハ劃然タル區別ガナケレバナルマイ、ソコデサウ云フヤウナ譯デアリマスカラ、或ル場合ニ於キマシテハ、勞働者ノ聲、或ハ勞働者側ノ聲ト云フヤウナコトヲ度々承リマスルガ、其勞働者側ノ聲ト申シマスルモノガ、眞實ノ勞働者ノ聲ニアラズシテ、或ハ無産黨ノ聲デアッタリ、或ハ所謂勞働「ブローカー」ノ聲デアリマシタリ、或ハ其外ニ思想運動家ノ聲デアリマスルト云フヤウナコトノ間違ヒガ往々ニシテゴザイマスルノデアリマシテ、現ニ此衆議院ニ於キマシテ委員會ナドノ質問應答ナドヲ速記錄ニ依ッテ拜見イタシマスルト云フト、往々ニシテサウ云フコトノ混同セラレテ居ルノデハナイカト云フヤウナ疑ヲ發見イタシマスルノデアリマス、現ニ内務大臣ナドノ色々ノ御答辯ノ中ナドニ、勞働者側ハ斯ウ云フコトヲ主張スルト云フヤウナ御答辯ガ度々繰返サレテ居リマスルガ、サウ云フ中ニモ或ハ此區別ヲ御混同ニナッテ居ルノデハナイカト思ハレルヤウナ節モアルノデゴザイマス、ソコデ次ニ又私共ノ此立場ヲ申上ゲテ置キタイト思ヒマスルノハ、現代ノ産業ガ著シキ急速ナ發達ヲ致シテ參リマシテ、此産業ノ三大要素即チ資本ト勞働ト經營ト此三ツガ最モ重要ナ要素デアルノデアリマシテ、此三ツノ調和ヲ缺キマシタナラバ、如何ナル産業モ完全ニ發達スルト云フコトガ出來ナイト云フコトハ當然ノコトデアリマス、ソレ故ニ私共現代的産業ノ經營ニ從事シテ居リマスルモノハ常ニ此資本、勞働、經營ノ三者ノ協定ニ專ラ重キヲ置イテ居リマスト云フコトモ、是ハ事實デアリマス、此往々ニシテ中小工業ナドノ此家族的工業ナドノ中ニハ、今尙ホ古來ノ習慣ニ依リマシテ、或ハ徒弟制度ダトカ、其外ノ此資本勞働ノ關係ニ於テ現代的思想ニ反シタモノモ絶無トハ申シマセヌケレドモ、併シ段々ニ此現代的産業ニ於キマシテハ、勞働ニ對スル觀念ガ古ノ封建時代ノ觀念ノヤウナモノデナイト云フコトモ是ハ當然ノコトデアリマシテ、現ニサウナリツツアルノデアリマシテ、ソコデサウ云フ譯デアリマスルカラ、私共ガ起ッテ此勞働組合法案ニ反對ヲ致シマスルト云フト、往々ニシテ勞働者ニ反對スルノデハナイカト云フヤウナ疑ヲ懷カレルノデアリマスガ、併シ是ハ全クノ誤解デアリマシテ、我々ハ眞ニ勞働者ノ爲ニ、勞働者ノ利益ニ……今日此世ノ中ニ現ハレテ居リマスルヤウナ勞働組合法案ト云フモノハ不利益ナモノデアル、其幸福ヲ増進スル所以デナイト云フ信念ヲ以テ之ニ對シテ反對ヲシテ居リマスルモノデゴザイマス、ソレデ我々ノ考ニ依リマスルト、此勞働……眞實ノ、眞ノ我國ノ勞働者ハ決シテ此階級闘爭ヲ主張スルト云フヤウナコトヲ私共想像イタシテ居リマセヌ、又社會ノ革命運動ニ參加シヤウト云フヤウナコトヲ眞實ニ勞働者ハサウ云フコトヲ考ヘテ居ルトハ、私共ハ想像イタシテ居リマセヌ、デ此現代ニ於キマシテ此勞働運動ト云フモノハ多クハ社會運動、思想運動、無産黨若クハ所謂勞働「ブローカー」ト云フヤウナ方面カラ、一種ノ新思想ト稱スル所ノ一種ノ運動ガ起リマシテ、ソレガ勞働者ノ聲トナッテ世間ニ唱ヘラレテ居ルノデアリマスガ、併ナガラソレハ前段ニ申上ゲマシタ通リニ、決シテ眞正ナル勞働者ノ聲ニアラズシテ、所謂「ブローカー」、所謂思想運動家、所謂無産黨ノ聲デアルト云フコトデアルノデアリマシテ、其意味ニ於キマシテ我々ノ立場若クハ此所謂思想運動家、所謂勞働「ブローカー」ト云フヤウナモノノ其聲ト、眞正ナル勞働者ノ聲トハ御混同ノナイヤウニ、前提シテ茲ニ私ノ所感ヲ前以テ申上ゲテ置キマス次第デアリマス、ソコデ私共ハ勞働者ガ團結ヲ致シマシテ、サウシテ弱キ立場ニ在ルカラ、個人々々デ事業家若クハ資本家ト取引ヲスルト云フコトハ、勞働者トシテ非常ニ不利ナ立場デアル、故ニ之ニ團結ヲ與ヘ、團結ノ力ヲ以テ資本家若クハ事業主ト、對等ノ取引ヲシヤウト云フ所ノ近代的ノ精神ニ對シテハ、絶對ニ反對イタス者デハアリマセヌ、是ハ現代ノ思想ニ於テ現代ノ社會狀態ニ於テ當然ナコトデアラウト思ヒマス、併ナガラ元々此勞働者ト資本家ノ取引ト云フモノハ、是ハ經濟上ノ取引デナケレバナラヌ、決シテ是ガ勞働階級ト資本階級トノ間ノ闘爭トナッテハナラヌ、飽マデ經濟上ノ一ツノ商行爲デアル、經濟的行爲デアルト云フコトノ立場ニ立タナケレバナラヌモノデアルト思フノデアリマス、ソレ故ニ若シモ我國ノ勞働組合法ト云フモノガ經濟的ニ出發シテ、經濟的ニ之ヲ團結サセテ、サウシテ經濟的ノ立場ニ於テ勞働者ガ團結シテ、資本家若クハ事業家ト取引ヲスルト云フコトデアルナラバ、私共ハ之ニ向ッテ決シテ反對ヲスルモノデハナイノデアリマス、之ニ反シテ若シモ此勞働者ヲ階級的ニ團結サセテ、サウシテ資本階級ト勞働階級ト云フ二ツノ階級的ノ闘爭ニ之ヲ導カウト云フコトデアルナラバ、是ハ經濟的ノ行爲デハナイノデアリマス、社會改良ノ一ツノ政治的ノ行爲デアリマス、決シテ經濟的ノ行爲デハナイノデアリマスカラシテ、其意味ニ於テサウ云フ意味ノ團結デアルナラバ、之ニ反對シタイト思フノデアリマス、是ヨリ漸次私ノ質問ニ移リタイト存ジマスルガ、時間ノ都合ガゴザイマスルノデ、甚ダ申譯ガゴザイマセヌケレドモ、午後ニ本論ニ付テ申上ゲタイト存ジマス、只今ハ是デ失禮イタシマス(拍手起ル)

○**議長(公爵徳川家達君)**　午後一時三十分マデ休憩イタシマス

午前十一時五十四分休憩

午後一時四十四分開議

○副議長（公爵近衛文麿君）　書記官ヲシテ報告ヲ致サセマス

〔瀨古書記官朗讀〕

本日入營者職業保障法案特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

委員長　子爵渡邊　七郎君

副委員長　男爵井田　磐楠君

○副議長（公爵近衛文麿君）　是ヨリ會議ヲ開キマス、藤原君

〔藤原銀次郎君演壇ニ登ル〕

○藤原銀次郎君　私ノ第一問ハ思想問題ト勞働組合法ニ對スル關係ニ付キマシテ、內務大臣ノ御所感ヲ承リタイノデアリマス、先ヅ此問題ニ這入リマス前ニ、私ハ此我國ニ於キマシテ勞働組合法案ガ現レテ參リマシタ以來ノ經過ヲ簡單ニ申上ゲマシテ、サウシテ又勞働組合ガ今日ニ至リマシタ經過ヲ簡單ニ申上ゲマシテ、ソレヨリ本論ニ這入リタイト存ジマス、大正九年ニ政府ガ勅令ヲ以テ臨時產業調查會ヲ設立イタシマシテ、之ヲ內閣ノ直屬ノ諮問機關ト致シマシタ、ソシテ重要ノ產業ニ關スル重要事項ヲ調查審議セラル、コトニ相成リマシテ、同時ニ此調查會ニ向ッテ勞働組合法案ノ制定ヲ命ゼラレマシタ、其時ニ農商務省ヨリ提出イタシマシタモノガ即チ農商務省案デアル、又同時ニ內務省ヨリ此產業調查會ニ提出セラレマシタモノガ所謂內務省案デアリマス、ソコデ此農商務省案ト云フモノハドウ云フモノデアルカト申シマスレバ、今日ノ所謂職業組合主義デアリマス、即チ英吉利ノ「トレードユニオン」ト云フモノヲ目標ニシテ、產業的ノ團體ニ勞働組合ト云フモノハセナケレバナラヌト云フノデアリマス、又內務省ノ方ノ案ハ之ニ反シテ、其當ノ我ガ國ニ於キマシテ存在イタシテ居リマシタ所ノ勞働組合ト云フモノヲ目標ニシテ、之ヲ保護シ助長シテ行カウト云フ趣意カラ出來マシタ所ノ、即チ一般組合ヲ主義ト致シマシタ案デゴザイマス、ソレ故ニ其當時ニ於テハ、之ヲ橫斷的ノ組合ト申シテ居リマシタガ、今カラ之ヲ考ヘテ見マスレバ、農商務省案ハ專ラ此經濟的團體ト云フモノヲ主眼トシ、內務省案ハ階級的ノ色彩ヲ若干含ンデ居ルト云フヤウナコトハ免レナイヤウナ狀態デアリマシタ、爾來度々議會ニモ組合法案ト云フモノガ提出サレマシテ、政府カラモ提出サレマシテ朝野ノ間ニ大イニ論議ヲ盡サレマシタケレドモ、此論議ハ細目ニ亙リマスト色々ニ分レテ居リマスルガ、大體ニ於テハ矢張リ一方ニ於テハ此產業組合主義、一方ニ於テハ一般組合主義ト、斯ウ云フモノニ、二ツノ潮流ニ分レテ居ルノデアリマス、而ッテ民間ニ於キマシテハ、無論農商務省ノ案ヲ支持イタシマシテ居リマシタ、ソレカラ又社會運動若クハ新思想家ノ方ハ內務省案ヲ支持シテ居リマシタ、ソコデ私ノ承ハリマスル所ニ依リマスレバ、是ハ啻ニ民間ニ於テ斯ウ云フ議論ガ分レテ居リマスバカリデナクシテ、政府ノ部內ニ於テモ爾來引續キ其議論ト云フモノガ分レテ居リマシテ、今日農商務省ハ商工省トナリ、色々制度ノ變革ハゴザイマシタケレドモ、今尙ホ斯ウ云フ主義ガ役所ノ內部ニハ殘ッテ居リマスルト云フコトヲ承ハッテ居リマス、サウシテ一面ニ於キマシテハ陸海軍或ハ鐵道ト云フヤウナ其事業ニ關係ノアル所ノ官廳ニ於キマシテハ明カニ其主義ヲ言明セラレマセヌカラ、茲ニ明白ニ申上ゲルト云フコトハ憚リマスルケレドモ、幾分カ此農商務省案、即チ此經濟主義ト云フモノヲ支持セラルル如ク見エマシテ、民間ニ於テハ左樣ニ皆想像イタシテ居リマスルノデアリマス、所デ此民政黨內閣ガ組織イタサレマシテ十大政綱ノ一トシテ勞働組合法ト云フモノヲ施行セラルルト云フコトニナリマシテ、社會政策審議會ト云フモノヲ設ケマシテ、是ニ勞働組合法案ガ審議サレマシタ、其時ニ矢張リ又流レガ……此潮流ガ社會政策審議會ニ影響ヲ及ボシマシテ、即チ私共ノ承ッテ居リマスル所ニ依レバ社會局、即チ內務省ノ一部局デゴザイマスル所ノ社會局ガ、此社會局ノ一ツノ分店トモ申シマスル所ノ勞資協調會ト連絡ヲ取リマシテ、勞資協調會カラ此社會政策審議會ニ勞働組合ノ要項ト云フモノヲ提出シマシタ、サウシテ社會政策審議會ニ於キマシテハ、其協調會カラ提出サレマシタ所ノ要項ニ基キマシテ審議サレマシタ、承ハル所ニ依レバ若干ノ修正ハ加ヘラレマシタサウデアリマス、細カイ部分ニ於テ……細カイ點ニ於テ加ヘラレマシタト云フコトハ承ハリマシタケレドモ、殆ド其要項通リト申シテモ差支ナイ程度ニ於テ、社會政策審議會ガ其協調會ノ要項ヲ通過イタシマシテ、ソレヲ更ニ社會局ニ廻シマシテ、サウシテソレヲ骨子トシテ作リマシタ所ノモノガ所謂社會局案ト申シマスル所ノ勞働組合法案デアルノデアリマス、即チ其社會局案ト云フモノヲ能ク之ヲ研究イタシテ見マスレバ、今日現在、我國ニ於テ存續イタシテ居リマスル所ノ勞働組合、其勞働組合ヲ目標ニシテ、サウシテ此勞働組合法案ト云フモノヲ制定シテ、此勞働組合ヲ保護シ、發達サセテ行カウト云フノガ、即チ此社會局案ノ目的ト見做サレルノデアリマス、所デ大正九年以來今日ニ至ルマデノ間ニ於キマシテ、御承知ノ通リニ我ガ國ノ此國情ハ非常ナル變化ヲ致シマシタ、就中思想問題ト云フモノハ急速度ヲ以テ變化イタシテ參リマシタ、サウシテ此勞働組合ト云フモノハ、或ルモノハ無論此農商務省案ヲ支持セラルルガ如ク全ク此「トレード・ユニオン」ト云フモノヲ目標ト致シマシテ、經濟的團體ト云フモノヲ目標ニ致シテ發達イタシマシタ、之ヲ今日ノ言葉デハ協調的勞働組合ト申シテ居リマスルガ、是等ハ無論此英吉利流ノ勞働組合主義ニ依ッテ發達シテ參ッタモノデアリマスルガ、凡ソ此組合員ハ約十五六万人位ゴザイマセウ、確カナ數字ハ茲デ申上ゲ兼ネマスガ、マア十五六万人、乃至十七八万人デゴザイマセウ、是等ハ即チ協調的ノ勞働組合ト申サレテ居リマス、所ガ之ニ反シテ一方ニ世間カラハ鬪爭的勞働組合ト申サレテ居ル所ノ此勞働組合ト云フモノガ又非常ニ發達イタシマシテ、其數ガ今日デモ矢張リ十五六万人乃至十七八万人ニナッテ居リマスルノデアリマス、所デ此社會局ノ原案トシテ作成セラレマシタノガ、此經濟的ノ目的ニ依ッテ組織サレタ所ノ勞働組合、即チ所謂協調的勞働組合ニアラズシテ、所謂今日ノ鬪爭的勞働組合ト云フモノデ、左傾トカ右傾トカ、中間トカ申シテ居ルヤウニ斯ウ云フ組合ヲ目標ニシテ之ヲ保護シ、之ヲ助長シヤウト云フヤウナ目的ノ下ニ編成セラレマシタノガ、所謂社會局ノ案ト申スモノデアリマスル、ソコデ即チ此大正九年以

來、我國ノ社會ニ非常ナ變遷ガ起リマシテ、勞働組合ニモ無論此勞働組合ガ我國ニ初メテ、二十數年前ニ我國ニ生レマシタ時ニハ亞米利加流ノ純然タル經濟的團體トシテ生レタノデアリマス、爾來段々星霜ヲ經マシテ、サウシテ此經濟的ノ團體トシテ生レマシタ勞働組合ガ、漸次思想的ノ背景ヲ加味シテ、思想的ニ指導者ニ指導セラレマシテ、サウシテ今日ニ於キマシテハ、或ハ半バ經濟的團體デアルガ、半バ思想團體デアリ、半バ經濟的ノ行爲ヲスルガ、半バ政治的行爲ヲスル、斯ウ云フヤウナ種類ノ、一種歐羅巴各國ニ於テハ共類ヲ見ルコトノ出來ナイヤウナ、一種變則的ノ團體ト相成リマシタノデアリマス、此團體ヲ維持シ、之ヲ保護シヤウト云フコトガ此勞働組合法ノ目的トナルト云フコトニナリマスナラバ、自然此組合法ニ於テモ階級鬪爭的ノ色彩ヲ帶ビ、社會主義的ノ色彩ヲ帶ビルト云フコトニ至ルノハ、是ハ已ムヲ得ナイ所ノ成行デアラウト思フノデアリマス、ソコデ無論私共ハ內務大臣初メ、社會局ニ於キマシテモ我國ニ於テ社會主義ヲ宣傳シ、又社會主義ノ色彩ヲ以テ運動シテ居リマスル所ノ團體ヲ保護シテ、我國ノ階級鬪爭ヲ助長サセタリ、又社會主義ノ宣傳ヲ助ケヤウト云フヤウナ御考ガアッテ、積極的ニサウ云フ考ノ下ニ此案ヲ編成セラレタルモノトハ信ジテ居リマセヌ、又サウ云フ工合ニ解釋ハ致シテ居リマセヌガ、併ナガラ此現在ノ勞働組合ヲ保護シヤウト云フコトノ目的ニ依ッテ、編成セラレタ所ノ法案ハ、勢サウ云フコトノ結果ヲ齎スヤウニナッタノデアリマス、ソレ故ニ民間ニ於キマシテハ、此社會局ノ法案ト云フモノニ對シテ非常ニ猛烈ナル反對ガ起リマシタ、即チ若モ此社會局ノ法案ニ依リマシテ、我國ノ勞働組合ヲ指導イタシマシタナラバ、我國ノ產業ト云フモノハドウナルデアラウカ、又我國ノ此思想問題ト云フモノハドウナルデアラウカ、ト云フヤウナコトデ、非常ニ此論議ヲ茲ニ惹キ起シタノデアリマス、ソコデ此論議ノ末ニ世論モ囂々トシテヤカマシクナリマシテ、即チ一昨年ノ秋頃カラ此議論ガヤカマシクナリマシテ、遂ニ昨年ノ暮ニ至リマシテ內閣ノ決議ノ結果……會議ノ結果一ツノ妥協案ノヤウナモノガ生レマシテ、サウシテ其社會局案ニ向ッテ一大修正ヲ加ヘラレマシタ、即チ其修正ヲ加ヘラレマシタモノガ此度此議會ニ提出セラレマシタ所ノ政府案デアルノデアリマスルカラ、簡單ニ其修正ヲ加ヘラレマシタ點ニ付テ茲デ申上ゲテ見タイト思ヒマスル、第一ハ從來ノ此社會局案ハ所謂一般組合法案、階級的組合法案ト申シテモ差支ナイト思ヒマスルガ、現在ノ此勞働組合、即チ鬪爭的ノ色彩ヲ有ッテ居ル所ノ勞働組合法ニ依ッテ認メヤウト云フノデアリマスカラ、自然ニ一般組合法案トナリマシテ、階級的色彩ヲ有ッテ居リマスルモノデアリマスカラ、之ヲ民間ニ於キマシテハ鬪爭的ノ組合デアル、若シ此組合斯ウ云フヤウナ主義ヲ以テ勞働組合ヲ組織サレルナラバ、我國ノ勞働階級ト、所謂資本階級ト云フ二ツノ階級ト云フモノガ分レテ來テ、サウシテ階級鬪爭ト云フモノニナル、即チ「マルクス」ノ所謂階級鬪爭的組合ト云フモノニナッテ來テ、全ク經濟上ノ爭デナクシテ社會上ノ爭ニナル、政治上ノ爭ニナル、斯ウ云フ猛烈ナル反對ガ出テ參リマシタカラ、政府ニ於カレマシテハ、此第一條ニ於キマシテ此一般組合即チ階級的組合ト云フ主義ヲ棄テラレマシテ、之ヲ職業別組合、產業別組合ト斯ウ御訂正ニナリマシタ、即チ大正九年ニ初メテ農商務省カラ提案サレタ所ノ所謂農商務省案ノ主義ヲ採用サレマシテ、此鬪爭的ノ色彩ヲ全部取ラレマシテ、全ク此勞働組合ト云フモノハ、經濟上ノ團體デナケレバナラヌト云フ主義ヲ以テ、十數年前ニ初メテ主張セラレテ、爾來今日マデ實行スル……顧ミラレルコトノナイヤウナ主義デアリマシタ所ノ此經濟的團體デナケレバナラヌト云フ、即チ英吉利流ノ職業組合主義ヲ採用サレマシタ、是ハ即チ政府ト致シマシテハ非常ナル進步デアリマス、非常ナ讓步デ、內務省トシマシテハ非常ナル讓步デアラウト思ヒマス、此點ニ於キマシテハ職業組合主義即チ經濟主義ヲ主張シテ居リマシタ所ノ者ハ皆非常ニ滿足ノ意ヲ表シマシタ所ガ、段々此法案ヲ調ベテ見マスル所ガ、意外ニモ第一條ニ於キマシテハ斯ウ云フヤウナ新シイ所ノ英國流ノ勞働組合主義ヲ御採用ニナッタニモ拘ラズ、附則ニ於キマシテハ即チ經過規定ニ於テ、現存ノ勞働組合ハ全部之ヲ公認スルト云フコトノ條項ヲ設ケラレマシタ、即チ是ガ折角此第一條ニ於キマシテ經濟主義ト云フモノヲ確立サレテ、鬪爭主義ニ反對サレテ一ツノ非常ニ一大進步ヲ見タ所ノ勞働組合法ガ、附則ニ於キマシテ全部之ヲヒックリ返シテシマッテ、サウシテ從來ノ今日現存シテ居ル所ノ鬪爭的ノ組合ヲ全部之ヲ保護シヤウ、全部之ヲ助長シテ行カウト斯ウナリマシタカラ、第一條ノ目的ト云フモノハ是ニ於テ全然覆ヘサレルヤウナ形ニナッテ參リマシタ、ノミナラズ第十條ニ於キマシテ學生デモ或ハ思想家デモ或ハ露西亞人デモ外國人デモ如何ナル者デモ組合ノ役員ニナルコトガ出來ルト云フヤウナ規定ヲ設ケマシマシテ、サウシテ其第十三條ニ於キマシテハ又此組合員タル者ハ組合員タルガ故ヲ以テ解雇スルコトガ出來ヌト云フヤウナ保護規定ヲ設ケラレマシテ、尙ホ之ニ加ヘマスルニ第一條ニ於キマシテ勞働條件ノ維持改善ト共外ニ勞働者ノ共同利益ノ增進ト云フモノニ向ッテハ、之ヲ勞働組合ノ目的トシテ許スト云フコトニナリマシタカラ、詰リ此勞働者ノ共同利益ト云フモノノ中ニハ經濟上ノ共同ノ利益ト云フコトニモ限局セラレズシテ、單ニ共同利益トシテ制定イタサレマシタ結果、政治上デモ社會上デモ總テノ共同利益ト云フコトヲ認メラレルト云フヤウナ結果ニ立至ッテ參リマシタカラ、何レノ點カラ見テ之ヲ考ヘテ見マシテモ、折角此職業組合主義ヲ御制定ニナリマシタ所ノ根本ノ主義ト云フモノハ全部滅却セラレルト云フヤウニナッテ參リマシタノデアリマス、即チ茲ニ於テ私ハ現在ノ勞働組合ハ果シテドウ云フモノデアルカ、如何ナル種類ノモノガ現在ノ勞働組合デアルカト云フコトニ付キマシテ、簡單ニ申上ゲテ見タイト思ヒマス、前刻申上ゲマシタ協調的ノ即チ英吉利流ノ職業組合主義ニ依ッテ結合セラレテ居リマスル十七八万人ノ組合ノコトハ是ハ別ニ致シマシテ、他ノ私共ノ所謂鬪爭的組合ト申シマスル共十七八万乃至十五六万人ノ團體ハドウ云フコトヲ主張シテ居ルカト云フコトニ付キマシテ、簡單ニ申上ゲタイト思ヒマスル、此組合ハマア大體ニ於テ三ツニ分レテ居リマシテ所謂左翼ト中シマスルモノハ、是ハ細カク申上ゲレバ色々分類モアリマセウシ、ムヅカシクモナ

リマスルガ、極ク簡單ニ申上ゲマスルト云フト、左翼ノ勞働組合ト申シマスルモノハ、通常ニ所謂左翼ト申シテ居リマスルモノデ、純然タル共産系デアリマス、即チ此勞働組合ト云フモノハ唯共産主義ヲ宣傳スル所ノ一ツノ學校デアル、又勞働爭議ト云フモノハ革命ノ豫行演習デアルト云フヤウナ考ヲ以テ、結合セラレテ居リマスル所ノ頗ル危險ナル一ツノ團體デアルノデアリマス、ソレカラ右翼ト云フモノハ是ハ所謂「マルクス」流ノ階級鬪爭主義ト云フモノヲ主張シテ、又之ヲ實行セムトスルモノデアリマシテ、其主張スル所ハ動モスレバ我ガ國體ヲ危クシハシナイカト云フヤウナコトヲ主張シ、且ツ之ヲ實行シヤウトスル一ツノ團體デアルノデアリマス、ソレカラ中間ノ方ハ所謂左翼右翼ノ中間デアリマシテ、或ル場合ニハ純然タル勞働組合ノヤウナ行動モ致シマスル、或ル場合ニハ共産黨ノヤウナ行動モ致シマスル、或ル場合ニハ合法的ニ、或ル場合ニハ非合法的ニ色々ナコトヲ致シテ居リマスルガ、兎ニ角此兩派ノ中間ニ位スル所ノ團體デアルノデアリマス、ソコデ私ハ政府ハ如何ナル必要ガアッテ斯ウ云フヤウナ組合ヲ保護シ、斯ウ云フヤウナ團體ヲ保護セラレルカト云フコトニ付テ大イニ了解ニ苦シムノデアリマス、政府ハ如何ナル御考デアルカ知リマセヌガ、現在ノ組合ニ對シテ非常ニ擁護ノ地位ニ御立チニナッテ居ル、同時ニ又現在ノ組合ノ幹部ニ對シマシテモ非常ニ擁護ヲナサッテ居ル、安達内務大臣ハ衆議院ニ於テ左ノ如ク御述ベニナッテ居リマスル、「現在ノ組合ニシテ非常ナ過激ナ者ガ居ル、ソレダカラ之ヲ認メルト云フコトハ不都合デアルト云フ御話デアリマスガ、私ハ現在ノ組合ニ左樣ナ過激ナ者ガ居ルト云フコトハ認メテ居リマセヌ、曩ノ勞働爭議、今日ノ「ストライキ」ガ非常ニ惡化スル、過激ノ傾向アルハ寧ロ組合以外ノ者ガ後カラ應援ヲ致シマス、極端ニ思想惡化シタ所ノ學生ナドガ之ニ參加シテ、サウシテ經濟「ストライキ」ヲ益〻惡化シ、暴動化スルヤウナ傾向ガアリマス、現在ノ組合員ノ中ニ過激ナル者ガアルト云フヤウナコトハ私ハ考ヘテ居リマセヌ」、斯ウ申サレテ居リマス、即チ内務大臣、現在ノ組合員ニ過激ナ者ガアルドト云フコトハ認メテ居ラレナイノデ、現在ノ勞働爭議ノ惡化スルノハ組合員以外ノ者ノスルコトデアルト、斯ウ言ハレテ居ルガ、現在ノ組合ガ矯激ナル思想ヲ持チ、其爭議ガ矯激デアルト云フ事柄ハ、殆ド天下ノ周知ノ事實デアルノデアリマス、然ルニ此周知ノ事實スラモ認メナイ、又勞働「ブローカー」ト稱スルモノガ、現在甚ダシキ弊害ガアルト云フ事柄モ天下周知ノ事實デアルノデアリマス、然ルニ内務大臣ハ今後組合ノ役員ニナル者ハ決シテ、ソンナコトヲスル人ガナルヤウナコトハナイト斷言シテ居ラレマス、内務大臣ハ、私ハ世間デ顰蹙スルヤウナ人ガ將來組合ノ役員トナルヤウナコトハナカラウト、斯ウ委員會ニ於テ斷言セラレテ居リマスルガ、内務大臣ト勞働組合ノ「リーダー」ノ外ニ於テ何人ガ此言葉ヲ信ズル者ガアルデアリマセウカ、此勞働組合ハ左傾ト言ハズ、右傾ト言ハズ、悉ク現在ノ資本主義經濟組織ヲ否認シテ、無産階級ノ革命ヲ唱ヘテ居リマスル、彼等ハ口ヲ開ケバ直ニ階級鬪爭ト言ヒマス、此階級鬪爭ト云フ事柄ハ餘リニ濫用セラレテ居リマスルガ故ニ、今デハ世間ニ本當ノ意義ガ傳ヘラレナイデ、唯勞働者ト資本家ガ喧嘩ヲスル、勞資鬪爭ト云フヤウナ意味ニ使ハレテ居リマスルガ、本當ノ意味ハサウデナイ、無産階級ノ團結ノ威力ヲ以テ有産階級ヲ屈服サセヤウ、社會組織ヲ革命シテ無産階級ノ權力ノ下ニ政治モ經濟モ悉ク支配シヤウトスルノデアリマスル、是ハ日本ノ國體ニ取ッテハ甚ダ危險ナル思想デアリマスル、若シ彼等ノ言フ所ノ理想ガ實現シタト考ヘテ御覽ナサイ、日本ニ於ケル貴族階級、日本ニ於ケル資本家階級、是等ノモノハ總テ權力ヲ奪ハレマシテ、唯無産階級ノ足下ニ蹂躪セラレル時代ガ出來タト致シマシタナラバ如何ニ相成ルデアリマセウカ、勞働組合ヲ組織シ指導シテ居ル所ノ幹部ノ理想ハ其處ニアルノデアリマスル、内務大臣ハ勞働組合法ニ依ッテ勞働組合ハ經濟的團體デアルカラ、其軌道ノ上ニ載セラレヌヤウナコトヲサセナイノガ此組合法ノ精神デアルト言ハレルガ、現在ノ勞働組合ハ一面デハ勞働組合トシテ働キ、又一面デハ無産政黨トシテ働イテ居ルノデアリマス、或勞働組合ノ規約ニハ、本勞働組合員ハ無産政黨ノ何々政黨ニ屬スルコトヲ以テ原則トスルト書イテアリマス、此勞働組合ノ組合員ハ全部團體トナッテ無産政黨ニ加盟シテ居リマスル、勞働組合法ガ、唯此一面ノ勞働組合タル方面ダケヲ見テ、ソレデ是等ノ無産階級ノ革命的精神ヲ見ナイト云フ事柄ハ、現在ノ事實ノ半面ヲ故意ニ眼ヲ被フテ見ナイモノデハナイカ、此組合法ニ依ッテ是等ノ組合ガ保護助長セラレルト云フ事柄ハ、國家ノ上ニ、經濟ノ上ニ非常ナル危險ヲ釀スモノデアルト云フコトハ疑ヒナイコトデアリマス、然ルニ内務大臣ハ此組合法ノ指導精神ハ勞資協調ニアルト言ハレル、而シテ此組合ノ行動ガ勞資鬪爭、否階級鬪爭ニアルト云フコトヲ擧ゲテ迫ラレテモ、其事實ニ對シテ何等辯解ヲ與ヘナイデ、唯漫然ト勞資協調ノ精神ダト言ッテ居ラレマス、是ハ勞資協調ト云フ言葉ヲ以テ「カモフラージ」ヲスル考デアラウカ、其組合ノ實體ハ蓋シ決シテ勞資協調ノ精神ヲ來タスモノデナクテ、却ッテ階級鬪爭激成ヲ來スモノデアルト云フ事柄ハ、何人モ之ヲ見出スニ難クナイ、内務大臣ハ此組合法ガ無産階級ノ助成ニナラナイト云フ事柄ヲ確信シテ居ラレルナラバ、其確信ヲ漫然タル言葉デナクシテ、十分ナル論據ヲ示シテ、此席上ニ於テ御說明ヲ願ヒタイノデアリマス、私ハ更ニ進ミマシテ、茲ニ勞働組合ノ、或勞働組合ノ綱領ノ一節ヲ朗讀イタシタイト思ヒマス、曰ク「我等ハ勞働階級ト資本階級トガ兩立スベカラザルコトヲ確信シ、我等勞働組合ノ實力ヲ以テ勞働者階級ノ完全ナル解放ト自由平等ノ新社會ノ建設ヲ期ス」ト斯ウ書イテアリマス、是ハ私共ハ無論此社會主義ノ學問ヲ承知イタシテ居リマセヌ、唯常識ニ依ッテノミ判斷イタシマスルモノデアリマスルケレドモ、資本階級ト勞働階級ガ兩立セザルベカラザルコトヲ確信スト、勞働組合ノ實力ノ力ヲ以テ自由平等ノ新社會ノ建設ヲ期スルト云フノデアリマスルカラ、即チ其主張スル所ハ頗ル私共ハ危險千萬ナモノデハナイカト思フノデアリマス、若シ此主義ヲ實行シテ、サウシテ眞ニ彼等ノ所謂自由平等ノ新社會ヲ建設ヲスルト云フコトニナッタナラバ、ドウナルノデアリマセウカ、即チ所謂「プロレタリア」ノミノ社會トナッテ、「ブルジョア」階級

ト云フモノハ全部倒サレルト云フコトニナルノデハナイカト思フノデアリマス、又他ノ勞働組合ノ主張シテ居リマスル所ニ、斯ウ云フコトガアリマス、一、益〻激化シ行ク不安動搖ノ中ニ投ゲ出サレテ、急速ニ煽動化シツツアル勞働大衆ニ對スル日常闘爭ノ激發……日常闘爭ノ激發、就中主要闘爭點、即チ主要ノ產業、大工場、鑛山等ノ如キ此主要闘爭點ニ對スル計畫的闘爭ノ遂行ニ依ル無組織大衆ノ獲得、日常闘爭ノ激發、或ハ主要闘爭點ニ對スル計畫的闘爭ノ遂行ニ依ッテ、大衆ヲ獲得シヤウト云フコトデアリマセウ、其次ニ政治闘爭ト經濟闘爭トノ交互的活動ニ依ル大衆ノ獲得、即チ政治的、即チ政治的ノ煽動ニ依ッテ闘爭ニ動員セラレタ所ノ勞働大衆ヲ絕エズ職業別ニ編成シ、勞働組合ノ訓練ヲ與ヘル、詰リ政治闘爭、經濟闘爭トノ交互的ノ結合ニ依ッテ大衆ヲ獲得スル、即チ政治的煽動ニ依ッテ、闘爭ニ動員セラレタ所ノ勞働大衆ヲ絕エズ戰場的ニ編成シテ、之ヲ勞働組合トナス、斯ウ云フ意味合ヒデアラウト思フノデアリマス、是ハ私ハ附加ヘテ申上ゲマス、社會主義ノ學問ニ通ジマセヌカラ、此解釋ニ付テ多少ノ過チガナイトモ申サレマセヌガ、兎ニ角ニ斯ウ云フヤウナ主張ヲシテ居マスルカラ、此主張ヲ我〻常識的ニ若シ解釋イタシマシタナラバ、ドウモ我ガ國體ト容ルルコトハドウシテモ出來ナイモノデアリハセヌカ、我ガ國體ノ土ニ若シ之ヲ容ルルコトガ出來タトシタ所ガ、頗ル是ハ危險千萬ナコトデハナイカト考ヘルノデアリマス、又是等ノ團體ハ、斯ウ云フコトヲ主義綱領ニ於テ主張シテ居ルバカリデアリマセヌ、勞働爭議ニ依リマシテ、始終此爭議ノ際ニ色〻ナ宣傳ビラヲ出シマシタリ、色〻ナ演說ヲ致シマシタリシテ、其自分ノ主義ノ宣傳ニ努メテ居マス、其宣傳ビラニドウ云フコトヲ主張シテ居リマスカト云フ、其主ナルモノヲ二三ヲ此處デ申上ゲテ見タイト思ヒマス、或ル勞働組合ノ頒付イタシマシタ「ポスター」ノ中ニ、「ソヴィエート」露西亞ヲ守レ、支那、印度、臺灣植民地革命ヲ守レ、赤色自衞團ヲ組織シテ白色「テロ」警官共ヲ葬レ、資本家、地主ノ政府ヲ倒セ、或ハ赤色自衞團ヲ確立シロト云フヤウナモノガアリマス、又或ル組合カラ頒付サレマシタモノノ中ニハ財閥ノ番頭濱口、元凶、團、卿ヲ葬レト云フヤウナモノガアリマス、或ハ又前衞殘ラズ戰場ノ征途ニ就ケト云フノモアリマス、又或ル組合ノ「ポスター」ニハ闘爭ダ、資本家、地主ノ政府ヲ倒セ、勞農露西亞ノ「マーク」ヲ著ケロ、サウシテ市街戰ヲ捲キ起セト云フヤウナコトガ書イテアルノガゴザイマス、是ガ卽チ勞働爭議ノ時ニ用ヒラレマシタ所ノ宣傳「ビラ」、若クハ「ポスター」デアリマシテ、此處ニ私ハソレヲ持參イタシテ居リマスルヤウナ次第デアリマス、私ハ過日、豫算委員會ニ於キマシテ千秋男爵、若クハ花井博士ナドカラ、此思想問題ニ付キマシテ文部大臣ニ對シテ御質問ニ相成リマシタ所ノ質問應答ヲ伺ヒマシタ、又其外ノ機會ニ於キマシテモ、本會議ニ於キマシテモ、又豫算委員會ニ於キマシテモ、常ニ斷エズ思想問題ガ當貴族院ニ於キマシテ論議イタサレテ居リマスル所ヲ承知イタシテ居リマス、其都度、政府ハ此思想問題ハ我ガ國家ノ重大ナル問題デアルカラ十分ニ注意スル、十分ニ警戒シテ、十分ニ善處スルト云フコトヲ御答ニナッテ居リマス、就中、文部大臣ガ豫算委員會ニ於テ御述ベニナリマシタ所ナドヲ承ッテ見マスレバ、文部大臣モ此問題ニ付テハ實ニ困ッテ居ルト、非常ニ努力シテ居ルケレドモ、ドウモ之ヲ防グコトハ甚ダ困難デアッテ、困ッテ居ルガ、併ナガラ出來ルダケノコトヲシテ、何トカシテ之ヲ防ギタイト云フコトヲ、誠意ヲ以テ御述ベニナッテ居リマス、所デ私ガ只今朗讀イタシマシタル……申上ゲマシタ所ノ何ニ依リマシテ之ヲ熟〻考ヘテ見マスレバ、內務大臣ハ何故アッテ斯ノ如キ勞働組合ヲ保護スルト云フコトヲ御考ヘニナリマスルカ、之ヲ保護スルト云フ結果、自然々々ニ我國ノ思想問題ニ非常ニ重大ナル惡影響ヲ及ボスト云フコトニ付テ御考ガ付カナカッタノデアリマセウカ、若シ私ノ考ガ間違デアリマシテ、內務大臣ハ十分ニ此思想問題ヲ取締ル所ノ誠意ガ御有リニナッテ、之ヲ十分ニ取締ルト云フ御確信ガアッテ、此勞働組合ヲ保護スルト云フ御考デアリマスナラバ、私ハ今日ハ非常ニ絕好ノ機會ト存ジマスカラ、此壇上ニ於テ內務大臣ヨリ詳細ニ其抱負經綸、又實行ノ手段方法等ニ付テノ御考ヲ承リタイト思フノデアリマス、又斯ク申上ゲマシタナラバ、內務大臣ハ、或ハソレハ勞働組合法ト云フモノヲ制定シテ、サウシテ之ヲ實行スル際ニ、法規命令ニ反スルヤウナモノガアッタナラバ之ヲ變更サセル、訂正サセル、サウシテ此組合法ニ依ッテ之ヲ保護シタナラバ一向差支ナイデハナイカト、斯ウ仰シヤルデアラウト思ヒマス、併ナガラ此思想問題ノコトニ付キマシテ十分ニ御經驗ノアル方ハ直チニ御了解ニナルデアリマセウ、此勞働組合ト、ソレカラ此思想運動ト云フモノハ一心同體デアリマス、先刻申上ゲマシタ通リニ、此勞働組合ニ入リマシタ者ハ、全部無產黨ニ……何〻無產黨ノ黨員トスト云フヤウナ工合ニナッテ居リマス、此無產黨ノ者ハコチラノ勞働組合ニ全部加入シテ居ルト云フヤウナ事實モアリマス、ソレ故ニ唯實質ニ於テハ、一面ニ於テハ思想團體デアリマス、一面ニ於テハ經濟上ノ團體デ、即チ勞働組合デアリマス、其看板ヲ經濟的ノ看板ニ塗リ換ヘマシタ所ノ……實質ニ於テハ何等ノ異ッタ所ハナイノデアリマス、何等ノ變化ガナイノデアリマス、ソレ故ニ單ニ其看板ヲ塗リ換ヘタト云フダケノ故ヲ以テ、此組合ヲ保護スルト云フコトハ、實質ニ於テハ矢張リ其思想ノ運動ヲスル所ノ團體ヲ保護スルト云フ結果ニナリハセヌカト思フノデアリマス、其邊ニ付テモ、ドウゾ我〻ノ了解ノ行クヤウニ、納得ノ行キマスルヤウニ內務大臣カラ御說明ヲ願ヒタイト存ジマス、又段々ト衆議院ニ於キマスル委員會ノ質問應答ヲ拜見イタシテ居リマスト云フト、內務大臣ハ此勞働組合法ニ依ッテ保護シ助長スルト云フ所ノモノハ、所謂「レール」ニ載セテ之ヲ保護助長シテ、サウシテ之ヲ監督シテ行ク、斯ウ云フ御趣意ハモウ明瞭ニ分ッテ居リマスガ、若シモ第一條ノ、政府ノ御規定ニナッテ居リマスル所ノ勞働組合ノ目的ト云フモノガ、政府ノ此御規定ニ背イテ居ルモノガアル、政府ノ規定ト相反シタモノガアル、即チ此政府ニ向ッテ保護ヲ依賴シナイ、政府ノ保護助長ヲ依賴シナイト云フヤウナ組合ハ、皆此政府ノ所謂公認組合ノ外ニ出ル、即チ或ル勞働組合ガアリマシテ、政府ニ保護サレルト云フコトハ結構デアルガ、併ナガラ政府カラ色〻ノ監督ヲ受

ケタリ、干渉ヲ受ケルト云フコトハ好マナイト云フヤウナ勞働組合ハ、總テ此今囘ノ御制定ニナリマスル所ノ勞働組合ノ埒ノ外ニ出デ、サウシテ所謂非公認組合トシテ存在スルコトガ出來ルノデアリマス、サウ云フ風ナ御答辯ニナッテ居ルノデアリマス、サウスレバ詰リ思想ガ穩和ニシテ經濟的ノ團體ト云フコトニ甘ンズルト云フ、サウ云フヤウナ組合ハ將來ニ於テ此組合法ノ保護ヲ受ケルヤウニナリマセウガ、併ナガラ之ニ反シテ、ソレヲ以テ甘ンゼズシテ社會的、思想的ニ活動シヤウト云フヤウナ組合ハ皆其埒ノ外ニ出テ非公認組合トシテ働クヤウニナルノデアリマセウ、其場合ニ於テ所謂憲法ノ自由結社ノ權ニ依ッテ、之ヲ政府ハ如何トモスルコトガ出來ナイト、斯ウ云フノガ此衆議院ニ於キマシテノ委員會ニ於ケル質問應答ニ於テ了解セラレルノデアリマス、若シ果シテ然ラバ何等ノ束縛ヲ加ヘナイデモ、極ク從順ニシテ穩和デアル所ノモノ、即チ之ヲ例ヘテ申シマスレバ、羊ノ如ク猫ノ如ク、極ク平和ナ穩和ナモノハ、檻ノ中ニ入レテ保護シヤウ、併シ虎ノ如ク狼ノ如ク、兇暴ナモノハ檻ノ外ニ出シテ自由ニ活動サセルト、斯ウ云フコトニナリハセヌカト思フノデアリマス、サウシテドウ考ヘテ見マシテモ、私共ハ斯ウ云フ組合主義ニハ贊成ヲスルコトガ出來ナイノミナラズ、內務大臣ガドウ云フ譯デ斯ウ云フ組合ヲ保護シヤウト云フ御考ニオナリニナッタカ了解ニ苦シムノデアリマス、之ヲ要スルニ內務大臣ハ、勞働組合ト云フモノハ勞資協調主義ニ依ルノダ、斯ウ云フ御説明デアリマス、即チ勞働組合ト云フモノハ佛ノ面ノヤウナモノデアル、斯ウ云フ御主張デアリマス、併ナガラ先刻申上ゲタ所ノ附則トカ或ハ第十三條トカ十條トカ、色々ノ規定ヲ設ケテ、之ヲ引ッ繰返サレマシテ、詰リ從來ノ勞働組合、即チ社會局ノ勞働組合ト云フヤウナモノト殆ド區別スルコトノ出來ナイヤウナモノガ玆ニ出來タノデアリマス、即チ社會局ニ於テ作成サレタル勞働組合法ヲ鬼ノ面トスレバ、內務大臣ハ其一本ノ角ヲ取リ一本ノ牙ヲ取ッテ之ニ頬冠リヲサセテ、是ガ即チ佛ノ面デアルト、斯ウ仰シヤルノト少シモ違ハナイト私共ハ信ジテ居ルノデアリマス、旁々以テ私ハ此機會ニ於テ、此壇上ヨリ內務大臣ノ十分ナル御説明ヲ承ッテ、私ガ納得ノ行クバカリデハナシニ、貴族院全體トシテ、否、我ガ國家國民全體トシテ內務大臣ノ御説明ヲ承ッテ、十分ニ了解ヲ致シタイト存ジマス、第二問デアリマス、今日ノヤウナ經濟界ノ未曾有ノ不況ニ際シテ何故ニ斯ウ云フ組合法ノ御制定ノ必要ガアルカト、斯ウ云フ問題デアリマスケレドモ、內務大臣ハ衆議院及當議場ニ於テ御述ベニナッタ所ニ依リマスレバ、現在我國ノ勞働組合ハ未ダ法律上公認セラレテ居ナイタメ往々ニシテ不穩當ナルモノノ如ク考ヘラレル、之ガ爲ニ勞資間ノ關係協調ヲ缺キ、不必要ニ事端ヲ釀シ、紛議ヲ生ズルコトガ少クナイ、又之ガ爲ニ勞働組合ニ於テモ勢ヒ事業主ニ對シテ抗爭的ノ手段ニ出デ、其行動、自然ニ矯激ニ流レル場合ガアル、斯クノ如キハ決シテ勞資間ノ融和、產業界ノ健全ナル發達ヲ期スル所以デナイ、故ニ此意味ニ於テ勞働組合ヲ法律上公認スルノ必要ヲ感ズル、斯ウ云フコトヲ御述ベニナッテ居リマス、即チ斯ウ云フ御趣意ニ依ッテ此勞働組合ヲ今日ノ時勢ニ於テ必要トセラルルト云フノデアラウト思ヒマス、ソレニ依ルト、事業主ガ如何ニモ勞働組合ヲ嫌忌スル、又ソレガ爲ニ不必要ナル勞働爭議ト云フモノガ出來テ非常ニ惡化スルノデアルト云フヤウナ風ニモ取ラレルノデアリマス、所ガ我國ノ現在ノ產業狀態ハ如何デアリマセウカ、是ハ私カラ詳細此處デ陳述スル必要ヲ認メマセヌ、總テ今日マデ十分ニ審議シ盡サレテ居リマシテ、明治維新以來曾テ無イ所ノ非常ナル產業界ノ危機デアルト云フコトハ、何人モ疑ハナイノデアリマシテ、其結果、勞働爭議ノ如キモノモ非常ニ頻發シテ、其性質ガ益々惡化シテ、遂ニ今日ノヤウナ實ニ不安ナル狀態ヲ呈出シタモノデハナカラウカト私ハ思フノデアリマス、就キマシテハ其一例ヲ、從來當議場ニ於テ餘リ論議サレテ居ラヌ方面カラ私ノ見ル所ヲ簡單ニ申述ベサセテ戴クコトヲ御許シヲ願ヒタイ、私共ノ考ヘル所ニ依リマスト、斯ノ如ク失業者ガ簇出シテ、斯ノ如ク經濟界ガ混亂ニナリマシタ以上ハ、此根本的對策トシテハ、色々議論モアリマセウ、併シ應急的對策トシテハ先ヅ以テ此失業救濟ト云フコトニ全力ヲ盡サナクチヤナラヌト思ヒマス、併シ此失業救濟ト云フコトニ全力ヲ盡シテ失業者ヲ救濟スルコトガ出來マシタナラバ、斯ノ如ク非常ニ不幸ナル狀態ヲ產業界ニ見ルコトハナカラウト思フノデアリマス、然ルニ政府ノ今日マデ御實行ニナッテ居ル所ノ失業對策ハ如何デアリマセウカ、是ハモウ十分ニ御承知ノ通リ、失業者ト云フモノハ、政府ノ御發表ニ依ルト三十八万人アル、其三十八万人ハドウ云フ失業者デアルカ、之ヲ分類シテ見マスト、知識階級ト熟練勞働者ト自由勞働者ト、斯ウ三ツニ分ケルノデアリマス、此三十八万人ノ中ニ知識階級ノ失業者ガ何程アルカ、熟練勞働者ノ失業者ガドノ位アルカ、又自由勞働者ノ失業者ガドノ位アルカト申セバ、是ハ今日ノ所デハ不明デアリマス、何人モマダ其數ヲ明瞭ニ致シテ居リマセヌ、或ハ此知識階級ノ失業者ナドニ付テハ明瞭ニナッテ居ルカモ知レマセヌガ、併シナガラ熟練勞働者ト自由勞働者トノ失業者ノ數ト云フモノハ明瞭ニナッテ居ラヌノデアリマス、ソコデ政府ハ今日マデ失業對策トシテ色々ナコトヲ御實行ニナリマシタ、是ハ私ハ失業防止委員ノ一人トシテ詳シク承知シテ居リマスガ、今日マデ御實行ニナッタ政府ノ失業對策ハ殆ド全部自由勞働者ノ失業對策デアリマス、熟練勞働者ニ對シテハ何等ノ對策モナイノデアリマス、又知識階級ノ失業者ニ對シテハ、是ハ殆ド申シマス……殆ド何等ノ對策ガナイト申シテモ差支ナイノデアリマス、ソコデ之ヲチョット數字的ニ申シマスト、五年度ニ於テ、公共團體ト政府ノ補助金ト合計四千六百万圓ト云フモノガ、即チ自由勞働者ノ失業救濟資金デアリマス、此四千六百万圓ノ中ニ國庫ノ補助ハ三百万圓デアル、其外ニ公債ヲ以テ內務省ノ二千二百万圓ト鐵道省ノ千二百万圓ト云フヤウナモノガ別ニアリマスガ、兎ニ角是ハ全部自由勞働者ノ失業對策デアッテ、知識階級ノ失業對策ト云フヤウナモノハ、日本全國ノ各公共團體ノ施行シテ居ルモノ及ビ政府ノ補助金等ヲ合セテ全部デ四十五万圓シカナイ、ソコデ斯ウ云フヤウナ狀態デアリマスカラ、熟練勞働者ハ此不況ニ際シテ工場ヨリ續々ト失業シテ參リマスルガ、其失業シタ所ノモノハ何等ノ救濟ノ

途モナイノデアリマシテ、是ハ先日私ハ或ル新聞ヲ見マシタ所ガ、鐵道省ニ或ル汽車會社ノ職工ガ押掛ケテ行ッテ、政府ハ……鐵道省ハ千二百万圓ノ公債ヲ以テ自由勞働者ノ失業ノ救濟ヲスルト云フガ、我々ハ數十年來、汽車ノ製造ニ從事シテ居ル所ノ熟練勞働者デアル、汽車ヨリ外ニ製造スルコトノ能力ヲ持ッテ居ナイ熟練勞働者デアルガ、此熟練勞働者ヲ救濟スル必要ハナイノデアルカ、之ヲ眼中ニ置カズシテ、何故ニ自由勞働者ノミヲ救濟スルカト云フコトヲ鐵道省ヘ談判シタト云フコトヲ新聞ノ記事デ見マシタ、是ハ私ハ尤ノ事ト思ヒマス、又承ル所ニ依リマスレバ、海軍ニ於キマシテモ、不日約一万人ノ解雇ヲナサルト云フコトデアリマス、又或造船所ニ於キマシテハ何十人ノ從業者ヲ解雇イタシマスト云フヤウナ工合ニ、熟練勞働者ノ失業者ハ今後續續ト輩出スルノデアリマスルガ、之ニ向ッテ何等ノ對策ガナイト云フコトガドウ云フモノデアルカ、是モ私ハ内務大臣ニ伺ッテ見タイノデアリマス、サウ云フヤウナコトヲ爲サッテ、今回ノ豫算ニ於キマシテモ、私ハ更ニモウ少シ述ベサシテ戴キタイ、農商務省ノ管轄ニ於キマシテハ約七千万圓ト云フモノハ、農民ノ失業救濟ノ金ガ出テ居リマス、是ハ即チ農林大臣ガ農民失業者ノ救濟ノ爲ニ計畫サレタモノデアリマス、又遞信省ニ於キマシテハ海員救濟、海員ノ失業ノ救濟ノ爲ニ四十五万圓ト云フモノヲ計上サレテ居リマス、ガ併ナガラ一般工場勞働者其外ノ產業勞働者ニ對シテハ、何等ノ失業救濟ト云フモノガ豫算面ニ現ハレテ居リマセヌカラ、斯ウ云フコトヲ爲サッテ置キマシタナラバ、此失業者ガ出テ參リマシテ益々勞働爭議ヲ頻發シテ、其爭議ガ益々險惡ニナルト云フコトハ是ハ當然ノ歸結デハナカラウカト思フ、斯ウ云フコトノ現在重大ナル原因ガアルニモ拘ラズ、斯ウ云フコトニハ言及サレナイデ、單ニ事業主ガ勞働組合ヲ嫌忌スルト云フヤウナコトノ爲ニ、不必要ニ勞働爭議ヲ起スナドト云フヤウナコトヲ御說明ニナッテ居リマスルコトハ、私共ガ大イニ其意ヲ解スルニ苦シム所デアリマス、ソレ故ニ私ハ斯ウ云フヤウナ失業者ガ續出シテ、熟練勞働者ノ失業者ガ續出イタシテ居リマシテ、斯ノ如ク危險ナル狀態ヲ現出イタシマシタノデアリマスカラ、政府トシテハ何ヲ措イテモ、自由勞働者ノ救濟ヲ御決行ニナッタト同樣ニ、先以テ熟練勞働者ノ救濟ヲ御計畫ニナラナケレバナラナイモノデアラウト思フノデアリマス、サウスレバ或ハ内務大臣ハソレハ尤モデアルガ、熟練勞働者ノ救濟ニ其方法ガナイ、色色失業防止委員會ナドニモ諮問シタケレドモ、未ダ其成案ヲ得ナイデハナイカト云フヤウナ、斯ウ云フヤウナ御返事ガアルカモ知レマセヌガ、是ハ私ハ甚ダ意ヲ得ナイノデアリマス、是ハ長クナリマスカラ、恐レ多イコトデアリマスカラ簡單ニ申上ゲマスルガ、若シ其方法ヲ御尋ネニナリマスノデアリマシタナラバ、私ハ諸君ノ御許シヲ得マシテ其對策ニ付テ自分ノ私見ヲ申述ベルコトヲ敢テ遠慮ハ致シマセヌノデアリマス、ガ併シ此席上ニ於キマシテハ其對策ヲ申述ベル必要ハ私ハナイト存ジマスカラ、之ヲ省略イタシテ置キマスルノデアリマス、故ニ斯ウ云フ際ニ於キマシテハ先以テ此熟練勞働者ノ失業者ヲ救濟シテ之ニ職ヲ與ヘテ、若シ職ヲ與ヘルコトガ出來ナカッタナラバ之ニ「パン」ヲ與ヘテ、サウシテ之ヲ緩和シテ、然ル後ニ勞働組合法ヲ御設ケニナルトカ、或ハ其他ノ御方法ヲ御講ジニナルト云フコトナラバ私共ハ其意ヲ得ルノデアリマスケレドモ、サウ云フコトヲ何等御實行ニナラナイデ、唯之ニ勞働組合法ヲ授ケテ、サウシテ之ヲ軌道ニ載セテ緩和シテ行カウト云フヤウナ御考ハ、甚ダ現在ノ我國ノ產業ノ實情ニ即シナイ所ノ御ヤリ方デナイカト思フノデアリマスカラ、此點ニ於キマシテモ内務大臣カラドウゾ御腹藏ノナイ所ノ御所見ヲ、成ルベク具體的ニ御示シヲ願ヒタイト存ジマス、勿論私ハ此處デ一言附加ヘテ申上ゲテ置キタイト思フノハ、私ハ決シテ黨派的ノ考トカ、或ハ内務大臣ヲ攻擊セムガ爲ニ斯ノ如キコトヲ申スノデアリマセヌ、自由勞働者ノ失業對策ニ付キマシテ、今日是ダケノコトヲ御實行ニナッタト云フコトハ、内務大臣ガ非常ニ御苦心ヲナスッタト云フコトハ、私ハ防止委員ノ一人トシテ能ク承知シテ居リマス、此緊縮政策ノ内閣ニ於テ、此豫算ノ最モ缺乏シテ居ルト申シマスカ、遣繰リガ困難ナル此豫算ノ中カラ一億何千万、合計スレバ一億何千万圓ト云フヤウナ巨額ノ失業救濟ノ資金ヲ御計上ニナッタト云フコトハ、内務大臣ガ内閣ノ内部ニ於テ如何ニ御盡力ニナッタカト云フコトハ、私ハ十分ニ了解シテ居リマスルカラ、決シテ私ハ黨派的ノ考ナドヲ以テ非難セムガ爲ニ内務大臣ニ向ッテ斯ウ云フ難問ヲ提出スルト云フヤウナ意味ハ更ニナイノデアリマスカラ、其邊モ能ク御了承ヲ願ッテ置キタイノデアリマス、其次ニハ第三問ハ、爭議取締法ノ制定ヲ何故必要トシナイカト云フコトデアリマス、是ハ内務大臣モ御認メニナッテ居リマス、近時此爭議ガ非常ニ激增シテ參リマシテ、其手段ガ非常ニ兇暴ニナリマシテ、殆ド我國ノ現在ニ於キマシテハ勞働爭議ト云フモノハナイノデアリマス、必ズ暴行カ暴動デアル、英吉利ヤ亞米利加ヤ此歐羅巴各國ニ於テノ「ストライキ」ト云フヤウナモノト、我國ニ於ケル勞働爭議、即チ「ストライキ」ト云フモノトハ全然性質ガ違フノデアリマス、各國ニ於キマシテハ此「ストライキ」ト申シマスルモノハ、皆合法的ノ「ストライキ」デアル、平和的ノ「ストライキ」デアル、我國ニ於キマシテハ多クハ殆ド全部非合法的デアッテ、暴行デナケレバ暴動デアリマス、此點ニ付テハ内務大臣モ能ク御了解ニナッテ居リマスルカラ、私ハ兹ニ之ヲ繰返シテ論ズル必要ヲ認メマセヌガ、兹ニ極ク簡單ニ數字ヲ申上ゲテ見タイト思ヒマス、千九百二十年ト千九百三十年トヲ比較イタシマシテ、日本ハ千九百二十年ニハ勞働爭議ノ數ガ二百八十二デアリマシタ、是ガ年々非常ニ增加イタシテ參リマシテ、千九百三十年ニハ八千八百二十三トナリマシタ、所ガ英吉利デハ千九百二十年ニハ一千六百七件アリマシタ、是ガ千九百三十年ニハ四百十五ニ減リマシタ、佛蘭西デハ千九百二十年ニハ千九百十一アリマシタモノガ、千九百三十年昨年九月末ニ一千二十九トナリマシタ、獨逸ハ千九百二十年ニハ四千三百九十二デアリマシタモノガ、千九百三十年ニハ二百十九ト云フモノニナリマシタ、米國ニ於キマシテハ千九百二十年ニハ三千四百十一デアリマシタモノガ、千九百二十九年ニハ九百三トナリマシタ、即チ此表ニ付テ見マシテモ我ガ日本ガ勞働爭議ノ增加シテ居ルコト、激增シテ居

リマスルコトハ世界ニ於テ第一デアリマス、斯ノ如ク我國ニ於テハ爭議ガ增加シテ居リマシテ、サウシテ其爭議ガ斯ノ如ク惡化シテ居リマス、デ之ヲ此儘ニ放置シテ置イテ、サウシテドウシテ此產業ノ平和ト云フモノガ保タレマセウカ、ドウシテ此安全ニ產業ノ經營ト云フモノガ出來マセウカ、殆ド此一點カラ見マシテモ、我國ノ產業ト云フモノハ、殆ド經營不可能ニナリハセヌカト私共ハ心配シテ居リマスノデ、ソレ故ニ私共ハドウシテモ、諸外國ニ於キマシテハ何處ノ國ニ參リマシテモ、就中此英吉利ナドニ於キマシテハ勞働爭議ノ取締法ト云フモノニ付テ非常ナ重點ヲ置イテ、勞働組合法ヨリハ寧ロ爭議取締ト云フモノニ付テ非常ナ重點ヲ置イテ、取締法ト云フモノガ制定セラレテ居ルノデアリマスルカラ、我ガ日本ニ於テモ、斯ウ云フ現狀ヲ顧ミテ、速ニ爭議取締法ト云フモノヲ制定シテ、サウシテ此爭議ト云フモノノ惡化スルコトヲ防止スルト云フコトニ政府ニ於テ御盡力願ヒタイト云フコトガ、即チ此民間ノ實業ニ從事シテ居ル所ノ者ノ殆ド一致シタル所ノ熱心ナル聲デアルノデアリマス、此爭議取締法ガナケレバ安心シテ、安ンジテ此產業ノ經營ヲスルコトガ出來ナイヤウニナルト云フコトガ、即チ產業ニ從事シテ居ル所ノ諸團體ノ熱心ニ主張シテ居ル所デアリマス、之ニ對シテ政府ハソレハ尤デアルガ、併シ我國ニハ一般法ニ於テ色々ノ規定ガアル、例ヘバ暴力行爲ニ對シテハ暴力取締法ガアル、或ハ治安維持法ガアル、或ハ警察犯處罰令ガアルト云フヤウナ、一般法ニ於テ色々ナ法規ガアルカラ、此法規ヲ活用スルナラバ爭議取締法ナドヲ特ニ特別法トシテ設ケル必要ハナイ、斯ウ云フコトヲ主張セラレテ居リマス、ソコデ私ハ法制ノコトナドニ付テハ全ク無知識デアリマス、併ナガラ私共ノ了解ニ苦シミマスルノハ、若シモ內務大臣ガ一般法ト云フモノデ之ヲ取締ラウトナサルナラバ、此一般法ナルモノハ產業ノ組織ガ斯ノ如ク發達シナイ時分ノ法律デアリマス、即チ現代產業組織ガ斯ノ如ク發達シナイ時ノ法律デアリマスカラ、現在ノ勞働爭議アリト豫想シテ制定シタ所ノ法律デナイノデアリマスカラ、若シモ大臣ガ之ニ依ッテ、內務大臣ガ此一般法ニ依ッテ爭議取締ヲ爲サラウトスル場合ニ於テハ、勞働者若クハ組合側、即チ勞働者若クハ勞働組合ノ側ノ方カラハ、政府ハ徒ニ組合ヲ彈壓スルモノデアル、勞働者ニ對シテ彈壓ヲ加ヘルモノデアルト云フ非難ガ起ルノデアリマセウ、又產業家ノ方カラハ、政府ハ此爭議ノ暴動暴行ニ付テ十分ナル取締ヲシテ吳レナイ、甚ダ不徹底デアル、斯ウ云フヤウナ非難ガ起ッテ、兩方カラ共非難ト云フモノガ續出イタシマシテ、隨分御迷惑ナ立場ニ御立チニナルノデアラウト思フノデアリマス、ソコデ內務大臣ハ昨年ノ秋頃ヨリ此勞働爭議ノ惡化スルト云フコトヲ御認メニナッテ、此儘ニシテ置イテハイカヌカラ出來ルダケ嚴重ニ取締ルト云フヤウナ御訓令ヲ發シラレテ居リマシテ、爾來サウ云フ方針ヲ以テ色々御取締ニナッテ居リマスガ、此取締タルヤ一面ニ於テハ勞働組合若クハ勞働者ノ側カラハ、內務大臣ニ向ッテ彈壓ガ過ギルト云ッテ囂々タル非難トナリ、又事業元ノ方カラハ取締リガ不足デアル、不徹底デアルト云フ非難ガ起ッテ居ルノデアリマス、私ハ安達內務大臣ハ永久ノ內務大臣トハ思ッテ居リマセヌ、若シ永久ニ安達內務大臣ガ內務大臣デ御在リニナレバ幾分カ恕スベキデアリマスガ、併ナガラ內務大臣ハ又何時御更リニナルカ知レマセヌカラ、內務大臣ガ俺ガ、自分ガ居ル限リハ大丈夫ダト云フヤウナコトヲ仰セラレマシテモ、之ニ付テ十分ニ安ンジテ左樣デゴザイマスカト云フテ、安ンジテ居ル譯ニハイカヌノデアリマス、マアソレハ議論デアリマス、議論デアリマスカラ是ハ別問題ト致シマシテ、私ハ茲ニ內務大臣ニ御伺ヒ致シタイコトガアルノハ、私ハ選擧法ヲ調ベテ見マシタ、此選擧法ヲ調ベテ見マシタ所ガ內務大臣ハ、勞働爭議ノ方ハ一般法デアルカラ、特ニ爭議取締法ヲ設ケル必要ガナイト仰シヤル、併ナガラ選擧法ノ方ニハ一般現行法ガアルニモ拘ラズ、選擧取締ニ付テ色々ナ細密ナ、且ツ嚴重ナル取締ノ規定ガ何箇所モ何十箇所モアリマシテ、殆ド此選擧法ト云フモノノ大部分ガ取締法ト申シテモ宜イヤウナ工合ニ、色々ナ規定ガ細密ニ嚴重ニ規定シテアリマス、其中ノ主ナルモノヲ此處デ申上ゲテ見タイト思ヒマス、即チ今日我國ニ於キマシテ勞働爭議ニ付キマシテ、最モ非難攻擊ヲ集中セラレテ居リマスル問題ハ御承知ノ金一封問題デアリマス、即チ勞働爭議ニ際シマシテ所謂勞働「ブローカー」ト申シマスル者、或ハ勞働運動者ト申シマスル者ガ此金一封ト云フモノヲ授受イタシマス、是ガ即チ或場合ニ於テハ大部分勞働者ノ懷ロニ入ルコトモアリマスルガ、或場合ニ於テハ大部分此中間ニ居リマスル所ノ運動家ノ懷ロニ入ルノデアリマシテ、之ガ爲ニハ之ヲ出ス所ノ事業家モ非常ニ迷惑シテ居リマスルガ、之ガ爲ニ損害ヲ被ル所ノ勞働者モ非常ニ之ヲ慨歎シテ居リマス、一タビ此勞働爭議ニ際シテ此金一封ノ爲ニ惱マサレタ所ノ勞働者ハ、此勞働爭議ハモウ懲リ懲リデアル、再ビ勞働爭議ナドハスルモノデナイト、斯ウ申シテ居ル位ニ、金一封問題ト云フモノハヤカマシイ問題ニナッテ居ルノデアリマス、所デ之ヲ先ヅチョット法律的ニ申シマシタナラバ、罷業ヲ爲サシメタリ又ハ爲サシメザル目的ヲ以テ、勞働者又ハ組合ノ役員ニ對シテ金錢物品其他財產上ノ利益ヲ提供シタルトキ、斯ウ申シマスカ、之ヲ又組合ノ役員ガ罷業ヲ爲サシメントシ、又ハ罷業ヲ中止セシメントシテ勞働者ニ對シ同樣ノ行爲ヲ爲シタルトキ、是ハ一般法ニ於テ之ヲ取締ルコトガ出來ルト內務大臣ハ御話ニナッテ居リマスルガ

〔議長公爵德川家達君議長席ニ著ク〕

是ハ其衆議院議員選擧法ノ第百十二條ニ於キマシテ、同樣ノ行爲ニ對シマシテハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ヲ科スルト云フコトニナッテ居リマスガ、唯此規定ガアルバカリデ御滿足ニナラナイデ、先般樞密院ニ御提出ニナリマシタ所ノ選擧法ノ改正案ノ中ニハ、更ニ此罰ヲ二年以下ト云フノヲ五年以下ト御改正ニナッテ居ルト云フコトヲ承ハッテ居リマシタ、即チ勞働爭議ニ對シテハ斯ウ云フ取締ガ必要デナクッテ、選擧法ニ於テハ何故ニ斯ウ云フ規定ガ必要デアリマスカト云フコトヲ一ツ承ハリタイ、ソレカラ次ニハ罷業者、組合役員ガ罷業ヲ爲サシメントシテ勞働者ニ暴行若クハ威力ヲ加ヘ之ヲ拐引シタルトキ、即チ勞働者ヤ罷業者若クハ組合ノ役員ガ罷業ヲ爲サシメントシテ罷業ニ反對ノ勞働者ニ向ッ

ヲ威力ヲ加ヘタリ、暴行ヲ加ヘタリ、誘ヒマシタ時ニハ選擧法デハ第百十五條ヲ以テ之ヲ罰シテ居リマス、英國ノ勞働爭議取締法ナドニ於テモ之ヲ罰スル規定ガゴザイマス、然ルニ勞働爭議ニ於テハ何故ニ之ヲ取締ルコトガ必要デアリマセヌカト云フコトヲ伺ヒタイ、是ハ勞働爭議ニ於テハ始終起ルコトデアリマシテ、玆ニ爭議ガ起リマスルト云フト、爭議ニ贊成ノ勞働者モアリマスシ、之ニ反對スル勞働者モアル、此場合ニ於テハ雙方ガ常ニ暴行トカ、威力トカ、或ハ之ヲ拐引スルトカ云フヤウナコトノ爲ニ非常ナ紛議ヲ起シ、騷動ヲ起シ、暴行威力ガ伴フノデアリマシテ、是ガ爲ニ爭議ト云フモノガ混亂ニ陷ルノデアリマス、デ是ガ何故ニ選擧法ニ必要ニシテ勞働爭議ニ不必要デアルカト云フコトモ承リタイ、罷業者組合役員ガ不穩ナル擧動ニ依リ他人ヲ見張リ又ハ他人ニ尾行シテ就業ノ自由ヲ妨害シタル時、即チ是ハ所謂「ピケッチング」ト云フヤウナモノデアリマシテ、勞働者ガ其爭議ニ反對スル所ノ勞働者ノ後ヲ尾行イタシマシタリ見張ヲ附ケマシタリシテ、ソレヲ妨害スル、其自由ヲ……就業ノ自由ヲ妨害スル目的ヲ以テ此見張ヲ附ケタリナド致シマスル所ノ行爲デアリマス、是ハ選擧法、第百十五條ハ選擧ニ關シテ交通若クハ集會ノ便ヲ妨ケ又ハ演說ヲ妨害シ其他僞計詐術等不正ノ方法ヲ以テ選擧ノ自由ヲ妨害スル行爲ヲ罰スルト云フコトニナッテ居リマス、是ハ若シ選擧法ニ斯ウ云フ必要ガアルナラバ勞働爭議ニ何故ニ必要ガナイカト云フコトモ承リタイ、ソレカラ示威ノ目的ヲ以テ他人ノ住宅ノ附近ニ多衆集合シ徘徊シ又ハ喧噪ノ行爲ヲナスコト、是ハ始終、此勞働爭議ニ於テハ事業主ノ住宅附近ニ所謂示威運動ヲ行ヒマシテ、多衆集合シテ喧噪ナ行爲ヲナスト云フヤウナコトハ殆ド常習ノ手段デアリマス、是ガ爲ニ事業主ハ非常ナ迷惑ヲ蒙ッテ居ルノデアリマシテ、之ヲ始終警察ニ訴ヘテ其取締ヲ依賴シテ居ルノデアリマス、デ此行爲ハ、選擧法ハ第百二十四條ニ選擧ニ關シ多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ煙火、松明、ノ類ヲ用ヒ若クハ鐘鼓喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用フル等氣勢ヲ張ルノ行爲ヲ罰シテ居ル、選擧法ニハ斯ウ云フ風ニ綿密ニ規定シテアリマス、其次ニハ多衆ヲ以テ執拗ニ面會ヲ强要シ又ハ强談、威迫ノ行爲ヲ爲スコト、是ハ始終勞働爭議ニ對シテハ相當警察ナドカラ……此事業主ニ執拗ニ面會ヲ强要シマシテ强談威迫等ヲ行フコトモ是モ始終行ハレテ居ル所ノ手段デアリマスガ、選擧法ハ之ニ對シテハ戶別訪問スラ禁ジテ居ル、斯ウ云フ工合ニ選擧法ニ於テハ之ヲ禁ジテ、特別法ヲ以テ之ヲ禁ジテ居ッテ、勞働組合、此勞働爭議ニ於テハ之ヲ規定スル必要ガナイト云フノダカラ、ドウシテモ了解ガ出來ナイ、尙ホ其外ニ罷業ニ關シテ銃砲、刀劍、棍棒其他ノ他人ヲ殺傷スルニ足ルベキ物件ヲ携帶シタルトキ、是ハ其爭議ノ時ニ始終其銃器ヲ携帶イタシマシタリシテ、或ハ事業主、或ハ「ストライキ」ノ「ストライキ」破リト申シマスヤウナ、詰リ「ストライキ」ニ反對スル所ノ勞働者ヲ强迫シテ居リマス、ソレヲ選擧法ニ於テハ第百二十一條デ之ヲ罰シテ居リマス、ガ併シ爭議ノ方ニ於テハ是ハ必要デナイト云フコトデオアリニナルノデアリマスカラ、此必要デナイト云フコトヲ承リタイ、ソレカラ又勞働爭議ニ於キマシテハ營業ヤ作業ノ妨害ヲスル、爭議ノ時ニハ必ズ其工場主ニ對シテ非常ナ妨害ヲ致シテ居リマスルガ、其作業ノ妨害ヲ致シテ居リマスル、之ニ對シテ選擧法ニ於キマシテハ第百二十六條ニ演說又ハ新聞紙雜誌引札、張紙其他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラズ議員候補者ノ身分職業經歷ニ關シ虛僞ノ事項ヲ公ニスルコトヲ罰スル、斯ウ云フ工合ニシテ選擧法ニ於テハ罰シテアリマス、其外マダ澤山斯ウ云フ條項ガゴザイマスルガ、餘リ長クナリマスルカラ、アトハ省略イタシマスガ、マア右申上ゲマシタヤウナ、選擧法ニ於テハ此必要ガアッテ、爭議取締法ニ於テハ此必要ガナイ、斯ウ云フコトハ法律上ノ知識ノナイ所ノ私共ニハドウシテモ了解ガ出來ナイカラ、ドウゾ此席上ニ於キマシテ其理由ヲ、何故ニ必要ガナイカト云フ理由ヲ明瞭ニ一ツ承リタイト思ヒマス、私ハ決シテ斯ウ云フコトヲ申上ゲマシタカラト言ッテ、決シテ內務大臣ハ選擧ノ事ノミニ御考ヲ御入レニナッテ居ルトカ何トカ云フヤウナ、サウ云フ、邪推ヲ以テ申上ゲルノヂヤアリマセヌ、能ク此黨派的ノ觀念ナドヲ以テ、サウ云フヤウナコトヲ申上ゲテ居ル方モアルヤウデアリマスケレドモ、私ハ決シテサウ云フ事柄ヲ申上ゲルノヂヤナイ、寧ロ斯ウ云フ機會ニ內務大臣カラ進ンデ其點ヲ明カニナサルト云フコトノ方ガ大臣ノ爲ニモ却テ其方ガ世間ノ疑惑ヲ解クニハ誠ニ好イ機會デハナカラウカト思フノデアリマスカラ、此問題ヲ提出シタノデアリマスカラ、其思召ヲ以チマシテ御腹藏ナイ御意見ヲ承リタイト思ヒマス、第四問ハ我國將來ノ此人口問題ニ對スル根本政策ヲドウナサルカ、此問題デアリマス、是ハ極ク簡單ニ申上ゲマスレバ御承知ノ通リニ、我ガ人口ハ年々八十万人增加イタシマス、此八十万人ヲドウシテ養フカ、斯ウ申シマスト云フト、御承知ノ通リニ天然ノ資源モナイシ、甚ダ少イ、農業モ林業モ漁業モ、殆ド今日デハ十分ナ餘地ハナイノデアリマスカラ、ドウシテモ此工業其外ノ產業ヲ盛ンニシテ、サウシテ之ヲ養ッテ行クト云フコトニスル外仕方ガナイト思ヒマス、サウスルト云フト詰リ我國ニ於キマシテ此八十万人ノ人口ヲ養フニハドノ位ノ金ガ要ルカ、即チ工業ト云フモノヲ起シテ此八十万ノ人口ヲ養フニハドノ位ノ金ガ要ルカト云フコトヲ調ベテ見マスト云フト、丁度私ノ調ベニ依リマスルト云フト、此工業其外產業ノ資金ガ一人ノ勞働者ニ對シテ約八千圓掛ッテ居リマス、八千圓ノ固定資金ヲ以テ約一人ノ熟練勞働者ガ働イテ居ルト云フヤウナ計算ニナッテ居リマス、是ハ政府事業モ民間ノ事業モ全部皆一緖ニ入レマシテ計算イタシマシタノデアリマス、此計算ニ致シマシテ八十万人ノ中ニ、四人ニ一人ヅツノ熟練勞働者ヲ養フト致シマシテ、一家四人ヅツノ生計ヲ立テルコトト假定イタシマスルト云フト、十六億ト云フ金ガ要リマス、ダカラ今日マデノ狀態ニ依リマスト云フト、我國ハ年々十六億ヅツノ金ガ資金化シテ參リマセヌケレバ、此八十万ノ人口ヲ養フコトハ出來ナイト云フコトニナルノデアリマス、ソコデ現在ノ所デ然ラバドノ位ヅツ殖エテ居ルカト申シマスト云フト、昭和二年カラ四年ノ此日本全國ノ全體ノ農業カラ、水產業カラ、工業カラ商工業全部合セマシタ所デ年々殖エテ居リマスル所ノ資金ハ

約十億デアリマス、工業會社ノミニ付テ同樣ノ例ヲ致シテ見マスルト云フト、約八億デアリマス、ダカラ工業ノ上カラ考ヘテ見マスルト云フト、年々八億ヅツノ資金ト云フモノガ殖エテ資金化シテ、サウシテ此勞働者ヲ養ッテ行ッテ居ルノデアリマス、ダカラ私ノ計算ニ依リマスト云フト、十六億ナケレバナラヌモノガ八億デ賄ッテ居ルノデアリマスカラ、此勞働者ヲ養ッテ行クト云フコトガナカ〳〵困難ナ狀態ニアルト云フノガ是デモ分ルノデアリマス、ソコデ此民政黨內閣ノ成立以來、緊縮方針ヲ御執リニナッテ、金解禁ヲ實行ナサレマシタケレドモ、消費節約ト云フヤウナコトヲ御實行ニナッテ、サウシテ此八十万人ノ人口ニ對シテハ、ドウシテ之ヲ養ッテ御出デニナリマスカ、ソレガ承リタイ、若シモ此我ガ國ノ、我日本ノ此六千万ノ國民ガ一人モ子供ヲ生マナイ、又此生レタ子供ガ、生長シナイト云フヤウナコトガ實行出來レバ、此儘デ此國ヲ維持シテ行クコトガ出來マセウケレドモ、毎年八十万人ノ人間ガ生レル、一年經テバ一ツヅツ年ガ殖エテ行ク、ソレヲ收容シテ仕事ヲ與ヘナケレバナラヌ、收容シヤウトシテモ、職業ガ無イト云フヤウナ今日ノ狀態ニ於テ、斯ノ如キ方針ノ下ニドウシテ此國民ヲ養ッテ行クコトガ出來マセウカ、況ヤ斯ウ云フ際ニ當ッテ、出來ルダケ此產業ヲ助長シ、奬勵シテサウシテ此勞働者ヲ養フト云フ方策ヲ御執リニナリマスルナラバ、格別デアリマスルガ、前申シマシタル通リニ產業ヲ妨害スルヤウナ、產業ヲ破壞スルヤウナ方針ヲ御執リニナッテ、サウシテ如何ニシテ此人口ヲ養ッテ行クト云フコトガ出來マセウカ、サウ云フコトヲ考ヘテ見ルト云フト、甚ダ憂慮ニ堪ヘナイノデアリマス、就テハ斯ウ云フコトニ付キマシテ、內務大臣ノ御經綸ヲ承ハッテ見タイト思フノデアリマス、是デ私ノ大體ノ質問ハ終リマシタカラ、又內務大臣ノ御答辯ヲ伺ヒマシタ上ニ依リマシテ、再ビ登壇ヲ致シマシテ、御質問ヲ申上ゲルカモ知レマセヌガ、長ラク御清聽ヲ汚シマシテ誠ニ感謝イタシマス

〔國務大臣安達謙藏君演壇ニ登ル〕

○國務大臣（安達謙藏君）　藤原サンノ御質問ハ午前午後ニ引續キマシテ、二時間以上ヲ費シマシタ堂々タル御議論ト申シテ宜シウゴザイマセウカ、豫テノ御考ヲ玆ニ御披瀝ニナリマシテ、謹聽イタシテ居リマシタ、大要ハ書取ッテ置キマシタカラ、ソレニ付テ御尋ノ順ニ依ッテ御答イタシタイト考ヘマス、或ハ落チタ所ガアルカモ知レマセヌカラ、其時ハ更ニ又御注意ヲ願ヒマス、藤原サンハ本論ニ入ル前ニ、自分ハ前提トシテ話ヲスルト云フコトノ中ニ、世間ニ勞働者、勞働「ブローカー」無產黨ナドガ居ル、ソレヲ劃然區別シナケレバナラヌノガ、往々間違ヘラレテ居ル、或ハ內務大臣モ其邊ヲ混淆シテ居ラレルノダラウカト云フヤウナ御言葉ガアリマシタ、私ハ絕エズ其點ハ注意イタシマシテ、決シテ混淆イタシテ居リマセヌガ、私カラ申上ゲマスト藤原サンノ方ガデス、或ハ其邊ヲ豫テ混同シテ御考ヘニナッテ居リハセヌカト思フ、今日ノ「ストライキ」ノ狀態ナドヲ御覽ニナッテ、少シク神經ガ過敏ニナリ過ギマシテ、サウシテ此危險思想ヲ持ッタ者ト、ソレト單純ナル勞働者ヲ混同シテ御出ニナリハセヌカト云フコトヲ豫テ考ヘテ居リマス、私ト致シマシテハ絕エズ其點ヲ注意イタシマシテ、今日ノ此勞働運動、或ハ各地ノ「ストライキ」ノ狀況ヲ調ベマス每ニ、其點ニ注意ヲ致シテ居リマス、藤原サンノ御話デアルト、今日ノ勞働運動者ハ悉ク勞働「ブローカー」デアッテ、眞ノ純粹ナル勞働者ハ別ニ居ルト、斯ウ云フコトニ御斷定ニナッタヤウデアリマスガ、若干ハサウ云フコトモアリマスケレドモ、今日ノ勞働運動者ハ悉ク勞働「ブローカー」、サウシテソレハ悉ク危險思想ヲ持ッテ居ルト云フコトニ斷定スルト云フコトハ少シク殘酷ト考ヘマス、何時モ其「ストライキ」ノ模樣ヲ見マスルトデス、其中ニハ御話ノ通リニ、最モ恐ルベキ惡思想ヲ以テ、詭激ナル考ヲ以テ「ストライキ」ヲヤル者モ居リマス、併ナガラ其多クハ「ストライキ」ヲヤル勞働者ヨリハ、其「ストライキ」ヲ利用シテデス、サウシテ御話ノヤウナ玆ニ詭激ナ思想ノ傳播ヲ圖リタイト云フヤウナ考カラ、勞働者以外ノ者ガ入リ込ミマシテ、サウシテ應援シテ、其「ストライキ」ヲ惡化セシメルト云フコトガ非常ニ多イ、絕エズソコヲ注意シテ取締ヲセナケレバナラヌト考ヘテ居リマス、御話ノ產業ノ發達ヲ圖ル爲ニ、資本、勞働、經營ト云フ三要素ガアラネバナラヌト云フコトハ當然ナコトデアリマス、全然其點ハ御同感デアリマス、ソレデ現狀ニ卽シテ此勞働者ノ所謂「ストライキ」ノ運動ガ、頗ル過激デアリ、極端デアリ、マア確カニ經濟鬪爭、階級鬪爭、社會革命ノ魂膽デアルト云フヤウナ御話、ソレハ或ル部分ハサウ云フ痕跡ナキニシモアラズ、非常ニ私モ憂慮イタシテ居リマス、併ナガラ其世相デス、其世相ダケヲ見テ、サウシテ玆ニサウ云フ世相ダカラ、勞働組合法ナドハ玆デ立法スル必要ハナイ、作ルベカラズト云フコトニハ言ハレナイト考ヘテ居リマス、此思想問題ニ觸レテ色々御話ニナリマシタカラ、申シマスガ、私ハ今日ノ日本ノ思想ノ、殊ニ勞働問題ニ關スル所ノ思想ヲドウ云フ工合ニ切リ流シテ行クカト云フコトガ大ナル問題ダト考ヘマス、彼ノ普通選擧ノ如キモ大分尙早論モアリマシタ、私ナドモ最初尙早論デ考ヘタコトモアリマスガ、併ナガラ我國ノ此政治上ノ思想ノ流レガデス、ドウシテモ普選ト云フコトガ大勢デアル、之ヲドウシテ切リ流スカト云フト、矢張リ普選ヲ斷行スル外ハナイ、此勞働者ノ勞働運動、是モ私ハ同ジコトニ考ヘテ居リマス、此思想ヲデス、之ヲ防ギ止メルコトガ出來ルカドウカ、此流レヲ防ギ止メル譯ニハ行カナイ、防ゲバ益々此水ハ溢レルニ違ヒナイ、之ヲ切リ流シ、善導シ、指導シテ行ッテ、初メテ勞働運動者ニ對スル所ノ思想ヲ緩和セラレル、卽チ日本ノ國體、我國體ヲ擁護シテ行クニハ、サウ云フ思想ガ玆ニ起ッテ居ル、此思想ヲ防ギ止メタラ、是ハ洪水氾濫シテ非常ナコトニナッテ來マス、此思想ヲ善導シテ行キタイ、指導シテ行キタイ、其爲ニハ組合法ノ制定モ必要デアル、我國ノ此國體ヲ維持シテ行クニハサウ云フ新思想ト假ニ申シマス、斯カル思想ヲ之ヲ善導シテ行カネバナラヌ、堰止メタラ大事ニナル、成程勞働者ノ數ハ今日ハ少イ、併ナガラ其無產階級ノ日本ノ民衆、卽チ大衆ト云フモノハ非常ニ多數アル、此民衆大多數ノ思想ノ流レガドウ流レテ居ルカ、此思想ノ流レヲ緩和シナケレバナラヌ、ソレニハ矢張リ勞働問題ヲ……立法ヲ成シテ、サウシテ勞働問題ナドヲ解決ヲナシ、一段落ヲ著ケルト云フコトガ、我國ノ思想ノ安定

ノ上ニ於テ大影響ガアルト考ヘテ居ル、藤原サンハ此經濟上ノ取引ヲ爲ス、サウシテ經濟的ニ出發シテ、經濟的ニ團結スルコトハ宜シイ、階級的ニ團結シ鬪爭スルコトハ宜シクナイ、御尤モナ御話デアリマス、全然御同感デアリマス、斯ウ云フコトハ……ソレデ今度ノ組合法ハ全ク經濟的產業的ニ組合法ヲ作ッタ所以ハソコニアリマス、其御考ト全然同感デアリマス、ソレカラ此思想問題ト組合法トノ關係ヲ御述ベニナリマシテ、其沿革ヲ御話ニナッタコトハ大體ニ於テ私モ御話ノ、若干ハ違ッテ居ルト致シマシテモ、大體ニ於テハ其沿革ハ承認イタシマス、唯社會局案ト云フコトニ付テノ御話ニ付キマシテ、是ハ御話ヲシテ置カネバナラヌノデアリマス、社會局デ立案イタシマシタノハ、御承知ノ通リ社會政策審議會デ大體ノ骨子ヲ決メマシタモノ、之ニ依ッテ立案イタシタモノデアリマシテ、世ニ呼ンデ社會局案ト申シテ居リマスルガ、是ハ今日ノ現狀ヲ捉ヘテ、此現狀ノ儘デ組合法ヲ作ラウト云フ考ガ起ッタノデアリマス、ソレハ藤原サンハサウ御認メニナッテ居ッタヤウデ、アリマスガ、是モ一ツノ立法ノ仕方ト考ヘマスガ、社會局デ案ヲ立テマシテ其儘ニシテ置キマシテ、サウシテ之ヲ發表シテ世ノ中ノ意見ヲ問ウタノデアリマス、卽チ世論ヲ問ウテ見タ、ドウ云フ風ニ是ガ世ノ中ニ響クカト云フト、卽チ資本家側ノ方〻ノ反對ノ意見、又勞働者側ノ不滿足ノ意見、各方面ノ意見ニ之ヲ徵シテ見マシタ、內務省ト致シテ、殊ニ私內務大臣ト致シテハ虛心坦懷ニ其時カラ考ヘテ居リマス、サウシテ世論ハ、或ハ之ニ贊成スル者アレバ反對スル者モアル、殊ニ實業家ノ方面ハ社會局案ニハ大分御反對ガアッタ、併シ勞働者側モ不滿足ヲ致シテ居ルト云フコトモ事實デアリマス、ソレデ內務省ト致シマシテハ、此世論ニ鑑ミテ、サウシテ穩健中正ナモノヲ作リ出シタイト云フ考ヲ有ッテ居ッタ、故ニ一度ハ資本家側ノ方ニ、卽チ藤原サンノ御方〻ト勞働者側ノ方〻ヲ一堂ニ集メテ、意見ノ交換ヲ圖リタイト考ヘマシタケレドモガ、資本家側ノ御方〻ハ御躊躇ニナッタ、甚ダ私ハ遺憾デアリマシタ、私ノ立場カラ、サウ云フ場合ノ事ヲ冷靜ニ公平ニ見テ居リマスト、ドウモ資本家側ノ方ニハ少シク此勞働問題ニ付キマシテハ、神經過敏ニナッテ居ラルルト云フコトヲ感ズルノデス、餘リニ神經過敏ニナッテ居ラレマシテ、モウ勞働運動ヲスル人ハ悉ク無產黨デアル、悉ク共產主義者デアルカノ如ク御考ニナルヤウナコトガ往々アルノデス、是ハ甚ダ遺憾ト致シテ居リマス、サウデハ決シテナイノデアリマス、併シ曩ニモ申シマシタヤウニ、今日ノ實際ノ各工場ナドニ於ケル所ノ「ストライキ」ノ狀況ナドヲ見マスルト、資本家側ノ御方〻ノサウ云フ神經過敏ノヤウニナルノモ、若干私ハ御尤モダト思フコトモアリマス、併ナガラ其現在ニ卽シテ、ソレガ爲ニ勞働組合法案ヲ此際ニ作ルト云フコトマデモ宜シクナイト云フコトハ、少シク神經過敏ニナリ過ギテハ居ラヌカト私ハ考ヘテ居ル次第デアリマス、ソレデ藤原サンハ此現在ノ組合ヲ保護スルコトニナレバ、勢ヒ階級鬪爭的ノ團體ヲ保護スルコトトナルト云フ御話デアリマス、ソレデ現在ノモノ、現在出來テ居ル組合ハ保護シテハナラナイト云フ御意見ニナルヤウニ窺ハレルノデアリマス、此處ガ特ニ私御話シナケレバナラヌ、御答ヲスルニ付テ、政府ト致シマシテハ、曩ニ御話ノ通リ、第一條ニ於テ確カニ產業別、職業別ノ組合ヲ認メタ、是ハ我國ノ勞働組合ノ趨勢カラ申シテ誠ニ慶ブベキ現象ハ、御承知ノ通リ產業別、職業別ガ大多數デアリマス、今日非常ニ發達シツツアリマス、一般的組合ハ非常ニ數ニ於テモ少イシ、人ニ於テモ實ニ少クアリマス、是ハ慶ブベキ現象デアリマス、ソレデ此趨勢ヲ政府トシテハ善導シテ行キマシテ、サウシテ確カニ經濟團體、勞働組合ヲ獎勵シテ行クト云フコトハ當然ナコトデアリマスガ故ニ、政府ハ第一條ニ於テ產業別、職業別ニ致シタ次第デアリマス、之ヲ政府ハ大讓步ヲシタトカ云フ御言葉ガアリマシタガ、藤原サンノ立場カラ讓步ト云フ字ヲ御使ヒニナッテモ構ヒマセヌガ、政府ト致シマシテハ唯最初ニ社會局案ヲ拵ヘテ世論ニ問ウテ、世論ニ鑑ミテ、サウシテ最後ノ案ヲ決メタノデアリマス、第十條ノコトノ御非難ガアリマシタガ、第十條モ元ハ、總會ノ決議ニ依ッテ組合員タルコトヲ得ルヤウナコトガアリマシタガ、サウ云フモノハ除キマシタ、去リナガラ當該組合ノ役員タリシモノヲ許ストアリマスガ、藤原サン方カラ申シマスルト、ソレデ勞働「ブローカー」ナドガ入ッテ來ルノダ、斯ウ云フ御懸念ガアリマスガ、今日勞働組合ニ於キマシテモ段々改良シ發達シツツアリマス、ソレダカラソレハ弊害カラ申シマシタラ、勞働「ブローカー」ナドガ此役員タリシモノト云フ所カラ紛レ込ムト云フコトガ皆無トハ申サレマセヌ、併ナガラ一般ノ組合員ノ常識ガ發達シツツアル、サウスルト今後組合ノ役員トナリ責任者トナルモノハ、決シテ「ブローカー」ナドハ組合ハ排斥シテ入レナクナル、是ハイツカ藤原サン自ラモ近來勞働爭議ナドガ良クナッタ、最近ノ話、惡イ勞働爭議ニハ國民ガ同情ヲ表セヌト云フ御話ガアリマシタ、其通リデアリマシテ、一般ノ國民ガ非合法ナ脫線セル所ノ勞働爭議ナドニハ同情ヲ表セナイ、又組合員モ自覺シテサウシテ所謂「ブローカー」ミタイナモノハ組合ノ役員ニシナイ、加入セシメヌト云フコトニナッタナラバ、此弊害ハ私ハ除去セラレルト考ヘテ居リマス、彼ノ第十三條ノ規定ハ、是ハ勞働者ニ對スル所ノ大切ナル規定デアリマシテ、此第十三條ノ組合員タル故ヲ以テ解雇スルコトヲ得ズト云フコトヲ、之ヲ資本家側ノ御方ハ削除論ガアリマスケレドモガ、之ヲ削除スルト云フコトハ、是ハ無理ナル御註文ト考ヘテ居リマス、而シテ附則ノ第一條ニ於テ……組合法ノ第一條ニ於テハ產業別、職業別ニシテ大變宜クナッタケレドモ、卽チ經濟的團體ニナッタケレドモガ、附則ニ於テ現在ノ組合ヲ認メテ居ッテ、サウシテ色色ナ現在ノ組合ニ於テハ惡イ團體ガアル、其團體ヲ認メルコトハ不都合デハナイカ、此點ハ特ニ申シ添ヘテ置カナケレバナラヌト考ヘル、藤原サンノ御讀ミニナリマシタ、段々御說明ニナッタ現在ノ組合ハドウ云フモノカ、左翼ト中間ト御擧ゲニナッタ、是ハ大體ニ於テ藤原サンノ御批評ハ首肯シテ置キマス、左翼ノ方ニ危險思想ナドノアル人ガ澤山居リマス、此處ガ私ハ大切ナ問題ト思ッテ居リマス、現在ノ組合ヲ悉クソレデハ認メズシテ、排斥シテシマフカドウカト云フ問題デアリマス、現在ノ組合ニ於キマシテモ其團體ガ勞働條件ノ維持改善、又組合員ノ共同利益ノ保護增進ヲ目的トスル團

體デアレバ之ヲ組合ト認メテ置イタ、去リナガラ一々綱領ナドヲ御讀ミニナリマシタ、其御讀ミニナッタヤウナ綱領ニ付テ、一一此處デ私ガ其是非善惡ヲ批評スルコトハ早計ト思ヒマスカラ遠慮イタシマスガ、私ハサウ云フ詭激ナル綱領、規約等ヲ掲ゲテ居リマシテ、サウシテ行ク團體ヲモ直ニ認メルカ、サウ云フ趣旨デハナイノデアリマス、若シ團體ガ、單純ニ規約バカリデ認ムルト云フコトモ早計ト考ヘマス、ソレデ能ク調査ヲ致シマシテ、果シテ團體ノ規約ニシテ法令ニ違反スルコトガアリ、又ハ公益ヲ害スルモノニ付キマシテハソレハ此度ノ此法案ガ法律トナリマシタ曉ニハ、第十七條ニ依リマシテ變更ヲ命ズルコトガアリマス、ソレニ於テ私ハ相當ノ取締ヲナスコトガ當然ト考ヘテ居リマス、サウ云フ詭激ナル考ヲ持チ、或ハ鬪爭的ノコトヲ主張シ、國家團體ヲ破壞スルヤウナ若シ規約ガアリタリト致シマスレバ、ソレニ對スル制裁ヲ加ヘルト云フコトハ當然ナコトデアリマス、要シマスルノニ提案ノ理由ニモ述ベマシタヤウニ、私ハ徹底セル勞資協調主義、徹底セル勞資協調主義デ行キマシテ、ソレデ此組合法案ニハ資本家ノ方〻モ御滿足ニナラナイ、又勞働者側モ滿足ニナラナイ、ソコニ私ハ政府トシテ穩健中正ナル意見ガ其處ニアル、斯ウ云フコトヲ堅ク信ジテ居ル、無産政黨ノ行動ト云フ御話ノ中ニハ往々混同セラレルヤウナコトガアリマシタガ、勞働組合員ガ無産政黨ニ入ッテ居リマシテ、其行動スルコトハ是ハ別問題デアル、若シ其綱領等ニ於キマシテ不穩ナモノガアル、我ガ國體ト相容レザルモノガアルト云フコトガアッタレバ、ソレハ先ニモ御話シマシタヤウニ、十七條ニ依リマシテモ又十八條ニ於キマシテハ、勞働組合ノ行爲ガ安寧秩序ヲ紊ルトキハ解散ヲ命ズルコトヲ得ルト云フコトニナッテ居リマス、此處ニ御示シニナッタ「ポスター」或ハ宣傳「ビラ」ト云フモノハ、是ハ一一斯カル「ポスター」ナドハ其當時禁止ヲ致シテ居ルモノバカリデアリマス、要シマスルニ此取締ノコトニ付キマシテハ非常ニ注意ヲ致シテ居リマシテ、苟モ詭激極端ナル思想ニ走ルヤウナ行爲ニ付キマシテハ、私ハ毫モ假借ナク取締ヲシテ居ルノデアリマス、我ガ國體ニ關シ、我ガ社會ノ基礎ヲ危クスルヤウナ言論行爲ニ付キマシテハ、是ハ徹底的ニ取締ヲ爲シテ居ルト云フコトヲ、私此際申上ゲテ置キマス、ソレデ要シマスルニ此第一問ノ思想問題ニ觸レマシタコトハ、十分思想上ノ取締ヲ致シマシテ、サウシテ此大事ナ我國ノ今日ノ過渡期ト申シマセウカ、無産民衆ノ、此大衆ノ思想ノ流レヲ善導シテ、サウシテ我國ノ國體觀念ニ誤ラザルヤウニ、其處ヲウマク利導シテ、水ヲ治メル如ク此思想ヲ治メテ行クト云フコトガ、私ハ今日ノ政治ヲ爲ス上ニ最モ注意シナケレバナラヌコトデ、偶、思想問題ニ觸レテノ御話デアリマスカラ最後ニ申上ゲテ置キマス、第二ノ御問ヒノ我國ノ經濟界ハ未曾有ノ時期デアル、此場合ニ何故ニ此組合法ナドヲ制定スルカト云フ御問ヒデアリマス、是ハ資本家側ノ御立場カラ御尤ト考ヘマスガ、私共ナドモ産業ノ今日ノ不振ノ狀態ハ十分承知イタシテ居リマス、去リナガラ今日産業ノ不況ニ陷ッテ居ルカラ、此際ニ組合法ノ如キモノハ作ルナト云フ、此組合法ノ制定ト私ハ財界ノ不況對策ト云フコトハ、區別シテ考ヘテ戴キタイト思ヒマス、或ル見方ニ依リマスト斯ウ云フコトヲ言フ人モアリマス、今ノヤウナ時代ダカラ却ッテ組合法ナド此程度ニ作ラレル、若シ好景氣ノ時代デ勞働者ノ非常ニ勢力ヲ得テ居ル場合デアッタナラバ、中〻斯カル組合法ナドハ作レヌダラウ、却ッテ今日ノヤウナ時ガ好時期デハナイカト云フコトヲ云フ人ガアリマス、是ハ少シ極端カモ知レマセヌケレドモガ、唯御參考ニサウ云フ論者ガアルト云フコトダケヲ御話シテ置キマス、要スルニ私ハ今日ノ時期ニ於テ勞働組合法ヲ作ルコトガ産業界ノ爲ニ宜シクナイト云フ御意見ニ付テハ是ハ首肯スル能ハヌ、何ト致シマシテモ……繰返シテ申上ゲテ宜シウゴザイマスガ、資本家側ノ方〻ハ財界ノ今日ノ不況、サウシテ各地ニ「ストライキ」ナドガ行ハレルカラ、ソレデ此際作ルベキモノデナイト、私ヲシテ言ハシメマスレバ今日ノヤウナ脫線セル「ストライキ」ガ行ハレル、此「ストライキ」ノ脫線セルモノヲ軌道ノ上ニ載セタイ、軌道ノ上ニ載セテ正シキモノニシタイ、早ク經濟組織ノ爲ニハ勞働組合法ヲ制定シナケレバナラヌ、サウシテ資本家側ノ方〻ノ安心スルヤウニ致シタイト云フ考デアリマス、何モ好ンデ政府ガ資本家側ノ不利益ナ、不便ニナルコトヲスル譯ハナイ、我〻ガ特ニ此際勞働組合法ヲ作ラウト云フノハ、今日ノヤウニ脫線セル「ストライキ」ガ各地ニ行ハレル、之ヲ今日軌道ニ載セテ正シキモノニ致シタイ、ソレニハ速カニ此際勞働組合法ヲ拵ヘテ、サウシテ相當ノ取締ヲ付タガ宜シイト云フコトニ考ヘテ居ルノデアリマス、サウシテ失業對策ノコトニ御話ガ移リマシテ、應急的對策トシテ失業救濟ヲシナケレバナラヌ、ソレヲ、政府ハ自由勞働者ヲ主ニヤッテ知識階級、熟練職工ナドニ對スル救濟ガ缺ケテ居ル……是ハ藤原サンハ內務省ノ失業防止委員會ノ委員トシテ豫テ御盡力ニナッテ、其內情ヲ能ク御存ジデアリマスガ、此知識階級ノ失業防止、救濟ト云フコトハ困難デアリマス、御話ノ如ク若干ハヤッテ居リマスガ、國ト致シマシテハ決シテ滿足ヲシテ居リマセヌ、併シ頗ル至難デアル、ガ至難ト云ッテ決シテ拋ッテハ置キマセヌガ、出來ルダケ努メマスルガ、世人ノ脇カラ見物シテ居ル其人〻ガ滿足スルヤウニナカ〳〵容易ニ行キマセヌ、又熟練職工ノ如キ、是モ藤原サンノ豫テノ御話ハ能ク承知イタシテ居リマスガ、熟練職工ヲ救濟スルコトハ頗ル困難デアル、ソレデ現在ノ考ト致シマシテハ、熟練工、熟練職工トシテ各種ノ産業ニ就職セシメマスト云フコトハ、是ハ産業振興ヲ徹底セシムル外ハナイ、併シ一般ノ失業救濟事業ト云フモノハ自由勞働者卽チ非熟練職工ノミナラズ熟練職工ヲモ其事業ニ依ッテ多數使用スルコトモアリマスカラ、矢張リ熟練職工モ全部トハ申シマセヌケレドモ、若干ハ是ガ救ハレルト云フコトハ御承知デアラウト思フ、ソレカラ一般ノ失業救濟ニ用ヒマス所ノ材料ノ調達、其材料ヲ調達イタシマス、是ハ主トシテ熟練職工ヲ要シマス、例ヘバ下水ニ鐵管ヲ使用スル、是ハ國産獎勵カラ外國品ヲ使用セシメズニ、國産品ヲ使用サセマスト、從ッテ鐵工業ノ熟練工ハ之ガ爲ニ職ヲ得タト云フ事實モアリマスルガ、サウ云フ工合デ一般ノ失業救濟ニ用ヒル所ノ材料ノ調達ニ付キマシテモ熟練職工ヲ使用スルコトガ出來マス、ソレカラ職業紹介ノコト、殊ニ徹底セル職業紹介及職業輔導、指導ト云フコトニ努メ

テ居リマスノデ、是デ熟練職工ノ失業ハ大イニ救ハレル積リデアリマス、其他失業防止委員會デハ藤原サンナドノ御話ノ結果ニ依リマシテ、勞働時間ノ短縮ヲスル、ソレデ矢張リ熟練職工ノ失業ノ若干ハ緩和サレルト云フコトモ一ツノコトト考ヘテ居リマス、併ナガラ熟練工ノ失業救濟ハ全ク御話ノヤウナコトデ、全部トハ言ヒマセヌガ、大體ハ頗ル至難ノコトデアリマスガ、斯ウ云フコトニ付テハ出來ルダケ注意ヲ致シテ居ルト云フコトヲ申上ゲテ置キマス、ソレカラ第三問ト致シマシテ勞働爭議取締法ヲ制定スルコトヲ必要トセヌカト云フ御尋デアリマス、是ハ獨リ藤原サンノミナラズ實業家ノ各方面ノ要求セラレタ聲デアリマス、私有リ體ニ申シマス、藤原サンモ自分ハ法律ノコトハ詳シクナイト云フ御言葉デアリマシタガ、同様ニ私モ法律ノコトハ詳シクアリマセヌカラ、私ハ虚心ニ此事ニ付テハ或ル場合ハ實業家ノ希望ガ當然デナカラウカト云フコトヲ考ヘテ見マシタ、ザウシテ專門家ノ各方面ニ就テ質シテ見マシタ、質シテ見マシタ所ガ、是ハ司法省或ハ警保局或ハ辯護士等法律家ノ方々ニ聞イテ見マスト、我國ノ法制ノ上ニ於テハ玆ニ特別法ヲ規定スルノ必要ハナイト云フコトニ皆一致ヲイタシテ居リマス、ソレハ取締ノ上ニ於テハ第一刑法ガアル、治安維持法、治安警察法、或ハ行政執行法、警察犯處罰令、暴力行爲等ノ處罰ニ關スル法律、勞働爭議調停法モ其中ニ加ハリマス、斯ウ云フ各種ノ法律ガアルカラ特別ニ此外ニ勞働爭議取締法ヲ設ケルノ必要ハナイト云フコトヲ各方面ノ意見ヲ徴シマシテ同一ニナッテ居リマスカラ、ソレデ勞働爭議取締法ヲ設ケルコトハ必要ハナイト考ヘテ居ル次第デアリマス、ソレナラバ選擧法ニハ特別ノ取締ガアルノニ勞働爭議ニハ何故取締ラナイカト云フ御尋デアリマス、選擧法デハ普通ナラバ罪ニナラナイ事スラ罪ニナルコトガアリマス、故ニ特ニ選擧法ハ普通ナラバ罪ニナラナイヤウナコトデ罪ニナルヤウナコトヲ規定シテ居リマス、勞働運動ニ付キマシテハ一般ニ罪トナラザルコトヲ罪スルガ如キコトハ宜クナイト考ヘテ居リマス、金一封ノ御話モアリマシタガ、是モ民間取引ニ於テ收賄罪ノ如キ規定ヲ設ケルコトハ宜シクナイデアラウト考ヘテ居リマス、ソレカラ御話ノ中ノ勞働爭議ヲヤル場合ニ見張ヲスルコトハ宜クアリマセヌ、多數集會スルト云フコトモ宜シクナイデスガ、斯ウ云フコトモ暴力威迫ニ關スル實質ガアリマスレバ、是ハ先ニ申シマシタ刑法ナリ其他ノモノニ於キマシテ、暴力行爲等ニ關スル處罰ノ法律ト云フモノデ皆悉ク取締リマス、イツカ大阪ノ實業家ノ團體カラデアリマシタカ斯ウ云フコトヲ例示シテ居リマシタガ、一々ソレヲ取調ベテ見マスト悉クドノ法律ニカ當嵌マルト思ッテ居リマス、例ヘバ武器ノ携帶ニ對シテ御話ガアッタ、是ハ銃砲火藥類取締ノ法ガアリマスカヲ、此法律ニ取締ノ規定ガアリマス、要シマスルニ此勞働爭議取締法ヲ特ニ設ケル必要ガナイト云フコトヲ感ジタ次第デアリマス、ソレカラ第四問ハ人口ノ問題デアリマス、是ハ大問題デ藤原サンノ豫ネテノ御持論ノ中ノ重モナルモノト私ハ思ヒマスデス、人口ノ増加スルト云フ數字等ハ御話ノ通リデアリマスガ、無論日本ノ產業ノ助長發達ヲ圖ラネバナラヌ、サウシテ人口ノ増加ヲ消化シテ行クト云フコトハ當然ナコトデアリマス、海外發展ノコトモアリマセウシ、又海ノ方ニ殊ニ發展スルコトノ御話ハ、人口調節緩和ニ大關係アルコトモ豫ネテ自分ノ持論トシテ居リマスガ、要スルニ日本ノ產業ノ發達ヲ圖ラネバナラヌ、ソレニハ玆ニ產業ヲ破壞シ、產業ヲ破壞スルヤウナ勞働組合法云々ト云フ御話ガアリマシタ、此御結論ハ餘リヒドイト思ヒマス、決シテ勞働組合ヲ拵ヘテ、何ヲ好ンデ產業ヲ破壞シ、破壞セムトスル、サウ云フコトハアリマセヌ、我々ハ徹底セル勞資協調ヲ圖リマシテ、其間ニ日本ノ產業ノ格段ナル發達ヲ圖リタイト云フコトヲ希望シテ居ル外ニ何モアリマセヌ、勞資ノ徹底セル協調ヲ圖ル、唯御立場ガ違フ、資本家側ト申シマセウカ、實業家ノ方々ト申シマセウカ、御立場ガ異ナル、サウシテ目前ノ「ストライキ」、此目前ノ勞働爭議ノ脅威、其脅威ヲ受ケタ方々ガ、其コトヲヒドク御感ジニナッタ爲ニ、其爲ニ勞働組合法案迄モ宜シクナイト云フコトハ、私ハ少シク神經ガ過敏ニナリ過ギテ居ラレルノダラウト、露骨ニ申シマスガ、感ジテ居ル次第デアリマス、我々ノ立場カラ、此今日ノ惡化セル勞働爭議ナドハ嚴重ニ取締ル、殊ニ思想問題ナドニ付テハ毫モ假借シテハナラヌト考ヘテ居リマス、徹底セル取締ヲナサネバ、ドウ云フ不覺ヲ取ルカ知レマセヌカラ、十分注意シテ居リマス、ソレド是トハ區別シテ、サウシテ斯ウ云フ場合デアルカラ此勞働問題ハデス、是ハ此組合法ノ制定ヲシテ解決ヲ致シマセナケレバ何時マデモ續キマス、此思想ハ之ヲ阻止スレバ阻止スル程私ハ惡化スル、極端ナルコトヲ申シマストデス、資本家側ノ御方々ガ却ッテ勞資ノ間ノ意思ノ疏通ヲ缺クヤウナ、矢張リ階級鬪爭ヲ、其御行動ニ依ッテハ惹起スノ懸念ガナキニシモアラズト私ハ思フノデアリマス、モウ少シソコハ虚心坦懷ニナリマシテ、サウシテドウ云フコトヲシタ方ガ穩健中正カト考ヘ、此日本ノ現狀ニ處シテハ、何トシテモ此勞働問題ヲ解決シナケレバナラヌ、此解決シテ行クト云フコトガ日本ノ思想上ニ於テハ大關係ガアル、產業上、決シテ其發達ヲ阻害スルヤウナコトハナイト云フコトカラデス、徹底セル勞資協調ノ下ニ此勞働組合法ヲ制定シテ、サウシテ我國ノ勞働運動ヲシテ穩健中正ニ導キタイト云フコトニ過ギマセヌ

〔副議長公爵近衞文麿君議長席ニ著ク〕

甚ダ御答ヘガ粗略ダッタカモ知レマセヌガ、大要ダケヲ御答ヘシテ置キマス

〔藤原銀次郎君演壇ニ登ル〕

○**藤原銀次郎君**　只今內務大臣ヨリ色々ノ御答辯ヲ承ハリマシテ、ソレニ付キマシテ、ソレニ付キマシテチョット補足的ニ私ノ意見ヲ申上ゲマシテ、尚ホ更ニ御考ヲ承ハリタイト存ジマス、是ハ第一ニ申上ゲテ置キタイノハ、私ノ申上ゲ方モ幾分足リナイ點ガアッタカトモ思ヒマスルガ、私ハ今日ノ我國ノ勞働運動家ヲ、全部所謂勞働「ブローカー」トカ、或ハ思想運動家トカ云フヤウナ風ニ申上ゲタ積リデハナイノデアリマス、私共モ能ク承知シテ居リマス、無產黨ノ中ニモ人格ニ於テモ、學識ニ於テモ相當ニ敬意ヲ表スベキ人ガ澤山ニアリ、又勞働運動家ノ中ニモ、同様ナ事實ヲ認メテ居リマスルノデアリマシテ、併ナガラ唯所謂勞働運動家ナルモノヲ聞ミ勞働者ト御考ニナッテ居ルト云フヤウナコトガドウモアル

ヤウニ思フ、衆議院ノ質問應答ヲ速記錄ニ依ッテ拜見イタシマシテモ、又色々內務大臣ノ御話ヲ承ハリマシテモ、ドウモサウ云フ嫌ヒガアルト思フト云フコトヲ唯申上ゲタノデアリマス、ココデ更ニ一例ヲ擧ゲル必要ハナイヤウデアリマスガ、內務大臣ヨリ御言及ニナリマシタカラ、私モ此際一言申述ベルコトヲ御許シヲ願ヒタイ、例ヘバ先刻モ御話ガゴザイマシタガ、資本家及ビ勞働者ノ意見ヲ聞クト云フテ、懇談會ヲ、勞資懇談會ヲ御催シニナリ、勞働者ノ代表者トシテドウ云フ方ヲ御呼ビニナッタカト申シマスレバ、無產黨ノ首領、若シクハ勞働運動者、若シクハ所謂勞働「ブローカー」ト云フヤウナ色々ナ方ヲ御招キニナリマシテ、勿論其中ニハ人格ニ於テモ、亦其運動ニ於テモ、立派ナ方モアリマスルガ、又其思想ニ於テ、平生唱ヘラレテ實行シテ居ラレル所ニ於テ、其思想及ビ其實行ノ方法ニ付テハ、私共ガ到底同席シテ國事ヲ談ズルト云フコトヲ潔シトシナイ方モアッタノデアリマス、ソレ故ニ私共ハ斯ウ云フヤウナ思想的ニ我々ト根本的ニ思想見解ヲ異ニシテ居ル人達ト、一緒ニ國事ヲ談ズルト云フコトヲ潔シトシナイト云フヤウナ積リデ、其懇談會其モノノ趣旨ハ贊成スルケレドモ、是ニ同席スルコトヲ潔シトシナイト云フコトデ、之ヲ御斷リスルト云フコトガ、此御斷リ申上ゲタ趣旨デアリマス、其時カラ我々ハ、眞ノ勞働者代表ト、勞働者ノ意見ヲ代表スル人ト懇談スル機會ヲ與ヘラレルナラバ、我々ハ喜ンデ出席スル、所謂勞働「ブローカー」トカ、運動家トカ云フヤウナ方トハ、勞働者トハ或場合ニ於テ利害ヲ異ニスル、例ヘバ「ブローカー」、資本ノ「ブローカー」、土地ノ「ブローカー」ノ利害ハ地主ノ利害ト或場合ハ反對ニナルコトモアリマス、又材木ノ「ブローカー」ノ利害ハ、材木屋ノ利害ト相反對スルコトモアルノデアリマス、故ニ多クサウ云フ方ト我々ト一緒ニナリマシテ、之ヲ勞働者ノ聲デアル、勞働者ノ代表デアルト云フテ懇談スルト云フコトハ意義ヲナサナイト云フノデ、私共ハ御斷リシタト云フ例ガアルノデアリマスカラ、旁、以テサウ云フ誤解ガアッテハ、此大事ナ、大切ナ問題ニ對シテ甚ダ不利益デアルト存ジマシタカラ、前提的ニ申上ゲマシタヤウナ次第デアリマスカラ、ドウゾ其點ハ惡シカラズ御諒恕ヲ願ヒタイト思ヒマス、先刻來私ノ私ノ最モ重點ヲ置キマシテ、內務大臣ニ御尋ヲ申上ゲタキ一問ノ、思想問題ト勞働組合トノ關係ニ付キマシテ、大臣ノ御答辯ハ、サウ云フ今日我國ノ全體ノ狀態ガ甚ダ危險ナ、思想問題ガ危險デアルカラ、ソレ故ニ此思想ノ危險ヲ防止スル爲ニ勞働組合ヲ設ケルノダト云フヤウナ御趣意ノヤウデアリマスガ、併ナガラ私ノ御尋ネ致シマシタノハ、斯ウ云フヤウナ思想ノ危險ニ際シテ、斯ノ如ク危險ナル思想ヲ懷イテ、斯ノ如ク危險ナル行動ヲ爲シツツアル所ノ國體ヲ、何故ニ保護ヲスルト云フ必要ガアルカ、又斯ノ如キ團體ハ私ハ勞働運動若クハ勞働團體ノ全部ガ、危險ナル團體デアルト云フコトヲ申上ゲタ覺エハナイノデアリマス、此運動ノ中ニハ斯ノ如ク先刻朗讀イタシマシタヤウナ危險ナ團體ガアルト云フコトハ、事實デアルト云フコトモ、內務大臣モ御認メニナッテ居ル、然ラバ何故ニ斯ノ如キモノヲ保護スル必要ガアルカ、是ガ承ハリタイ、私ハ……內務大臣ハ之ヲ愈、法律ヲ設ケテ、サウシテ危險ナモノガアッタナラバ、其時ニ之ヲ訂正サセルトカ、相當ナ取締ヲスルト云フコトヲ御話ニナッテ居リマスガ、併シ是ハ如何デゴザイマセウカ、內務大臣ハ現ニ我國ノ勞働團體ノ中ニ先刻私ガ朗讀イタシマシタヤウナ危險ナル思想ヲ懷キ、危險ナル行動ヲ演ジツツアルト云フコトヲ御承知ニナラナイノデアリマセウカ、御承知ニナッテ居ルノデアリマセウカ、若シモ是ガ御承知ニナッテ居ラナイノデアルナラバ、先刻ノヤウナ御答辯ガアッテモ然ルベキコトデアラウト思ヒマスガ、併ナガラ若シ斯ノ如キモノガアルト云フコトヲ御承知ニナッテ居リツツ、サウ云フモノガアルナラバ、相當ノ取締ヲ致シマセウト云フ御答辯デアッタノデハ、ドウモ私共ハ承服出來ナイノデアリマス、私ハ先刻ソレ故ニ是ハ產業ノ上ニ於テモ私共ハ、此處デ一言申上ゲマスガ、產業ノ上ニ於テ資本、勞働、經營家、三者ガ協調シテ參ルト云フコトニ付テハ、サウムヅカシイコトデナイト思フ、唯此間ニ「ブローカー」トカ、「アヂテーター」トカ、思想運動家トカ、無產黨トカ色々ナ第三者ノ介在ガ、之ヲ惑亂スル爲ニ、此產業ノ平和ガ保タレナイト信ジテ居ルノデアリマス、ソレ故ニ此勞働組合法ヲ御制定ニナッテ、折角此協調的ナ精神ヲ持ッテ參ッタ經濟的ノ團體ニ依ッテ、勞働運動ヲ指導シヤウト云フ御考デアルナラバ、何故ニ此危險ナル思想ヲ有ッテ居ル所ノ團體ヲ其儘保護シテ、之ヲ助長シテ行カウト云フヤウナ御方針ヲ御採リニナルカ、是ガ卽チ私ガ伺ヒタイノデアリマス、其外ノ色々ナ細イ十三條トカ、十條トカ、色々ナ細イ御說明ガアリマシタガ、此細イ御說明ハ今日此壇上ニ於テ承ハルヨリハ、寧ロ委員會及ビ其他ノ機會ニ承ハッタ方ガ宜カラウト思ヒマス、唯此根本的ノ非常ニ重大ナモノデアルカラ、產業ヲ破壞シテ、動モスレバ我ガ國體ニマデモ傷ヲ付ケヤセヌカト思フヤウナ、斯ノ如キ團體ヲ何故ニ保護スル必要ガアルカ、保護スル必要ガアルト云フコトデアッタナラバ、アル理由ヲ此處ノ席上ニ於テ、斯ウ云フ譯ダカラ此團體ヲ保護スルノデアルト云フコトヲ明瞭ニ承リタイ、是ガ私ノ趣意ナンデアリマス、詰リ此思想ノ流レヲ勞働組合法ト云フ堤防ヲ設ケテ、此思想ノ流レヲ之ヲ喰止メルト云フコトハ危險ダカラ之ヲ善導スルノダ、斯ウ云フ御話、私ハ其善導ハ結構ダガ、ドウシテ之ヲ善導スルカ、私ハ是デハ善導ドコロデハナイ、益々危險ニ導クモノデアルカラ、斯ウ云フ勞働組合法ニ依ッテ之ヲ保護シヤウト云フコトハ、益々危險ノ思想ヲ保護シテ助長スルモノデアルカラソレデハ困ル、若シ內務大臣ガ果シテ此危險思想ヲ保護スルモノデナイト云フコトデアルナラバ、何故ニ其ナイカト云フコトヲ承ハリタイ、卽チ治水ヲスルト云フ御話デアリマシタガ、治水ヲスル順序方法ハドウナサルカト云フコトヲ承ハリタイノデ、決シテ治水ヲスルト云フコトヲ承ハリタイノデナイ、サウ云フコトハ私ノ言葉ガ足リナカッタカモ知レマセヌガ、サウ云フ趣旨ヲ以テ、實ハ此點ニ付テ最モ力ヲ入レテ多クノ時間ヲ頂戴ヲシテ御話ヲ申上ゲタ積リデアリマスカラ、若シモ御差支ヘガゴザイマセヌナラ、モウ一度內務大臣ニ其邊ノ御說明ヲ具體的ニ承ハルコトヲ希望イタシマス、ソレカラ資本家ガドウモ神經過敏デアルト云フヤウナ御話ヲ承ハリマシタ、是

ハ毎度承ッテ居リマシテ、又衆議院ノ速記錄等デモ度々拜見イタシテ居リマスガ、私共ハ斯ウ云フ產業ノ危機ニ直面シテ、サウシテ斯ウ云フ思想團體ト、政治團體ト、危險ナル所ノ團體ト鬪ッテ、サウシテ此產業ヲ維持シテ行クト云フコトハ、實ハ非常ナ困難デアル、我國ノ大工業ハ比較的色々ナ設備ヲ持チ、根柢ガ出來テ居リマスカラ、斯ウ云フ思想團體ト鬪ヒマシテモ相當ニ鬪フ所ノ力ヲ持ッテ居リマス、併ナガラ之ニ比シテ中小工業ノ方ハ頗ル微弱デアリマス、其根柢ガ微弱デアリマスカラ、斯ノ如キ團體ガ、卽チ危險ナル勞働組合ナドニ襲擊サレマシタ時ニハ忽チ其根柢カラ覆サレテ、今日ハ此中小工業ガ如何ニ勞働組合カラ、卽チ私共ノ申シマス鬪爭的勞働組合カラ襲擊セラレテ、難局ニ陷リツツアルカト云フコトノ實況ハ、內務大臣モ御承知ノ筈デアリマス、ソレ故ニ產業ノ上ニ於テモ非常ニ危險デアルシ、又思想ノ上カラ言ッテモ是位危險ナコトハナイ、我國ノ國體カラ言ッテモ此位憂フベキコトハナイノデアリマスカラ、此場合ニ資本家ガ神經過敏ニナラズニ居ラレマセウカ、此神經過敏ニナッタノハ資本家ガ惡イノデアリマセウカ、私共ハ內務大臣ノ只今ノ御說明ヲ承ハッテ頗ル之ヲ意外ニ感ズルノデアリマス、私共ハ斯ウ云フ時期ニ際シテ、若シモ我國體ヲ危クスルト云フヤウナ斯ウ云フ時期ニ直面イタシマシテ、サウシテ是デ安閑トシテ居リマシタナラバ、此我國ノ資本家事業家ト云フモノハ實ニ國家ニ盡ス所ノ忠誠ノ念モナク、又我國ノ產業ノ爲ニ盡ス所ノ熱誠モナイモノデアルト云フ天下ノ非難ヲ受ケヤシナイカト思ッテ居ル位デアリマス、又熟練勞働者ノ救濟方法ヲ何等施スコトナクシテ、サウシテ勞働爭議ヲ斯ノ如ク頻發サセテ惡化シテ、サウシテ之ヲ救濟スルノハ勞働組合法ヲ設ケルニアルト云フヤウナ御說明ハ、私ハ甚ダ了解ニ苦シム所デアルト云フコトヲ申上ゲマシタ、所ガ熟練勞働者ニ對シテハ職業紹介所ヲ設ケテ居ルト云フヤウナ御話ガアリマシタガ、職業紹介所ハ設ケラレテ居リマスガ、此職業紹介所ニ於テ熟練勞働者ニ如何ナル利益ヲ與ヘタ、如何ナル實際上ノ利益ヲ與ヘテオ出デニナリマスカ、內務大臣ガ若シ御承知デゴザイマシタナラバ、是モ說明ヲ承ハリタイ、恐ラク私ノ方ガ內務大臣ヨリハ能ク承知シテ居リハセヌカト思ヒマスカラ、斯ウ云フ質問ヲ出スコトハ私ハ不本意ニ考ヘマスケレドモ、サウ云フ御說明ガアリマシタラ承ハリタイト思ヒマス、又時間短縮ノ御說明ガアリマシタ、是モ私ノ方ガ或ハ內務大臣ヨリハ能ク承知シテ居リハセヌカト思ヒマスガ、斯ノ如キコトハ何等ノ效能ガナイ、無イガ併シ先ヅ害ノナイコトデアルカラ內務大臣カラ各地方長官ニ通牒ヲ發シテ置クコト位ハ差支ナカラウヂヤナイカト云フノガ、失業防止委員會ノ決定シタ理由デアルノデアリマス、ソレ故ニ此通牒ノ中ニハ地方長官カラ各工場主等ヲ干涉ヲシナイヤウニシテ貰ヒタイト云フコトヲ附加ヘテ居ルノデアリマスカラ、此時間短縮ノ通牒ノ如キハ實際上何等ノ役ニ立ッテ居ラナイ、何等ノ效能ガナイコトハ事實デアラウト思ヒマス、又其外土木事業等ヲ色々澤山ニ施行スルカラ熟練勞働者モ若干之ニ依ッテ救濟サレルダラウト云フ御話ガゴザイマシタガ、是ハサウデゴザイマセウ、併ナガラ是ハ若干極ク僅カノ效果ハアルカモ知レマセヌガ、私ノ申スノハ既ニ農業勞働者ニ七千万圓、自由勞働者ニモ矢張リ七八千万圓、斯ノ如キ多額ナル救濟資金ヲ政府ガ御出シニナリマスルナラバ、之ニ優ルトモ劣ラザル所ノ熟練勞働、國家トシテハ自由勞働者ヨリハ熟練勞働者ノ方ガ大切デアル、其大切ナル熟練勞働者ニ何故ニ救濟ノ手段ヲ講ズルコトヲ御ヤリニナリマセヌカ、其救濟ノ方法手段ハ困難デアルト云フコトハ無論承知シテ居ルケレドモ、不可能ヂヤナイノデ、案ガ幾ラデモアルノデアル、ダカラ之ヲ救濟シヤウト云フ精神ガアレバ、赤心ガアレバ、如何樣ニモ出來ルノデアルノニ、何故ニ之ヲナサラヌカ、之ヲ捨テ置イテ組合……勞働爭議ガ惡化シタカラト云ッテ、資本家ガ不必要ニ組合ヲ嫌忌シテソレガ爲ニ爭議ヲ頻發スルナドト云フ御說明ガアルト云フコトハ、如何ニモ私共ノ了解ニ苦シムノデアルト云フヤウナコトヲ申上ゲタノデアリマス、ソレカラ又此爭議取締法ニ付テハ矢張リ此根本的……此選擧法ニハアルガ選擧法ニハ何故ニ現行法ニアル所ノ取締規定ヲ、更ニ特ニ選擧法ト云フ一ツノ特別ノ法ノ中ニ御規定ニナッタカ、サウシテ爭議ノ方ニハ何故ニ現行法ガアルカラ取締ル必要ガナイト、斯ウ仰セラルルカト云フコトヲ伺ッテ居ル、現行法ニ於テハ選擧法モ勞働爭議法モ同ジコトデアル、私ノ考ニ依リマスルト、選擧ハ三年カ四年ニ一度デアル、毎年解散ト云フモノハアル譯ハナイ、ダカラ若シ毎年解散ガアッテモ一年ニ一度デアルカラ、一年ニ一度アルカナイカ分ラヌ、不斷デ申シマシタナラバ三年カ四年カニ一度シカナイ所ノ選擧ニハ、斯ノ如キ綿密ナル規定ヲ色々御設ケニナッテ、之ヲ取締ラレルニ拘ラズ、殆ド年中頻發シテ居ル所ノ勞働爭議ニハ何故ニ其必要ガナイカト云フコトヲ伺ッテ居ル、現行法ニ依ッテ取締規定ガアルト云フコトハ無論承知シテ居ルガ、併シ選擧法ト比較シテ其必要ガ何レニアリヤト云フコトヲ、玆デ一々例ヲ擧ゲテ申上ゲタノデアリマス、若シ必要ガアレバ又此例ヲ申上ゲテモ宜シイシ、又此例ガ必要ガアレバ此儘內務大臣ニ差上ゲテモ宜シイノデス、兎ニ角其必要ヲモウ一度御說明ヲ願ヒタイ、ソレカラ資本家ガ却ッテ階級鬪爭ヲ惹キ起シハシナイカナドト云フヤウナ逆襲的ノ御說明ガゴザイマシタ、是ハ恐ラク私共ハ此一昨年社會局ノ組合法案ヲ御制定ニナッテ之ヲ御發表ニナッテカラ度々內務大臣ヲ始メ內閣諸公ニ陳情ヲ致シマシタ、所謂世間デ申シマス運動ヲ致シマシタ、ケレドモ內務大臣ハ頑トシテ御聽入レニナラナイ、此社會局案ヲ徹頭徹尾之ヲ次ノ議會ニ提出スルト云フコトヲ仰セラレマシタ、ソコデ私共ハサウナレバ卽チ斯ノ如ク、社會主義ト申シテハ甚ダ畏多イコトデアリマスガ、鬪爭的ノ、階級鬪爭的ノ法案ヲ施行セラルルナラバ、我國ノ產業ト云フモノハ破壞サレルシ、我國ノ思想問題ハドウナルデアラウカ、斯ウ云フ重大ナ法案ヲ內務大臣ガ頑强ニ主張セラレテ、何所マデモ通過スル、議會ニ提出スルト云フヤウニ御主張ニナリマシタカラ、已ムヲ得ズ色々種々ナ運動ガ起リマシテ、全國ノ產業家ガ團結シテ之ニ對シテ抗議ヲ呈スルト云フヤウナコトニナッタノデアリマスカラ、其邊ノ事情ヲ能ク御諒察ヲ下サイマシタナラバ、私共ガ進ンデ政府ニ向ッテ、斯ウ云フ擧動ヲ取ルト云フヤウナコト

ハ、無論ナイノデアリマス、玆ニ附加ヘテ申上ゲマスガ、日本デハ古來金持喧嘩セズト云フコトヲ申シテ居リマス、如何ナル場合ガアリマシテモ、資本家ナドハ紛擾ヲ釀ストカ鬪爭ヲスルトカ云フヤウナコトハ、古來絕對ニナイ、是ハ國家ノ一ツノ美風デアッタト思ヒマス、併ナガラ今日此民政黨ノ內閣ガ出來マシテ、而モ內務大臣ガ率先シテ斯ノ如キ鬪爭的ナ法案ヲ提出シテ、之ヲ遂行シテ、何所マデモ斷行スルト云フコトヲ仰セラレル以上ハ、此產業ノ破壞トカ、此國體ヲ擁護スルトカ云フヤウナ、斯ウ云フヤウナ目的カラ起ッテ、ドウシテモ之ヲ默視スルト云フコトハ出來ナイノデアリマシテ、ソレデ已ムヲ得ズ斯ノ如キ行動ヲ取ルヤウニナッタノデアリマシテ、恐ラク是ハ私カラ申上ゲルマデモナク諸外國ニ於キマシテモ、或ハ亞米利加ニ參リマシテモ、英吉利ニ參リマシテモ、獨逸ニ參リマシテモ、皆斯ノ如キ團體ガ出來テ居ルト云フコトハ內務大臣モ能ク御承知ノコトデアラウト思フノデアリマスカラ、私共ノ此行動ト云フモノハ決シテ階級的ノ行動ナドト決シテ考ヘテ居ラヌノデアリマス、一言此點ニ付テ釋明的ニ申上ゲテ置ク次第デアリマス、尙ホ內務大臣ハ徹底シタル協調主義ヲ取ルノデアルト、斯ウ云フコトヲ御話シニナリマシテ、其御主義ハ先刻來屢〻申上ゲマシタ通リニ結構デアル、私共ノ雙手ヲ擧ゲテ贊成スル所デアル、併ナガラ共主義ヲソコニ確立ナサッタコトハ結構デアルガ、御實行ニナル所ノ手段方法ハ丸デ共逆ニナッテ居ル、鬪爭的ナ組合ヲ保護シテ、サウシテ鬪爭ヲ獎勵スル結果ニナッテ、遂ニハ階級的ノ戰ヲ獎勵シテ、結局一ツノ革命的手段ニ訴ヘルヤウナ結果ニナリハセヌカト云フヤウナ此團體ヲ、サウ云フ虞ノアル所ノ團體ヲ保護セラルルト云フコトハ、如何ニシテモ內務大臣ノ御主張ニナル所ノ協調主義ト矛盾シテ居ル、ダカラ御話ニナル所ノコトト、御實行ニナルコトトガ非常ニ前後矛盾シテ居ルカラ、其矛盾ヲ正シタイト云フノガ私ノ精神デアリマス、之ヲ要スルニ私ハ內務大臣ガ露西亞ノ方ニ向ッテ船ヲ出帆セラレヤウト云フヤウナ御考ガ御アリニナルトハ毛頭考ヘマセヌ、內務大臣ノ平生ノ御人格ヲ承知シテ居リマスカラ、內務大臣ハ亞米利加ナリ英吉利ノ方ヘ向ッテ出帆シテ行カウト云フ御考デアルト云フコトヲ承リマシテ、私共ハ大イニ滿足シテ居ルノデアリマス、併ナガラ此大臣ガ今御買ヒニナッタ切符ノ裏ニハ、此船ハ或ハ浦鹽或ハ「オデッサ」ニ行ク、然ル後ニ英吉利及亞米利加ニ行クト云フヤウナコトニナルカモ知レヌト云フコトガ、其切符ノ裏ニ細カイ字デ書イテアルト私ハ思フノデアリマスカラ、若シ其邊ノ御用意ガナクシテ、是ハ勞資協調デアル、是ハ亞米利加ニ行ク船デアルト言ッテ喜ンデ御乘込ミニナリマシタナラバ、出帆後ニ非常ニ御後悔ニナリハセヌカト云フコトヲ申上ゲルノデアリマス、之ヲ以テ私ノ質問ハ終リト致シマス

〔國務大臣安達謙藏君演壇ニ登ル〕

○**國務大臣（安達謙藏君）** 簡單ニ更ニ要點ダケヲ御答シテ置キマス、最初ノ御話ニ私ノ官邸ニ招待イタシマシタ勞働者ノ方〻ハ決シテ御話ノヤウナ人デハアリマセヌデ、皆相當ノ人格者バカリデ、決シテ藤原サンノ御話ノヤウナ人デハナカッタト云フコトヲ私一言申上ゲテ置キマス、ソレカラ思想問題ニ付テ更ニ御話ガアリマシタカラ一言申シテ置キマスガ、此點ニ付キマシテハ及バズナガラ絕エズ考ヘテ居リマス、私共熱心ニ此普通選擧ヲ唱道シタノモ玆ニ胚胎シテ居リマス、ソレデ普通選擧ガ行ハレテ、此極端ナル思想ガ餘程是デ和ラギマシテ、議會否認論ナドガ殆ド根絕スルヤウニナッタト云フコトハ、矢張リ普通選擧ヲ實行シタ御蔭ダト私ハ考ヘテ居ル、ソレト同樣ニ勞働問題ニ付キマシテモ一般ニ多數ノ民衆ノ考ガ……

〔議長公爵德川家達君議長席ニ復ス〕

私ハ勞働立法ニ依ッテ非常ニ緩和スルコトガ出來ルト思ヒマス、先キニ御話シタヤウニ政府ハ我國ガ世界無比ノ國體ト……此國體觀念ト之ヲ結ビ付ケテ行ッテ、我國ノ危險思想ヲ無クスルコトガ出來ルモノト、斯ウ云フコトニ考ヘテ居ル次第デアリマス、簡單ニ申上ゲテ置キマス、ソレデ現在ノ危險ナル團體ヲ保護スルト云フ御話、サウ云フコトハ決シテ申上ゲテ居リマセヌ、附則ノ第二條ニ依ッテ、經過規定ニ依ッテ現在ノ團體ヲ認メルト云フコトハ申上ゲテアリマス、其團體ノ中ニ先ニ御讀上ゲニナッタヤウナモノ、其他色〻ナ綱領ナドヲ持ッテ居ッタモノガアリマシタナラバ、私ハ相當ノ處置ヲ致シタイト考ヘテ居リマス、現在デモ治安ヲ害スル者ガアリマシタナラバソレ〳〵嚴重ニ處置ヲ致スト云フコトハ當然デアリマス、又其程度ニ至ラズシテ本法ノ……此法律案ガ、是ガ愈〻實行セラレマシタ場合ニ、其規定ニ違背スルモノガアリマシタトキニハ、先ニ申上ゲマシタ通リニ、第十七條ニ依ッテ之ニ變更ヲ命ズルコトガ出來マス、ソレデ決シテ危險ナル團體ヲ保護スルト云フヤウナコトハ全然考ヘテ居リマセヌ、ソレハ何カノ御間違デアリマセウ、又今日ノ團體ノ中ニサウ云フ危險ナ綱領ノアルコトヲ承知イタシテ居ルカ……御讀上ゲニナッタ樣ナ綱領ガアッタト云フコトハ大體ニ於テ承知イタシテ居リマス、ソレダカラ此法案ヲ制定イタシマシテ、サウ云フモノヲ相當取締リ、是正シテ而シテ正シキ軌道ノ上ニ載セテ行キタイト云フコトヲ考ヘテ居ル次第デアリマス、熟練職工ノ問題ハ先ニ申シマシタ樣ノコトヲ繰返ス必要ハナイト思ヒマスカラ、玆ニハアレ以上申上ゲマセヌガ、先キニ自分ハ考ガアルト云フコトノ御言葉ガアリマシタガ、ソレハ時間ガ掛カリマスカラ玆デハ伺ヒマセヌガ、他ノ機會ニ於テ一ツ御考ヲ拜聽イタシタイト考ヘテ居リマス、爭議取締法ハ是ハ選擧法ノコトヲ段々御引合デアリマシタガ、選擧法ニ於テハ普通ナラ罰ニ入ラナイヤウナコトモ規定シテ居ル、此爭議取締ニ付キマシテハ、選擧法ノ取締ト同樣ニスル譯ニハ參ラヌト考ヘテ居リマス、而モ現行法ニ於テハ完備イタシテ居リマスカラ、現行法ニ於テ十分ト思ヒマス、更ニ其上ニ規定スル必要ハナイト考ヘテ居リマス、鬪爭的ノ法案ヲ作ッテサウシテ鬪爭的團體ヲ保護スルカラソレデ勞資協調ト云フコトト矛盾ガアルノデハナイカ、サウ云フ御話デアリマシタガ、決シテ鬪爭的團體ヲ保護シ鬪爭的法案ヲ拵ヘルデモ何デモナイ、飽クマデ徹底セル勞資協調主義ヲ保護シ、サウシテ愈〻危險ナル組合ガアッタナラバ、ソレハ相當ニ取締リ制裁ヲ與ヘテ行ッテ、先ニ御話シマシタヤウニ最モ穩健中正ナル所ノ「レール」ノ上ニ載セテ、サウシテ此勞働運動ニ基準ヲ與ヘタイ

ト云フコトニ過ギマセヌ、最後ノ御問デアリマスガ、米國ニ行クトカ、英國ニ行カズニ或ハ浦鹽ヲ經テ「オデッサ」行キノ切符ヲ買ッテ居ラヌカ……私ハ米國ニ行クトモ、英吉利ニ行クトモ考ヘテ居リマセヌ、日本ハ日本的ニ、茲ニ日本ノ特色ノ勞働組合法ヲ作ッテ、サウシテ我國ノ國體、我國ノ風俗習慣ト、ソレト融合シテ行カウト云フ者デ、日本特有ノモノヲ拵ヘタイト考ヘテ居リマスカラ、左樣御承知ヲ願ヒタイト思ヒマス

○藤原銀次郎君　此以上質疑ヲ重ネル必要ハナイト思ヒマスカラ、後ハ委員會ニ讓リタイト思ヒマス

○議長（公爵德川家達君）　有馬伯爵ノ登壇ヲ望ミマス

〔伯爵有馬頼寧君演壇ニ登ル〕

○伯爵有馬頼寧君　私ハ時間モナイコトデアリマスカラ極メテ簡單ニ御尋ヲ致シタイト思ヒマス、質疑ニ入リマスル前ニ一言申述べテ置キタイト思ヒマスコトハ、勞働組合法ガ制定サレマスルト云フコトハ今日ノ日本ノ現狀カラ見マシテ、又特ニ勞働運動ノ實情ニ照シマシテ極メテ必要ナモノデアルト信ズルノデアリマス、併ナガラ勞働組合法ト云フモノガ單ニ名ノミデアッテ、内容ニ於テ、其實質ニ於テ、勞働組合法ノ名ニ背クヤウナモノデアリマシタナラバ、私共ハ之ヲ喜ブコトハ出來ナイノデアリマス、苟モ勞働組合法ト云フ名稱ヲ附シテ社會ニ出マスル以上ハ、其内容ガ眞ニ勞働組合法タルノ價値ヲ持ッテ居ナケレバナラナイト思フノデアリマス、又私共此勞働組合法案ニ對シマスル態度ニ於キマシテ、如何ナル勞働組合法ガ制定サレルカト云フコトハ、私共ガ貴族院ニ居リマスル立場ト、又私共ガ個人トシテノ立場トハ、可ナリソコニ相違ガアルヤウニ思フノデアリマス、併シ私共ハ自分ノ、個人ノ利害ト云フヤウナ問題ハ此際考ヘルコトハ許サレナイノデアリマシテ、私共ハ何處マデモ貴族院ノ議員トシテ中正公平ナル立場カラ、此問題ニ直面シナケレバナラナイト思フノデアリマス……

〔副議長公爵近衞文麿君議長席ニ著ク〕

私ガ御尋ネ致シタイ點ハ多々アルノデアリマスルガ、斯ウ云フ際デアリマスルカラ、極ク僅ナコトヲ御尋ネ致シタイト思ヒマス、第一ニ私ノ質問イタシタイト思ヒマスルコトハ、法律ノ内容ニ關スル問題デハナイノデアリマシテ、ドウ云フ言葉ヲ以テ言ヒ表ハシテ宜イカ分リマセヌガ、政府ニ於カレテハ、現時ノ社會情勢ニ鑑ミテ勞働組合法ヲ必要ナリトシテ、茲ニ法案ヲ提出サレタノデアリマスルガ、一昨年來、又ソレ以前ニ溯ッテ藤原サンカラモ詳シク經過ノ御說明ガアリマシタガ、此法案ガ此議會ニ提出サレルマデニ、政府ノ執ラレタ態度ト申シマスカ、聲明ト申シマスカ、サウ云フモノガ、甚ダ前後矛盾シタモノガ非常ニ多イノデアリマシテ、私共ハドレガ本當ノ事ナンデアルカ、ドウ云フ組合法ヲ作レバ、今ノ日本ノ國情ニ最モ適シテ居ルト私共ガ信ジテ宜イノカ、其點ニ於テ私共ハ甚ダ迷ヒナキヲ得ナカッタノデアリマス、其私ノ非常ニ迷ヒマシタ點ニ付キマシテ從來ノ經過ヲ簡單ニ申上ゲマスルコトガ、御理解ヲ得ルノニ極メテ宜シイカト思フノデアリマス、勞働組合法ガ政府ニ依ッテ提出サレマシタノハ、今回ヲ以テ三回目ト致シマス、第一回ハ第五十議會、加藤内閣ノ時デアリマシタ、大正十五年二月十六日ニ法案ガ議會ニ提出サレマシタ、此時モ勞働爭議調停法竝治安警察法中改正法律案ガ之ニ先ッテ出テ居ッタノデアリマス、同年二月十七日カラ委員會ニ這入リマシテ、三月三日ニ委員會ハ終了イタシマシタ、然ルニ委員會ニ於キマシテ爭議調停法ト治安警察法ダケハ、之ヲ勞働組合法案カラ引離シテ、サウシテソレダケヲ本會議ニ持ッテ行クト云フ案ガ、憲政會ノ側カラ出タノデアリマス、私共當時委員ノ一人デアリマシテ、之ニ極力反對ヲシタノデアリマスルガ、其時ノ情勢ハ、憲政會ト本黨トノ連繫ガ成ッテ居リマシテ、此連繫ニ依ッテ只今申上ゲマシタ所謂爭議調停法ト治安警察法ノ改正案ノ二ツノモノガ、勞働組合法案カラ引離サレテ本會議ニ提出ヲサレタノデアリマス、サウシテ勞働組合法其モノハドウナッタカト申シマスルト云フト、十分ニ委員會ニ於テ討議ハ盡サレテ居ルニ拘ラズ、到頭其儘暗カラ暗ニ葬ラレテシマッタノデアリマス、此時ノ所謂政府提出ノ案モ、其以前ニ社會局ガ發表イタシマシタ案トハ非常ニ違ッタモノデアリマシテ、今回ノ社會局案ト政府提出案ト違フノト同ジヤウニ、非常ニ違ッタモノガ議會ニ出テ來タノデアリマスガ、只今申上ゲマシタヤウニ、遂ニ握リ潰シノ運命ニ遭ッタノデアリマス、其次ハ第五十二議會デアリマス、若槻内閣ノ時デアリマシテ、此時ニハ昭和二時三月十日ニ上程サレマシタ、前年ノ案ト少シモ內容ノ變ラナイ全然同ジモノガ議會ニ出テ來タノデアリマス、併シ此時ハ非常ニ期日ガアリマセナカッタ爲ニ、委員會ヲ殆ド開クコトナシニ其儘ニ議會ヲ終了シテシマッタノデアリマス、政府ヨリ提出サレマシタコトハ此二回デアリマシテ、其外ニハ第五十六議會ニ社會民衆黨ヨリ勞働組合法案ガ提出サレタコトガアリマスルガ、是ハ委員付託ノ儘ニ、遂ニ審議サレナカッタノデアリマス、其次ガ今回デアリマス、此度勞働組合法案ガ議會ニ提出サレマスルマデノ經路ハ皆樣ノ御承知ノコトデアリマスカラ、今更詳シク申上ゲル必要ハアリマセヌケレドモ、私ガ先ニ申上ゲマシタ質疑ヲ明瞭ナラシムル爲ニハ一ト通リ申上ゲル必要ガアルノデアリマス、昭和四年七月ノ十九日ニ、社會政策審議會ガ設置サレマシテ、八月ニ組合法制定ニ關シテ諮問ヲサレタノデアリマス、同審議會ハ十二月七日ニ其意見ヲ答申イタシマシタ、社會局ハ十二月十一日ニ其作成案ヲ發表イタシマシタ、尋デ同月ノ二十日ニ社會局ノ參與ノ議ニ付セラレマシテ、更ニ多少修正ガ加ヘラレマシテ、第二草案ト云フモノガ出マシタ、然ルニ第五十七議會ハ御承知ノ如ク解散ニナリマシタ、第五十八議會ハ臨時議會デアリマシタノデ、是ハ終ニ議會ニ出マセンデシタ、昭和五年……昨年ノ五月ノ頃カラ此勞働組合法ガ此五十九議會ニ提出サレルト云フコトガ稍〻確カメラルルニ至リマシテ、一般ニ資本家側ニ於ケル所ノ反對運動ガ段々力強クナッテ來タノデアリマス、五月二十二日ニ工業倶樂部經濟聯盟會共同主催ノ下ニ實業團體ノ會合ガ催サレマシタ、東京、大阪其他ノ代表ガ集ッテ反對運動ノ對策ヲ協議サレタノデアリマス、六月九日ニハ大阪ニ於テ關西事業家ノ會合ガアリマシテ、全國的反對運動ヲ起スト云フコトノ協議ヲ爲シタノデアリマス、六月十九日ニ安達內相ガ大阪ノ方デアリマスルカ、西ノ方ニ行カレマシタ時ノ汽車中ノ話ノ一節ニ斯ウ云フコト

ガアルノデアリマス、「第一、今ニナッテ勞働組合法案ノ提出ヲ、實業家ノ反對ガアッタカラト云ッテ止メルヤウナコトデハ、政府ノ面目ガ立タナイヂヤナイカ」ト云フヤウナ非常ニマア、是ハ此通リノ言葉ヲ言ハレタノカドウカ分リマセヌケレドモ、兎モ角モ、サウ云フヤウナ強イコトヲ言ハレタト云フコトガ新聞ニ出テ居ルノデアリマス、越エテ六月二十四日ニ郷、團兩君ガ首相ヲ訪ハレマシテ反對ノ意見ヲ述ベラレタノデアリマス、首相ハ會見後ニ斯ウ云フコトヲ言ハレマシタ、「兩君ノ陳シタ反對意見ノ中ニモ相當考慮スル餘地ガアルカモ知レヌガ、マダ議會マデニハ數月アルカラ、ソレ迄ニ大ニ研究シテ見ル必要ガアル」、所ガ六月二十八日ニ總理大臣ガ鎌倉ニ行カレマスル汽車ノ中ノ御話ノ一節ニ、「勞働組合法案ニ付テ、最近資本家側カラ意見ヲ聽取シタガ、元來現ニ發表サレテ居ル所ノ案ハ、社會局限リニ於テ發表サレタモノデアッテ、政府案デモ又內務省案デモナイ」云々、此邊カラ大分形勢ガ怪シクナッテ來タノデアル

〔議長公爵德川家達君議長席ニ復ス〕

是マデハ非常ニ强イ主張ガ政府ニ依ッテ爲サレテ居ッタノデアリマス、此頃カラ段々ニ政府ノ主張ガ稍々緩和サレテ來タヤウニ、私共ニハ見エタノデアリマス、越エテ七月一日ニ內務大臣ノ御話ト云フノガ新聞ニ出テ居リマシタ、「同法案ヲ發表シタノハ世間ノ各方面ノ反響ヲ見ル爲ダカラ、骨子ハ改廢シナイガ、社會局デ成文竝ニ字句等ノ改案ヲスレバ勿論之ニ同意ヲ與ヘル、決シテ原案通リ少シモ修正ヲシナイト固執シテ居ルノデハナイ」云々、玆ニ至ッテ明瞭ニ社會局案ガ覆ヘサレルト云フコトガ、ハッキリ分ルヤウニナッタノデアリマス、昭和五年十二月二十二日ニ御承知ノ勞資懇談會ト云フモノガ開催サレマシテ、サウシテ資本家側ハ之ニ參加セラレマセヌ爲ニ十分ニ其目的ヲ貫徹サレマセヌデシタ、越エテ本年ノ一月十七日ニ內相官邸ニ於テ資本家側ノミノ會合ガ催サルルコトニナッタノデアリマス、私ノ第一ノ質問ノ爲ニ只今大體ノ經路ヲ申上ゲマシタ、私ハ最初、社會局案ガ發表ヲサレマシテ、安達內務大臣ガ非常ナ御決心ヲ以テ資本家側ノ如何ナル反對ガアッテモ絶對ニ之ヲ以テ押切ルンダト云フ御意見ガ發表サレマシタ時ニ、私ハ非常ニ力强ク感ジタノデアリマス、然ルニ只今申上ゲマシタヤウニ、段々時ガ經ツニ從ッテソレガ變化シテ參リマシテ、サウシテ最後ニハ非常ニ違ッタモノニナッテ現レテ來タノデアリマス、內相ノ衆議院ニ於ケル御說明ヲ拜見イタシマスト、社會政策審議會ノ意見ヲ聽イテ、ソレノ答申ヲ得テ、其答申ニ依ッテ社會局ニ於テ原案ヲ作ッテ、サウシテ今度資本家及勞働者兩方ノ意見ヲ聽イテ、サウシテ今度ノ案ヲ作ッタンダト、斯ウ云フ風ニ御說明ニナッテ居ルノデアリマスガ、ドウモ私共ノ普通ノ觀念カラ申シマスト、ソレハ順序ガアベコベニナッテ居ルヤウニ私共ニハ思ハレルノデアリマス、商工會議所ニシテモ又工業俱樂部ニシテモ、所謂是ハ民間側ノ團體デアリ又資本家側ノ團體デアリマス、又勞働組合ニシテモ勞働者側ノ團體デアリマス、社會政策審議會ト云フモノハ、私ガ申上ゲル迄モナク、所謂當代一流ノ人物ヲ網羅サレテ、政府ガ非常ナ信賴ヲシテ、其道ノ偉イ人方ヲ集メテ御作リニナッタ會デアリマス、此會ノ答申ヲ先ヅ聽カレテ、サウシテ內務省ノ一局デアル所ノ社會局ト云フ、此勞働問題ニ付テハ最モ詳シイ所ノ當局ノ方々ガ立案スル、私ハソレガ最後ノモノデアルベキモノデハナカラウカト思フノデアリマス、社會政策審議會ノ意見ヲ聽イテ社會局ガ原案ヲ拵ヘテ、ソレカラ後ニ今度ハ外ノ人ノ意見ヲ聽イテ、外ノ人ノ意見ニ依ッテ、ソレヲ變改スルト云フ、斯ウ云フコトハドウモ私共、順序ガ間違ッテ居ルヤウニ思フノデアリマス、一般ノ勞働者側ナリ資本家側ナリノ意見ヲ參考ニシテ、サウシテ答申ヲ基ニシテ社會局ニ於テ原案ヲ作ラレルト云フノデアレバ、私共ハソレガ本當ノ途デハナカラウカト思フノデアリマス、唯、是ハ一昨年ノ問題デアリマスルカラ、昨年一パイ醞シ物ニシテ置イタノダ、世間ニ之ヲ問フタンダト、斯ウ內務大臣ハ言ハレテ居リマスガ、若シ社會局ノ案ト云フモノヲ單ニ原案トシテ草案トシテ社會ニ之ヲ問フンダト仰シヤラレルナラバ、ドコ迄モアノ案ヲ固執シテ、「アレデドンナニ反對ガアッテモ押通スンダト云フヤウナコトヲ仰シヤッテ下サラナカッタ方ガ宜カッタト私ハ思フノデアリマス、私共ハ內務大臣ガ社會局ノ案デ押通スンダ、斯ウ云フ風ニ力强ク仰シヤルモノデアリマスカラ、アノ社會局案ト云フモノガ一番宜イノダト、私共ハ深ク信ジテ居ッタノデアリマス、所ガ後ニナッテ段々ソレガ周圍ノ意見ニ依ッテ改變サレテ行クト云フコトデアルト、一體ドウ云フ案ヲ作レバ今日ノ日本ノ社會ニ一番能ク當嵌マルカト云フコトガ、サッパリ分ラナクナッテシマッタノデアリマス、私ハ內務大臣ニ御尋ネシタイノハ、ドウ云フ案ガ今ノ日本ノ現狀ニ一番適スルノカト言ヘバ、ソレハ今提出シタ案ガソレデアルト、キット御答ヘニナルニ違ヒナイト思フノデアリマス、併シ只今申上ゲマシタヤウニ、今迄ニ是ガ宜イノダト云フヤウナ御意見ヲ仰シヤッタコトガ幾ラモアルノデアリマシテ、ドレガ本當ヤラ私ニハ分ラナイノデアリマス、ドウゾ實際ニ……議會ニ御提出ニナッタノハ此案デアリマスガ、本當ノ御眞意ハ何處ニアルノデアリマスカ、只今ノ藤原サンノ御質問ニ對シテモ隨分强イ御答辯ヲナスッタヤウデアリマスカラ、ドウゾ本當ノ內務大臣ガ御考ヘニナッテ居ラッシヤル……今度ノ案ハ是ハ色々ノ事情カラ斯ウ云フモノヲ出シタガ、本當ノ自分ノ考トシテハ、モット斯ウ云ッタヤウナモノガ適當デアルト信ズルト云フヤウナ、本當ノ御氣持ヲ聞カシテ戴ケレバ非常ニ仕合セデアリマス、第二ニ伺ヒタイコトハ多少法案ノ內容ニ涉ッテ、甚ダ御迷惑ト思ヒマスガ、極ク簡單ニ申上ゲル積リデアリマス、ソレハ先ヅ先程モ大分問題ニナリマシタガ、第一條デアリマス、第一條ノ所謂勞働組合ノ目的ト云フモノハ勞働條件ノ維持改善ト云フコトニ初メハナッテ居ッタノデアリマス、社會局ノ發表イタシマシタ案ニ依リマスルト、勞働組合法ノ目的ハ所謂勞働條件ノ維持改善ト云フ點ニアッタノデアリマス、サウシテ所謂共濟デアルトカ、共同ノ利益增進デアルトカ云フヤウナコトハ、是ハ第二義的ノモノニナッテ居リマシテ、ヤリタクレバヤルシ、ヤリタクナケレバヤラナイデモ宜イ、斯ウ云ッタヤウナ仕組ニ社會局ノ案ノ第一條ハ出來テ居ッタノデアリマス、所ガ今度ノ案ニ依リマスト云フコト、勞働條件ノ維持改善ト同時ニ所謂此共濟、修養ト云フヤウナ方面ヲ同時ニ行ハナケレバ勞働組合

ニナラナイ、勞働組合法ノ目的ト云フモノノ中ニ、サウシタ共濟トカ修養トカ云フヤウナコトヲ必ズシナケレバナラヌト云フヤウナ規定ニナッタノデアリマス、是ハ私最初ニ申上ゲマシタヤウニ、勞働組合法デナケレバ私決シテ之ニ文句ヲ申スモノデハアリマセヌ、ソレハ勞働組合ト云フ所謂勞働者ノ團體ニ於テ修養ノ爲ニ何カシヤウトモ共濟ノ爲ニ何カシヤウトモ、決シテソレヲ否ムモノデナイノデアリマス、ケレドモ勞働組合法ト云フ名前ヲ冠シテ出ス以上ハ、其目的ハ明瞭デナケレバナラヌト思ヒマス、勞働組合法ノ目的ト云フモノハ勞働條件ノ維持改善ト云フノガ、是ガ最小限デアリマス、初メノ社會局ノ案ノヤウニ、其目的ヲハッキリ茲ニ明示シテ、サウシテ共濟トカ或ハ共同ノ利益增進トカ、修養トカ云フヤウナコトハ、是ハ任意ニ之ヲ行ハシメルト云フコトニナルノガ本當ダト私ハ思フノデアリマス、然ルニ今度ノ法律ニ依リマスルト云フト、是非トモソレヲシナケレバナラナイ、斯ウ云フ風ニ規定セラレテ居ルト云フコトハ、勞働組合法ト云フモノノ本質ガ可ナリ曲ゲラレテ居ルト私ハ思フノデアリマス、サウ云フ事ヲヤッテイケナイト云フコトハ決シテナイノデアリマスケレドモ、勞働組合法ノ目的ト云フモノハ勞働條件ノ維持改善ト云フ風ニ明瞭ニ示シテ、唯ソレニ斯ウシタ仕事ヲ爲シ得ルト云フ、初メノ社會局ノ案ガ最モ適當ナモノデナカラウカト私ハ思フノデアリマス、何故ニ之ヲ御變改ニナッタノデアリマスカ、其點ヲ伺ヒタイノデアリマス、又產業別職業別ト云フコトニナッテ居リマスガ、是モ先程藤原サンカラモ御質問ガアリマシテ大分御答モアッタノデアリマスガ、內務大臣ハ、先達、何カノ時ニ私ハ伺ッタノデアリマスガ、ソレハ現在ノ日本ノ勞働組合ノ傾向ト云フモノガ、大體ニ於テ產業別、職業別ニナリツヽアルノダ、又將來ノ勞働組合ハ、皆ンナ產業別、職業別デ行カナケレバイケナイト云フ風ニ自分ハ信ズルカラ、其意味ニ於テ此規定ヲ設ケタノダト云フ風ノ御話ガアッタノデアリマス、只今藤原サンノ御話ヲ伺ッテ居リマト、何カ資本家側ノ意見ガ通ッテ是ガ改正サレタノダト云フ風ニ、私ノ聞誤リカモ知レマセヌガ、サウ云フヤウナ御話モアッタヤウデアリマスガ、私ハ產業別、職業別ノ組合ガ決シテナイト言フノデハアリマセヌシ、又ソレガ惡イト決シテ言フノデハアリマセヌケレドモ、一方ニ於テ一般的ノ、現在存在スル所ノ組合ヲ御認ニナル以上ハ、產業別、職業別デナイ一般組合デアッテモ差支ハナイト云フ御考ガナイ譯デハナカラウト私ハ思フノデアリマス、產業別、職業別ノ組合モ之ヲ認メ、サウデナイ、一般組合ト云フモノモ同時ニ御認ニナッテ、自由ニソレヲ選擇セシメルト云フコトニ何等私ハ支障ハナイト思フノデアリマス、殊更ニサウ云フ產業別デナケレバナラヌトカ、職業別デナケレバナラヌトカ云フ風ニ、限定爲サル必要ガナイヤウニ私ニハ考ヘラレルノデアリマスガ、此點ハ何カ特別ノ理由ガアルノデアリマセウカ、ソレニ付テ伺ヒタイト思ヒマス、此一條ノ資本家側ノ反對ノ理由ノ中ニ、所謂階級鬪爭ヲ激成スル……階級觀念ヲ強クシテ、階級鬪爭ヲ激成スルト云フコトニ付テ、非常ニ御反對ノ聲ガ高クアッタヤウデアリマス、私ハ此第一條ト云フモノハ、殊更ニ階級觀念ヲ明瞭ニシテ、サウシテ階級鬪爭ヲ激成スル目的デ以テヤルナラバソレハ宜シクナイコトダト思ヒマスルケレドモ、私ハ階級鬪爭ト云フモノガ全然無クナシテ了ヘルモノデアルカ、斯ウシタ法律ノ條文ガアッテモナクテモ、サウ云フヤウナモノガ、一體全體無クナルト云フコトニハ、私ニハ考ヘラレナイノデアリマス、私ハ決シテ階級鬪爭ガ原則ダトモ思ヒマセヌシ、又階級鬪爭ガ善イコトダトモ思フノデハアリマセヌ、ケレドモ何人モ今日ノ社會ヲ見テ、ソコニ階級鬪爭ノ事實ガアルト云フコトヲ否定スル者ハナイダラウト思ヒマス、利害ノ相反スル所ノ者ガ存在スル時ニ、其間ニ爭ガ生レルト云フコトハ、是ハ已ムヲ得ナイコトデアッテ、ソレガ善イトカ惡イカト云フコトヨリハ、事實デアルモノヲ如何トモスルコトガ出來ナイト思フノデアリマス、私ハ此第一條ノ規定ト云フモノガ、殊更ニサウシタ階級鬪爭ヲ激成スルトカ、階級觀念ヲ深クスルトカ云フヤウナコトハ決シテナイト私ハ信ズルノデアリマス、前ニ申上ゲタ所謂產業別、職業別ニ何故シテ、一般組合ト云フ風ニ自由ニ選擇ヲ許サナイノデアリマスカ、サウ云フ此第一條ニ付キマシテハ、勞働條件ノ維持改善ト、修養、共濟ト云フヤウナモノト是非一緒ニシナケレバナラヌカ、此二ツノ點ニ付テ御尋ヲ致シタイノデアリマス、其次ニ伺ヒタイノハ第十二條デアリマス、第十二條ト申シマスノハ、御承知ノ通リニ、組合ガ政治運動ニ對シテ金ヲ出シタリ又政治運動ノ爲ニ、組合員カラ金ヲ集メテハイケナイ、斯ウ云フ規定ガ第二十條ニアルノデアリマス、此規定ハ從來ノ勞働組合法案ニハ一度モナカッタ規定デアリマシテ、今度ノ法案ニ初メテ是ハ挿入サレテ來タモノデアリマス、唯資本家側ノ方ミノ、勞働組合法ニ對スル反對意見ノ中ニ、組合ノ政治運動ヲ禁止スル必要ガアルト云フノガ出テ居ルノデアリマス、又勞働者側ノ、政治行動ニ對スル禁止ノ、所謂資本家側ノ意見ニ對シテ反對ノ意見モ出テ居ルノデアリマス、私ハ勞働組合ト云フモノガ、其組合員カラ金ヲ集メルカ、或ハ組合ノ金ヲ支出シマシテ、サウシテ政治運動ヲヤル、政治行動ニ這入ルト云フコトハ宜クナイ、私ハ是ハ寧ロ反對ノ意見ヲ持ッテ居ルノデアリマス、今日勞働組合ト云フモノガ幾ラ經濟組合ダカラト申シマシテ政治的方面ニ進出スルコトナシニハ勞働階級ノ利益ガ增進サレルモノデハナイノデアリマス、是ハ私ガ申上ゲル迄モアリマセヌ、デアリマスカラ、今日ノ所謂勞働團體ト云フモノガ、皆一方ニ於テ無產政黨、所謂勞働政黨ト云フモノヲ持ッテ居ッテ、其政黨ヲ通シテ政治行動ニ依ッテ勞働階級ノ利益ヲ增進シテ居ルト云フコトハ事實ナノデアリマス、勞働組合ヲ一方ニ認メタカラト言ッテ、其勞働組合ニ政治行動ヲスルコトヲ不可ナラシメルノデアルナラバ、決シテ勞働者ノ利益ヲ增進スルコトハ出來ナイト思ヒマス、併シ內務大臣ノ御說明ニ依リマスルト、決シテ政治行動ヲ嚴禁スルノデモ制限スルノデモナイ、唯ソレニ向ッテ金ヲ出シタリソレガ爲ニ金ヲ集メタリスルコトガイケナイノダ、ソレダケヲ禁ジタノデアッテ、勞働、所謂無產政黨ニ這入ルコトヲ決シテ禁ジテモ居ナケレバ政治運動ヲ禁ジテ居ルノデモナイ、斯ウ云フ風ニ御答ニナッテ居ルノデアリマス、理窟ハサウデアリマスルケレドモ、金ガナケレバ何ンノ仕事モ

出來ヤシナイノデアリマシテ、所謂無產政黨ト云フモノハ、所謂勞働組合ト云フヤウナ經濟組合ヲ通シテ金ヲ集メナケレバ、所謂無產政黨ノ金ト云フモノハ決シテ出來ルモノデハナイト私ハ思フノデアリマス、私ハ無產政黨ト云フモノガ、此勞働組合ヲ通シテ金ヲ集メテ、其金ニ依ッテ、所謂選擧モヤルト云フコトノ方ガ、公明正大デ以テ、本當ニ政治ヲ清淨ナラシメル所以デアルト私ハ思フノデアリマス、今日ノ既成政黨ニ付テ御覽ニナレバ一番明瞭ニ分カルデハアリマセヌカ、今ノ……私ハ知リマセヌガ、今ノ世間ノ聲ヲ聽キマスト云フト、現在ノ日本ノ既成政黨ニハ其弊害ガ澤山アルト世間デハ言ッテ居リマス、所謂政治上ノ弊害トハ然ラバ何デアルカト云ヘバ、ソレハ多クハ金ニ關係シテ居ルデハアリマセヌカ、所謂選擧費ガ何處カラ出ルカ分ラナイ、斯ウ云フヤウナコトガ色々政治上ノ問題トナリ、社會ノ疑惑ヲ招ク原因トナッテ居ルト私ハ思フノデアリマス、政黨ガアッテモ、黨費ヲ皆カラ取ッテ居ル、政黨デ以テ黨員ガ黨費ヲ納メテ居ル政黨ト云フモノハ、幾ラモナイデアリマセウ、而モ選擧ノ時ニハ莫大ナル所ノ金ガ要ルトスレバ、其金ハ一體何處カラ出テ居ルノダト云フヤウナコトガ、政治ニ關シテ何時モ疑惑ヲ惹起ス原因ニナッテ居ルト私ハ思フノデアリマス、無產政黨ガ其勞働組合ヲ通シテ組合員カラ金ヲ集メル、或ハ其ノ組合ノ金ヲ使ッテ政治運動ヲスルト云フコトナラバ、此組合ヲ取締ルト云フ點カラ言ッテ、政治方面ニ如何ナル金ガ使ハレ、ドウ云フ所カラ金ガ這入ルカト云ヲコトガハッキリスルノデアリマスカラ、此點ハ、所謂金ニ依ル所ノ政黨ノ腐敗ト云フモノハ、ハッキリ之ヲ防グコトモ出來ルシ、之ヲ明瞭ニスルコトガ出來ルト思フノデアリマス、所謂勞働組合、勞働者ノ爲ニ、其利益ヲ增進スル手段トシテ政治行動ガドウシテモ必要デアルト假リニ致シマシタナラバ、正々堂々ト、所謂政治行動ガ執レルヤウナ途ヲ與ヘルコトガ、寧ロ無產政黨ヲ墮落セシメルヤウナコトガナイト私ハ信ズルノデアリマス、其意味ニ於テ私ハ之ニ反對ヲスルノデアリマスルガ、政府ニ於カレテハ何ガ故ニ斯ウ云フヤウナ條文ヲ入レテ、此事實上政治運動ガ出來ナイヤウナコトニサレタノデアリマスルカ、其點ニ付テ私ハ伺ヒタイト思フノデアリマス、其次ニ伺ヒタイノハ第十三條デアリマスガ、第十三條ト申シマスノハ、御承知ノ通リニ組合員デアルカラト云フ理由ニ依ッテ解雇スルコトガ出來ナイ、又組合ニ加入シナイ、或ハ組合カラ脫退スルト云フコトヲ雇傭條件トスルコトガ出來ナイ、此規定デアリマス、之ハ資本家側ノ可ナリ酷イ反對ガアッタニ拘ラズ、政府案ハ之ヲ守ッテ削除サレナカッタノデアリマス、政府デ說明セラレル如ク、此條文ヲ除イタナラバ、勞働組合法ノ制定ノ趣旨ト云フモノハ丸ッキリナクナッテシマフ、勞働組合ニ這入ラナイト云フコトヲ條件ニシナケレバ雇ハナイ、サウ云フヤウナコトヲ許シタナラバ、勞働組合ト云フモノガ出來タカラト云ッテ、少シモ勞働者ノ利益ニハナラナイカラ、此規定ダケハ如何ナル反對ガアッテモ削除スルコトハ出來ナイト、斯ウ云フ意味ニ於テ政府ハ之ヲ支持サレテ來タノデアリマス、此點ハ非常ニ結構ナンデアリマスガ、之ニハ所謂罰則ガナイノデアリマス、ズット以前ノ……一番初メノ社會局ノ案ニハ之ニ罰則ガ附イテ居リマシタ、故ニ只今ノ規定ニ背キマシタ場合ニハ五百圓以下ノ科料ニ處スト云フ罰則ガ附イテ居ッタ、所ガ其後ノ法案ニハ此罰則ヲ取ラレテシマヒマシテ、今度ノ法案ニハ只今申シ上ゲタ所ノ規定ニ違反スルヤウナ契約ヲ結ンデモソレハ無效ダト云フ但書ガ附イテ來タノデアリマス、罰則ヲ附ケルノハ酷イ、併シナガラ罰則ヲ附ケナクッタッテ、サウ云フヤウナ條文ニ背イタ契約ヲシタモノハ無效ダト云フコトニシテ置ケバ事實ノ上ニ於テ結果ハ同ジヂヤナイカト、斯ウ云フ風ナ說明ヲナサレルカモ知レマセヌケレドモ、之ハ非常ニ結果ガ違フト私ハ思フノデアリマス、組合員タルノ故ヲ以テ解雇ヲスルコトガ出來ナイトカ、或ハ加入シナイト云フコトヲ條件ニシテ契約ヲスルト云フコトハイケナイト、斯ウ云フコトニナッテ居リマスルト、例ヘバ假ニ此處ニ一人ノ勞働者ガアッテ、失業シタ、困ッテ居ル、サウ云フ場合ニ或ル工場ニ私ヲ雇ッテ下サイト云フ コトヲ賴ミニ行ッタ場合ニ、御前ハ勞働組合ニ加入シナイト云フ約束ヲスルナラバ雇ッテヤラウ、斯ウ云フコトヲ假ニ工場主ノ方デ申シタ場合ニ、ソレハモウ斯ウ云フ際デアリマスカラ如何ナル條件デモ聞キマス、勞働組合ナドニハ決シテ這入リマセヌカラドウゾ雇ッテ下サイト云ッテ、其條件ヲ承諾シテ茲ニ雇ハレタト致シマス、此法律ガ出來上ッタ曉ニ、若シ其處ニ罰金ト云フ所謂五百圓ト云フ科料ニ處スト云フ罰則ガ附イテ居リマスナラバ、サウ云フ契約ヲシテ這入ッタ職工ガアッタ場合ニハ、直ニ組合カラ之ヲ發イテ行ク、オ前ノ所ノ工場テハ斯ウ云フ規則違反ノコトヲシテ職工ヲ雇ッテ居ルヂヤナイカ、斯ウ云フコトヲ發カレレバ、罰則ガ附イテ居リマスカラ法律ニ觸レルノデアリマス、デスカラ此罰則ガアリマスレバ、サウ云フコトハ、此法ヲ破ッテモサウ云フ契約ヲ結ブト云フコトハ防ゲルト思ヒマスケレドモ、唯無效ダト云フコトデハ何モナラナイト思フ、若シサウ云フ契約ヲシテ這入ッテ居ル職工ガアッタ場合ニ、組合ノ方カラサウ云フ契約ハイケナイヂヤナイカ、法律ニ違反シテ居ルデハナイカト突込ンダ場合ニ、ソレハ無效ダト言ハレヽバ、雇ハレタ職工ガ失業スルト云フ以外ニハ何モノモナイノデアリマス、ソレニ依ッテ工場ノ方、雇主ノ方デハ何等ノ痛痒ヲモ感ジナイ、要スルニヤッタ契約ガ無效ナリト云フコトニナレバ職工ガ雇ハレナイト云フコトニナルヨリ以外ニ何モノモナイノデアリマスカラ、雇傭者ノ側ニハ何等ノ痛痒モナイ、ダカラ罰則ガアルノト、無效ノ規定ガアルノトデハ、同ジヤウデハアルガ、實ハ非常ニ違フト私ハ思フノデアリマス、私ハ斯ウ云フヤウナ根本ノ規定ガ設ケラレテ居ルト云フコトソレ自體ハ非常ニ結構デアリマスケレドモ、ソレガ事實ニ於テ役ニ立ツカ立タナイカニ依ッテ非常ナ違ヒガアル、只今申シ上ゲタヤウニ事實ノ上ニ於テ效力ガナイ、條文ダケハ非常ニ綺麗デアッテモ私ハ大シテ所謂勞働階級ノ利益ニハナラナイト思フノデアリマス、此法案ノ中デ世間デ問題ニナッテ居ル條文ガモウ一ツアルノデアリマス、ソレハ今度ノ法案ニハ這入ッテ居リマセヌガ、社會局ノ原案ノ第十三條ニ所謂免責規定ト云フモノガゴザイマシテ、之ハ爭議ニ依ッテ損害ヲ與ヘタ場合ニ、所謂組合側幹部側ニ於テ其損害ヲ賠償スルト云フ責任ハナイノダト、所

謂免責規定ト云フモノガ從來社會局ノ案ニハアッタノデアリマスガ、今度ノ案ニハ之ガ取ラレテ居リマス、之ハ大分異論モアリマスシ、反對モアッテ、結局削除サレタノダト思ヒマスガ、勞働者カラ「ストライキ」ト云フモノヲ奪ッテシマウト云フコトハ……此條文ハ決シテ奪フト云フコト ニナッテ居ル譯デハアリマセヌ、併シ此規定ヲ取ッテシマッタト云フコトハ或ル程度ニ於テ勞働者ニ非常ナ脅威ヲ與ヘルモノダ、所謂「ストライキ」ト云フモノガ、事實上不可能ニナル、實際困難ニナルト云フコトデアラウト思ヒマス、私ハ決シテ暴力的ナ「ストライキ」或ハ暴行脅迫ト云ッタヤウナ風ナコトヲ決シテ宜イト云フノデハアリマセヌ、ケレドモ勞働者カラ「ストライキ」ト云フ手段ヲ取ッテシマッタナラバ、勞働者ノ鬪フ所ノ武器ト云フモノハ一ツモナイノデアリマス、此「ストライキ」ヲ出來ルダケ正シク、外國ノ本當ノ所謂「ストライキ」ノヤウニナサシメルト云フノガ所謂導ク道デアッテ、サウ云フモノヲ全部取去ッテシマッテ行ッタナラバ、其處ニ何ガ生レテ來ルカト云ヘバ、ソレハ直接行動デアリ潛行的ナ非常ナ恐ルベキ手段ニ依ルヨリ外ニ道ハナイト思フノデアリマス、此免責規定ガナイガ爲ニ、私ハ所謂勞働組合ノ罷業權ト云フモノガ確立サレナイト云フコトガ、一面ニ於テ只今申シ上ゲタヤウニ勞働組合ノ運動ト云フモノガ非常ニ暗クナル處ガアル、明ルイ運動デナクテ非常ニ陰慘ナ運動ニナッテ來ル處ガアルト云フ風ニ私ニハ見エルノデアリマスガ、何ガ故ニ此所謂免責規定ト云フ大事ナ條文ヲ御除キニナッタノデアリマスカ、其點ニ付テ伺ヒタイノデアリマス、時間ガ大分經チマスカラ、省略シテモウ一點ダケ申述ベテ見タイト思ヒマス、先程藤原君ガ勞働組合法ト思想問題ノ關係ニ付テ御質問ニナリマシタガ、私モ所謂思想善導ト申スカ、思想問題ト云フ方面トノ關係ニ付テ少シ内務大臣ニ御尋ネシタイ、ソレハ勞働組合法ノ衆議院ニ於ケル本會議ノ時ノ内務大臣ノ御答辯ノ中ニ、斯ウ云フ御言葉ガアルノデアリマス「此所謂勞働者側、其勞働者ノ後ロニ居ル所ノ大多數ノ、所謂民衆ノ思想ノ流レ、此思想ノ流レヲ善導シ、利導シテ行カナケレバ、國家ノ大策ヲ誤リマス、我々ハ此場合ニ於テ勞働組合法ヲ提出シタガ、其勞働組合法ノ法規ノ下ニ支配サレル人ハ、僅カノ人ニ違ヒナイ、併ナガラ其勞働者ノ後ロニ居ル所ノ、數百万人ノ我國ノ民衆、大衆ト云フモノハ、勞働者ニ同情ヲ表シテ居ルノデアリマスカラ、此場合ニ思想問題ノ上カラ考ヘテモ、勞働立法ヲ爲シテ、サウシテ玆ニ大衆ノ思想ノ流レヲ善導シ、利導シテ行クト云フコトハ、我國ノ政治ニ最モ大切ナコトト考ヘテ居ルノデアリマス云々」是ガ内務大臣ノ御答ヘノ一節デアリマス、勞働組合ト云フモノハ内務大臣ノ仰ッシャルヤウニ、經濟組合デアル、別ニ思想善導ノ組合デハナイト思フノデアリマスルガ、所謂今日ノ思想問題ト云フモノハ所謂經濟思想ノ問題ダ、經濟ニ基ク所ノ問題デアリマスルカラ、此勞働組合ヲ通シテ思想ノ善導ヲサレルト云フコトハ決シテ間違ヒデモナシ、又不可能デモナイト思フノデアリマスケレドモ、只今玆ニ提出サレマシタ所ノ、斯ウシタ勞働組合法ノ制定ニ依ッテ、果シテ今日ノ日本ノ民衆ガ率イラレルモノデアラウカドウカ、若シ今日ノ日本ノ勞働階級、及ビ其ノ背後ニ居ル所ノ所謂内務大臣ノ言ハルル數百萬ノ大衆ノ思想ガ、ドウシテ此組合法ニ依ッテ善導サレル見込ミガアルダラウカ、私ハ其點ニ於テ多少ノ疑ヒナキヲ得ナイノデアリマス、今回勞働組合法ガ提出サレマスト云フコトニナリマシテカラ、資本家團體ノ方面ニ於テハ非常ニ熱心ナ反對ノ運動ガ續ケラレテ來タノデアリマス、今日モ盛ンニ運動ガアリ、又過去ニ於テモ猛烈ニ今迄全國ノ資本家ノ方々ガ、是程結束シテ力強イ運動ヲサレタト云フコトハ殆ドナイト言ハレル位ニ熱心ニ、此組合法ノ反對ニ運動シテ來ラレタノデアリマス、然ルニ一方此組合法ニ依ッテ非常ニ深イ利害關係ヲ持ッテ居ル所ノ勞働者ノ側ハドウシテ居ルノカト云フト、最初社會局案ガ出マシタ當時ニ於テハ、左翼ノ連中ハ無論問題ニハ致シマセヌガ、社會民衆黨アタリハ、社會局案ガ大シテ異存ハナイト云フ位ノ態度ヲ執ッテ居ッタヤウデアリマス、然ルニ其後資本家側ノ運動ガ烈シクナッテ、此社會局ノ案ガ覆ヘサレテ、非常ニ變化シタ、違ッタモノガ出テ來ル、非常ニ政府ガ軟化シタノダ、斯ウ云フ風ナ狀態ニナッテ參リマシテ、今日所謂勞働團體ノ連中ハドウ云フ態度ヲ執ッテ居ルカト云フト、殆ド無關心ノ態度ヲ執ッテ居ルヤウニ私ニハ見エルノデアリマス、此所謂勞働階級ノ無關心ナ態度、勞働組合法ガ通ラナクテモ、通ッテモ構ナイ、ドンナモノガ通ッタッテモ俺達ニハ關係ハナイノダト云フヤウナ風ナ、サウ云フヤウナ態度ヲ一般ノ大衆ガ執ッテ居ルト云フ事、其事ヲ考ヘテ見マスル時ニ、私ハ此勞働組合法ト云フモノノ制定ガ決シテ勞働者ノ爲ニ歡迎サレテ居ルノデモナケレバ、又之ニ依ッテ一般ノ大衆ノ思想ガ善導サレルトハ私ニハ考ヘラレナイノデアリマス、若シ斯ノ如ク勞働組合法ガ成立ヲ致シマシテ、一般ノ民衆ガ、勞働階級ノ人ヤ、又一般ノ民衆ト云フモノガ、是ニ對シテ何等ノ共鳴モ感激モナイト致シマシタナラバ、日本ノ勞働運動ハ將來ドウ云フ風ニナッテ行クデアリマセウカ、合法的ノ運動ガ到底其目的ヲ達スルコトガ出來ナイト云フコトヲ考ヘタ時ニ、ソコニ産レテ來ル所ノモノハ、當然非合法ノ運動デナケレバナラナイノデアリマス、一般ノ人達ガ此勞働組合法ト云フモノニ對シテ大シタ異議モナイノデ、此制定ニ依ッテ非常ニ思想ガ穩健ニナルノダ、斯ウ云フ風ニ若シ考ヘテ御出デニナルトスレバ、ソレハ非常ナ私ハ見誤リデアルト私ハ思フノデアリマス、資本側ノ方方カラ見レバ、此勞働組合法デモ非常ニ御異議ガアルヤウデアリマス、併シ私ハ先程内務大臣ガ言ハレマシタ此一點ニ於テ共鳴スルノデアリマスガ……此位ノモノハ今日通シテ置クコトノ方ガ無論資本家側トシテ宜イノヂヤナイカト言ハレマシタガ、私ハ別ニソレニ付テハ共鳴ハシナイノデアリマスガ、御尤モナ言葉ト思ハレルノデアリマス、若シ之ヲ段々引延バシテ參リマシタナラバ、恐ラク斯ウ云フモノハ、今年ハ通ッテモ來年ハ通ラヌ、來年ハ通ッテモ明後年ハ通ラナイト云フ風ニ、先ヘ行ケバ行ク程、斯ウ云フモノデハ通ラナクナルト思フノデアリマス、只今モ申上ゲタヤウニ、今日斯ウ云フヤウニ組合法ノ制定ニ依ッテ日本ノ大衆ノ思想ガ善導出來ルト云フ風ニ御考ヘニナルノデアルナラバ、私ハソレハ見當ガ違ッテ居ルト思フノデアリマス、少シタ意見

ノヤウニ互ッテデ甚ダ恐縮デアリマスガ、私ノ今ノコトニ付テ御伺ヒシタイノハ、先程ノ內務大臣ノ言葉ヲ朗讀イタシマシタガ、之ニ依ッテ所謂勞働階級及ビ其背後ニ居ル所ノ多數ノ大衆ノ思想ヲ善導スルノダト仰シヤイマシタ、或ル所ヲ拜見スルト、ソレガ殆ド此勞働組合法制定ノ根本ノ目的デアルカノ如クニモ仰シヤッテ居ルノデアリマス、若シソレ程重大ナモノデアルト致シマシタナラバ、此組合法デハ恐ラク其目的ハ達セラレナイト私ハ考ヘマスガ、本當ニ內務大臣ハサウ云フコトヲ信ジテオ居デニナルノデアリマセウカ、若シ信ジテオ居デニナルトスルナラバ、現在ノ日本ノ大衆ノ思想ト云フモノニ對シテ、ドウ云フ風ニ御理解ニナッテ居ルノデアリマスカ、其點ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス、只今ノ所ニ關聯シテ一言申述ベタイト思フノデアリマスガ、先日來此思想問題ト云フモノガ色〻ナ方面デ論議ヲ重ネラレマシテ、豫算分科豫算總會ニ於キマシテモ、內務省文部省方面ニ於キマシテハ、殊ニ此思想問題ガ非常ニ論議サレタノデアリマス、トコロガ私ハ今ノ思想問題ノ取扱ヒ方ガ、ドウモ皆間違ッテ居ルト云ッテハ甚ダ失禮デアリマスガ、居ルノデハナカラウカト云フ節ガアルノデアリマス、ソレハ丁度今日ノ所謂サウシタ多少進ンデ居ル所ノ思想ト云フモノヲ、何カ病氣ノ黴菌ト同ジヤウニ考ヘテ御居デニナルノヂヤナイカ、何カ思想ガヨソノ國カラ日本ニ這入ッテ來ルト云フコトヲ、丁度上海カラ東京神戶アタリニ「ペスト」ヤ「コレラ」ガ這入ッテ來ルノト同ジヤウニ考ヘテ居ルノヂヤナイカ、チヨットソレニ觸レバ、非常ニ熱デモ出ルト云フ風ニ、所謂今日ノ非常ニ進步シタ思想ト云フモノヲ、危險思想ソノモノダ、危險ダト云フ風ニ考ヘテオ居デニナルノヂヤナイカ、サウシテソレニ對スル所ノ態度ト云フモノガ、唯何デモ取締レバ宜イノダ、斯ウ云フモノニ引掛ッタモノハドッカ箱ノ中ニ入レテシマッテ、サウシテ何デモ彼デモサウ云フモノヲ撲滅スレバ宜イト云ッタヤウナ、所謂無暗ニ棒切ヲ持ッテ鼠ヲ追廻スト云フコトヲ繰返シテオ居デニナルノヂヤナイカ、ドウシテ取締ラナイノダ、ドウシテ善導シナイノダ、唯ソレナラバ、明ケテモ暮レテモソレバカリヤッテ居ラレルヤウナ傾キガアルノヂヤナイカ、私ハ思想問題ト云フモノハ、サウ云フコトデ決シテ解決サレルモノデモナケレバ、善導サレルモノデモナイト考ヘルノデアリマス、ソレハ先程モ申上ゲマシタ、所謂此思想問題ト云フモノハ、經濟ニ關係ガアリ、今日ノ經濟組織カラ來テ居ル、平タク言ヘバ、所謂今日ノ日本ノ產業ト云フモノガ、生產ニ重キヲ置カレ過ギテ、分配ト云フモノガ割合ニ輕ンゼラレテ來タ、所謂分配ノ不公平ト云フコトカラ、生活問題、失業問題、サウ云フモノヲ生ンダ爲ニ、此思想問題ハ生レテ來テ居ルト、私ハ信ズルノデアリマス、唯無暗矢鱈ニ思想ヲ持ッテ居ル者ヲ追ヒ廻ハスト云フコトデ、決シテ是ハ解決スルモノデハナイノデアリマス、其證據ニハ、是ハ少シ極端ナ例カモ知レマセヌガ、所謂過激思想ヲ持ッテ居ル所ノ人トシテ、世ノ中カラ注目ヲ受ケタ人ノ中ニハ、決シテ內ガ貧乏デアッテ食ヘナイト云フ所ノ家庭ノ人バカリデハアリマセヌ、又地位身分ノ低イ方バカリデハアリマセヌ、隨分中ニハ立派ナ家庭ノ方ガアル、立派ナ地位ノ身分ノ家ノ息子サンガアル、何等不自由ノナイ、生活ノ不自由モナケレバナンニモナイトコロノ家庭ノ方デモ所謂サウシタトコロノ思想ヲ有ツトコロノ人ガ現ハレテ來ル、ナゼ出ルノダ、私ハ其處ニ考ヘベキ一ツノ點ガアルト思フノデアリマス、是ハ所謂社會ノ不正義ニ對スル、正義デナイトコロノ社會ニ對スル一ツノ義憤デアルト私ハ思フノデアリマス、理論的カラ來タルモノモアリマセウ、又今日ノ社會ニ於テ非常ニ不公平ナル分配ガ行ハレテ、一方ニ非常ナ富ンデ居ル者ガ出來レバ一方ニ非常ニ貧シイ者ガ出來ル、失業者ガ出來テ、食ヘナイ者ガ出ル、此今日ノ社會狀態ニ對スル一ツノ義憤ト云フモノガ、サウシタ滿足ナ家庭ニ生レタトコロノ青年ヲシテ、純眞ナ青年ヲシテ、サウ云フ精神ヲ懷カシメルヤウニナッタノダト、私ハ考ヘルノデアリマス、從ッテ私ハ此思想問題ト云フモノガ單ニ今日ノ、只今申上ゲタヤウナ勞働組合法、此程度ノ勞働組合法ヲ作ラレルト云フヤウナコトニ依ッテ、或ハ內務省ヤ文部省邊リノ御方針ニ依ッテ、是ハ決シテ解決サレルモノデナイト云フコトヲ固ク信ズル者デアリマス、然ラバドウ云フ方面ニ手ヲ染メレバ此解決ノ途ガアルカ、是ハ非常ニ大問題ダラウト思ヒマスルガ、先日……大藏大臣ガ御出席デアレバ私ハ伺ヒタイト思ッタノデアリマスガ、先日衆議院ノ何カノ委員會ニ於キマシテ、委員會ガ始マリマスル前ニチヨット時間ガアッタ、其時ニ大藏大臣ガ淺原健三君ト資本主義ト社會主義ノコトニ付テ論議サレマシタ、其事ガ新聞ニ出テ居ッタノヲ私ハ拜見シタノデアリマス、大藏大臣ノ御言葉ニ、淺原君ハ資本主義ハ崩壞スルト言ッテ居ルケレドモ、自分ハ資本主義ガ崩壞スルトハ思ハナイ、唯併シ資本主義ガ多少ノ改訂ヲサレルモノデアルトハ考ヘラレルケレドモ、崩壞スルモノデハナイト、斯ウ云フコトヲ大藏大臣ガ御話ニナッタト云フコトヲ新聞デ拜見シタノデアリマス、私ハ大藏大臣ニ御伺ヒシタイノハ、大藏大臣ノ所謂資本主義ト云フモノノ今日ノ經濟組織ガ、何等カノ點ニ於テ改訂サルベキモノデアルト御考ヘニナッテ居ル、其點ニ付テ、私ハ伺ヒタカッタノデアリマス、私ハ今日ノ思想問題ヲ解決スル爲ニハ、或ル程度マデサウシタ根本義ニ多少觸レルト云フコトデナケレバ、私ハ此問題ノ解決ハ可成リ難シイト云フ風ニ考ヘルノデアリマス、英吉利ハ社會政策ノ爲ニ非常ニ多額ノ費用ヲ使ッテ居ルヤウデアリマス、若シアレダケノ社會政策ノ費用ヲ日本ノ財政デ使ハナケレバナラナイヤウナコトニナッタナラバ、日本ノ國ハ潰ブレテシマフノダト云フコトヲ、或ル人ガ言ヒマシタガ、英吉利ハ色〻ナコトノ社會政策ノ爲ニ金ヲ使ッテ、今日デハモウ非常ナ多額ノ費用ヲ社會政策ノ爲ニ使ッテ居ルノデアリマス、一方ニ資本主義ノ經濟組織ニ依ッテ資本家ガ澤山ノ利益ヲ得テ、其資本家ノ利益ニ對シテ段々重イトコロノ稅ヲ課シテ、ソレカラウント稅ヲ取ッテ、サウシテ其稅金ヲ以テ、所謂社會政策ト云フモノヲヤッテ居ルト云フノガ英吉利ノ現狀デアリマス、其英吉利ハ果シテ將來ドウ云フ望ミガアルカ、殆ド行詰ッテ居ルンヂヤナイカト云フ風ニ言ハレテ居ルノデアリマス、從ッテ所謂自由競爭主義デアル所ノ資本主義ニ依ッテ、イクラデモ金ハ儲ケラレルナラバ、勝手ニ儲ケテ宜シイ、斯ウ云フ風ニシ

テ置イテハ、其儲ケタ金ヘ持ッテ行ッテ税金ヲウントカケテ、其税金ニ依ッテ一方ニ社會政策的施設ヲ無暗矢鱈ニドシドシスル、斯ウ云フヤリ方ガ果シテ宜イノデアルカ、或ハ又一方ニ於テ多少ノ制限ヲ加ヘマシテ、無暗ニ利益ヲ得ルト云フコトニ多少ノ制限ヲ加ヘマシテ分配ヲ公平ナラシメテ、寧ロ社會政策ニ金ヲ使フコトヲ輕減スルコトノ方ガ利巧デハナイカ、此二ツノ途ガ我等日本ノ將來ニ横ハッテ居ル所ノ一ツノ途デハナイカト私ハ思フノデアリマス、話ガ大分意見ニ亙リマシテ又甚ダ外レマシテ恐縮デアリマシタ、私ノ御尋イタシマシタコトハ甚ダ明瞭ヲ缺イテ居ッタカモ知レマセヌガ、最初ノ勞働組合法ノ制定ニ至リマス迄ノ政府ノ執ラレタ態度ニ對シテ私ハ多少ノ疑ガアリマス、甚ダ明瞭ヲ缺ク點ガアリマスノデ、安達內務大臣トシテ果シテドウ云フ組合法ヲ制定スルコトガ最モ理想的デアッテ宜シイノカト云フコトニ付テ、腹藏ナイ御意見ヲ伺ヒタイト思ヒマス、ソレカラ法文ノ第一條、第十二條、第十三條竝ニ社會局案ノ十三條ト云フコトニ付テ何故ニサウ云フ法律ヲ或ハ挿入シ或ハ削除セラレタカト云フコトノ理由ヲ承リタイト思ヒマス、最後ニ只今申上ゲマシタ勞働組合法制定ニ依ッテ思想ノ善導ヲスルンダト、斯ウ云フ風ナコトヲ內務大臣ハ言明サレマシタガ、此組合法ニ依テ果シテ思想ノ善導ガ出來ルモノデアル カドウカト云フコトニ對シマシテ、私ハ多少ノ疑ガアリマスノデ、政府ノ御所見ヲ質シマシタ次第デアリマス

〔國務大臣安達謙藏君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(安達謙藏君)　只今有馬伯爵ノ御質問ニ對シマシテ御答イタシマスガ、第一ハ此法案ヲ制定イタシマシタ所ノ沿革ニ付テノ御話デアリマシタガ、從來政府ガ執リタル所ノ態度ニ付テ前後矛盾シタル所ガ多イデハナイカト云フ御言葉デアリマシタ、今回ガ三回目デアル云々ト云フ御話デアリマシタガ、成程憲政會ノ時代ニ出シマシタコトカラ數ヘマスト三回ニナリマス、併シ民政黨ト致シマシテハ此度ガ初メテデアリマスガ、私曩ノ憲政會員トシテ此二回出シマシタ時ニモ關係イタシテ居リマスガ、其時ノコトト今日ノコトト何等關係ハゴザイマセヌト云フコトヲ申上ゲテ置キマス、此度ノ案ヲ提案イタシマスルニ付キマシテハ、有馬伯モ種々御疑念ガアルヤウデアリマシタガ、實際ニ於キマシテ私先刻モ大要御話イタシマシタガ、何等蟠リノアルコトデナクシテ、虛心坦懷ニ眞相ヲ話シテ居ルノデアリマシテ、最初社會政策審議會デハ、現內閣ガ出來マシテカラ六箇月間ヲ期シテ審議ヲ致シタノデアリマス、サウシテ一通リノ案ヲ得マシタ、得マシテ普通申シマシタラバ、斯カル審議會ノ答申ニ依ッテ社會局ガソレヲ基礎トシテ立案イタシマシタナラバ、其草案ハ祕密ニシテ置クガ普通ダラウト考ヘマスガ、ソレヲ社會局デ草案ガ出來ルヤ否ヤ直チニ之ヲ世間ニ公表イタシマシテ、サウシテ輿論ニ問ウテ見タノデアリマス、其後議會ガ解散ニナリマシテ遂ニ提案スルニ至ラナカッタノデアリマスガ、其前後カラ私ガ大阪アタリニ參リマス車中談話トカ東京アタリデモ度々聞カレタコトガアリマスガ、色々新聞ノ記事ニ付テノ御話モアリマシタガ、私一々ソレヲ辯解イタシマセヌガ、一度モ絕對ニ之ヲ此社會局案デ押切ルトカ、固ク執ッテ押通スト云フ言葉ヲ使ッタコトハアリマセヌ、茲ニ社會局案トシテ出來テ居リマス以上ハ、ソレハ世論ニハ問ウテハ居リマスモノヽ、私當局者ト致シテ此案ハココヲ修正スルトカ、ココヲドウスルトカ言フヤウナコトハ輕率ト考ヘマス、若シ正面カラ尋ヌル人ガアッタナラバ、現在今迄ニ於テハ現在社會局案デ行クト云フコトガ是ハ當然ノコトト思ヒマス、又折角出來タモノヲ、世論ニ問フテ居ルノヲ、ソレガドノ點ガ宜シクナイ、此點ハ宜シクナイト云フコトヲ主管大臣ガ批評スルト云フコトハ、セナイノガ當然ト考ヘテ居リマス、私各條項ニ付テ觸レテ御話シタコトハアリマセヌ、固ク執ッテ動カサナイ、押切ルト云フコトモ申シタコトガアリマセヌ、要シマスルニ何等蟠リナク、從來ノ憲政會內閣時代ニ出シマシタ案ヲ無論參考ニシ、其他ノ案モ參考ニシテ、實業家ノ意見ヲ聞キ、勞働者側ノ意見ヲ聞イテ、サウシテ最モ適正ト考ヘル所ノモノニ最後ノ決心ヲシヤウト云フ考デ居ッタノデアリマス、ソレヨリ外ニ私何等考ハアリマセヌカラ、現在出來マシタ案ガ私ノ最モ宜シイ案ト考ヘマシテ贊成シタ次第デアリマシテ、他ニ別ニ考ガアッテ、已ムヲ得ズ斯ウ云フ案ヲ拵ヘタノデハナイカト云フ御疑念ハ、全然御無用ト考ヘマス、私ガ此提案ヲ致シマシタモノヲ最善ナモノデアルト云フコトヲ確信イタシテ居リマス、而シテ第一條ノ事ニ付キマシテ勞働條件ノ維持改善ト云フヤウナコトガ目的デアッテ、是ガ其社會局案ガ一番適當デアル、最モ宜シキモノデアル、之ニ他ノ共濟、修養等ノ事ヲ加ヘタノハ宜シクナイ、是ハ有馬サンノ御意見トシテハ……確ニ御一個ノ御意見トシテ徹底イタシテ居リマス、併ナガラ、私ノ考デハ勞働條件ノ維持改善ノミナラズ、之ニ共濟、修養、其他ノ共同利益ノ保護增進ト云フヤウナコトヲ加ヘマシテ、サウシテ經濟團體トシテ行クコトガ、最モ今日ノ勞働組合ヲ作ルニ穩健中正ニ導ク所以ノ途デアルト云フコトヲ固ク信ジマシタカラ、斯ク致シタ次第デアリマス、就中、產業別、職業別ニ致スガ最モ宜シイ、經濟團體ニスルニハ產業別職業別ニシナケレバナラヌ、ノミナラズ我國ノ勞働組合ノ自然ニ今日迄發達イタシマス所ノ其趨勢モ、產業別職業別ニナッテ居リマス、ソレニ指導精神ヲ發揮イタシマスニハドウシテモ產業別職業別ニシテ行クコトガ當然デアル、一般組合ハ認メナイ、原則トシテハ日本ノ勞働組合ナルモノハ勞働條件維持改善ノミナラズ、共濟修養其他共同利益ノ福利增進ト云フコトニ付テ十分注意シテ居ル、ソレニ向ッテ產業別職業別トシテ進マネバナラヌト云フコトノ、向フ所ヲ第一條ニ示シタノデアリマス、ソレカラ其次ノ第十二條、政治上ノコト、殊ニ選擧運動ニ金ヲ出スコトヲ宜シクナイト云フ規定デアリマスガ、之ニ對シテハ反對ノ御意見デアッタト拜聽致シマシタガ、之ヲ政府ガ選擧運動ニ金ヲ出シテハ宜シクナイト云フコトヲ規定致シマシタノハ、ソレハ勞働組合員モ、個人トシテ有ラユル政黨ニ屬スルコトガ自由デアリマス、又選擧運動ヲスルコトモ自由デアリマス、サリナガラ組合トシテ繼續的ニ選擧ナドニ運動スルヤウナコトハ是ハ宜シクナイ、殊ニ選擧ノ爲ニ組合ノ基金ヲ使フトカ、金ヲ徵收スルト云フヤウナコトガアッテハ穩當ナラズト考ヘマスカラ、ソレデアノ第十二條ノ規定ヲ設ケタ次第デアリマス、是

ハ全然御意見ガ反對ニアッタヤウニ拜聽致シマス、ソレカラ第十三條ハ是モ御贊成デアリマシテ誠ニ結構デアリマス、是ハ御話ノ通リデアリマスカラ强ヒテ申上ゲマセヌガ、唯之ニ罰ヲ設ケナケレバナラヌ、罰金ヲ科スルヤウナコトシナカッタノハ不都合デアル、ソコマデハ私等ノ考デハ社會通念上罰ヲ以テ臨ムト云フコトハ穩當ナラズ、斯ウ考ヘマシタカラ、ソコマデシナカッタノデアリマス、大體ニ於テ此法文御贊成ヲ得タコトハ、私モ誠ニ仕合セト思ヒマス、ソレカラ元ノ社會局ノ十三條、即チ免責規定、之ヲ削ッタノハ宜シクナイト云フ御尋デアリマス、其論モ確ニ世ノ中ニアリマスガ、社會局ノ彼ノ十三條ノ免責規定ハ、アレハ單ニ爭議責任ノ一部ニ觸レタルニ過ギマセヌ、是レバカリデハ爭議責任ノ範圍ガ明瞭ニナッテ居リマセヌ、尚ホ我ガ國ニ於キマシテハ、組合又ハ組合員ガ爭議ニ依ル損害ノ賠償ヲ請求シタ所ノ實例モアリマセヌ、此點ハ爭議責任ニ關スル問題トハ別途ニ攻究シタキ考デ居リマス、ソレカラ最後デアリマス、思想問題ニ觸レマシテ私ノ衆議院ニ於テノ說明ノ言葉ヲ御引キ下サイマシテ御尋デアリマシタガ、確ニ本會議デアリマシタト思ヒスガ、質問ニ應ジテ、御朗讀ニナリマシタヤウナコトヲ答ヘテ居リマス、ソレデ有馬伯ハ斯カル……此程度ノ組合法ヲ以ッテ、如何ニシテ斯カル法案ニ依ッテ民衆ヲ引入レラルルカ、民衆ノ思想ヲ引付ケラレルカ、斯ウ云フ御尋ヤウデアリマス、現在ニ於テハ此法案ニハ資本家ノ方ハ反對デアル、勞働團體ハ無關心ノ態度ヲ持ッテ居ル、一般ノ民衆ハ共鳴ヲセヌ、感激ヲモセヌヤウナ狀態デハナイカ、此程度ニ於テ、多數ノ大衆ヲ私ノ言ッタヤウニ引付ケルコトハ出來ナイダラウト云フ意味ノ御尋デアリマス、此點ハ特ニ申上ゲテ置キマスガ、曩ニモ私此處デ申上ゲマシタヤウニ、此勞働立法ト云フモノハ、今日ノ我國ノ思想上ノ問題ニ大關係ヲ有スルモノト考ヘマス、決シテ此思想問題ノ解決ハ勞働立法ノ目的デハアリマセヌケレドモ、思想上カラ考ヘマシテ、非常ナ大關係ガアルモノト考ヘテ居リマス、成程有馬伯ハ餘程進ンダ御考ヘヲ有ッテ居ラッシヤルヤウニ拜察イタシマシタ、思想上ノ方カラ云ヒマスルト、大分尖端ニ近イ方ノ御言葉ガアッタ、其方カラ考ヘマスト、斯ル此位ノ法案デハ一般大衆ノ思想ヲ引付ケルダケノ値打ハナイ、斯ウ云フコトニ思召スダラウト考ヘマス、ソコガ餘程實際政治ヲスル者ノ考ヘナケレバナラヌ所ト私ハ思フテ居リマス、思想上ノ最モ進歩セル方面カラ考ヘマシタラ、今日ノ思想ノ流レヲ此位ノ生溫ルイ案デ之デ緩和スルト云フヤウナコトハ出來ナイ、善導スルコトハ出來ナイト云フコトニナリマセウガ、私ハ極端ナル思想ヲ持ッタ人ト云フモノハ、之ハ多數デハアリマセヌ、只此所ニ斯ル一ツノ緩和スル材料ガナケレバ、其極端ナラザル思想ヲ有ッテ居ル者マデモ、極端ナル思想ニ感染シ易イ、引込マレ易イ、ソレダカラ斯ル勞働問題ノ如キハ此程度ニ止マルベキゾト云フ、止マルベキ所ヲ知ラシメル事ガ必要ト考ヘマス、此思想ノ流レヲ防ギ止メルト云フコトノ出來ナイト云フコトハ、私ハ曩ニモ申シタ、此思想ヲドウシテ切流スカ、水ヲ治ムルガ如ク堤防ヲ造ッテ堰止メハ出來ナイケレドモ、其堤防ヲ巧ク造ッテ洪水汎濫セシメザルヤウニシナケレバナラヌ、其堤防ノ一ツニハナルト考ヘマス、ソレデ唯今日ノ無產黨、其他ノ代表セラルル人々方ノ言論ニ依テ、ソレガ一般大衆ノ思想カト申シマスト、サウデハナイ、一般大衆ノ思想ハ決シテサウデハナイノデス、唯尖端ヲ行ク人ハ共處ニ極端ナル考ヲ以ッテ居リマスカラ、其極端ナル方ノ人々ニ同化セラレナイヤウニ、引摺ラレナイヤウニ茲ニ穩健中正ナル、或程度ニ止ルベキ所ハ茲ニアルゾ、我ガ國ノ國體ガ、我ガ國ノ社會、政治、總テノ方面カラ考ヘテ、勞働問題ノ解決ハ此堤防ニ依テ解決シナケレバナラヌト云フ、私ハ止ルベキ所ヲ知ラシメタイト云フ考ヘデアルノデアリマス、ソレデ非常ニ進ンダ方ノ考カラ申シマスト、生溫イ、微溫ト思ヒマス、ソレデ思想問題ノ取扱ガ間違ッテ居ルト云フヤウナコトヲ最後ニ兼テノ御考ト拜聽イタシマシタガ、御話ガアリマシタガ、或程度迄ハ伯爵ノ御話ノヤウナコトガナキニシモアラズ、其處ハ餘程大問題デ、是ハ司法官トシテモ又行政官トシテモ、餘程難シイ所デアリマス、此取締ノ緩嚴宜シキヲ得マシテ、サウシテ行クコトハ非常ニ是ハ難シイ所デアル、ソレダカラ、サウ云フ茲ニ難シキ所デアリマスカラ、私ハ今日ノ場合ニ此勞働組合法案、政府ガ拵ヘマシタ勞働組合法案ノ此程度ノモノヲ拵ヘマシテ、サウシテ思想善導ノ材料ニ致シタイ、斯ウ考ヘテ居ル次第デアリマス、唯茲ニ有馬伯爵ノ今ノ御意見ヲ拜聽イタシテ居リマシテ、一方ニ有馬伯ノ御意見ノヤウナ御考ガアリ、又一方ニ曩ニ藤原サンノ御質問ニナッタヤウナ御考ノ御方ガアッテ、確カニ此潮流ハ何處ニモ流レテ居リマスカラ、ソレデ私ハ其眞ン中ヲ行クトハ申シマセヌケレドモガ、其極端ニ走ラズシテ最モ中庸ヲ得タ所ノモノガ今日ノ時代ニ處スル所ノ穩健中正ナル態度デアルト云フコトヲ、固ク信ジテ居ル次第デアリマス

○議長（公爵德川家達君）　本院規則第五十八條ニ依リマシテ是デ散會イタサウト存ジマス、明十九日ハ午前十時ヨリ開會イタシマス、議事日程ハ決定次第御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會イタシマス

午後五時四十六分散會

貴族院議事速記錄第三十三號正誤

頁	段	行	誤	正
四九二	四	一六	自然	自治

內閣印刷局